
ペットに関する市民意識調査
報告書

平成 26 年 6 月

福岡市保健福祉局

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的と調査項目	1
2. 調査の設計	1
(1) 調査の対象と標本の抽出方法	1
(2) 調査の方法と調査時期	1
(3) 調査票の回収結果	1
3. 調査機関	1
4. 調査結果利用上の注意	2

第2章 標本の特性

1. 性別、年齢	3
2. 職業	4
3. 家族構成	4
4. 居住年数	5
5. 住宅の所有形式	5

第3章 調査の結果

1. ペットの飼養状況	7
(1) 飼っているペットの有無と種類	7
(2) 飼っている犬、猫の頭数	9
(3) ペットを飼っている理由	10
(4) ペットを飼っていない理由	12
(5) ペットを飼う予定の有無	14
(6) 犬や猫を飼い始める時の入手先など	16
①犬や猫を飼い始める時の入手先	16
②入手先に動物愛護センターを選ばなかった理由	18
2. 飼っている犬や猫について	20
(1) 飼っている犬や猫が事情により飼えなくなった場合の対処方法	20
(2) 犬猫などのペットを遺棄した場合の罰金刑の認知状況	21
(3) 飼っている犬猫が行方不明になった場合の対処方法	22
(4) 災害時について	23
①避難が必要になった場合の対処方法	23
②動物との同行避難原則の認知状況	24
③災害時に備えたペットのための防災対策	25

(5) 犬を飼うための配慮.....	26
①犬の飼育場所.....	26
②犬の去勢や不妊手術の実施状況.....	27
③犬の「しつけ」.....	28
④犬のかかりつけ動物病院の有無.....	29
(6) 飼い犬の登録.....	30
①福岡市への登録状況.....	30
②登録していない理由.....	31
③鑑札の装着状況.....	32
④鑑札を装着しない理由.....	33
⑤鑑札装着の法律義務の認知状況.....	34
(7) 飼い主の狂犬病予防注射.....	35
①狂犬病予防注射の実施状況.....	35
②狂犬病予防注射を実施していない理由.....	36
③狂犬病注射済票の装着状況.....	37
④狂犬病注射済票を装着しない理由.....	38
⑤狂犬病予防注射済票の装着義務の認知状況.....	39
(8) 猫を飼うための配慮.....	40
①猫の去勢や不妊手術の実施状況.....	40
②猫のかかりつけ動物病院の有無.....	41
(9) 猫のトイレの「しつけ」.....	42
(10) 猫の迷子札等の装着状況.....	43
①猫の迷子札等の装着状況.....	43
②迷子札等を装着しない理由.....	44
(11) 猫の飼育状況.....	45
(12) 飼い猫が近隣に及ぼす迷惑について.....	46
①近隣への迷惑.....	46
②迷惑をかけていると思われる内容.....	47
3. 犬について.....	48
(1) 他人が飼っている犬や野良犬による被害について.....	48
①他人が飼っている犬や野良犬による被害経験.....	48
②被害の内容.....	50
③被害への対処方法.....	52
④被害が起きる原因.....	54

4. 猫について	56
(1) 猫の飼い方についての考え方	56
(2) 野良猫や近所の猫による被害について	58
①野良猫や近所の猫による被害経験	58
②被害の内容	60
③被害への対処方法	62
④被害がなくなる原因	64
(3) 飼い猫の登録制について	66
①飼い猫の登録制導入についての意見	66
②登録制に反対の理由	67
③登録制ができた場合の飼い猫の登録手続き意向	68
(4) まちの中に野良猫がいることについての意見	69
5. 地域猫活動について	71
(1) 地域猫活動の認知状況	71
(2) 地域猫活動への参加意向	73
(3) 自分の住む地域での地域猫活動実施について	75
①自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見	75
②地域猫活動実施に賛成の理由	77
③地域猫活動実施に反対の理由	79
6. 犬や猫の多頭飼育について	80
(1) 近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験	80
(2) 一定数以上の犬猫を飼育する者へ届出義務を課すことについて	82
①届出義務を課すことについての意見	82
②届出義務を課すことに反対の理由	83
7. 調査結果のまとめ	84
使用した調査票と全体結果	87

第1章 調査の概要

1. 調査の目的と調査項目

この調査は犬、猫などのペットに関して、福岡市民の飼養状況や考え方を把握し、今後の動物関係行政を推進するための基礎資料を得ることを目的としている。

調査項目は、主に6つの分野から構成されている。使用した調査票を巻末に収録しているので参照していただきたい。

- ① 調査対象者の属性に関する調査項目
- ② 犬、猫の飼養状況に関する調査項目
- ③ 犬に関する調査項目
- ④ 猫に関する調査項目
- ⑤ 地域猫活動に関する調査項目
- ⑥ 犬や猫の多頭飼育に関する調査項目

2. 調査の設計

(1) 調査の対象と標本の抽出方法

福岡市に居住する20歳以上の男女を調査の対象とし、住民基本台帳から2,000人を無作為に抽出した。

(2) 調査の方法と調査時期

調査票の配布、回収ともに郵送法とし、平成26年5月に調査を実施した。

(3) 調査票の回収結果

配布数2,000票に対し、1,091票の有効回収票が得られ、回収率は54.6%となった。

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
2,000件	1,097件	1,091件	54.6%

3. 調査機関

(株)西日本リサーチ・センター

4. 調査結果利用上の注意

- 数字は、百分比のポイント以下2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は、必ずしも100%ちょうどになるとは限らない。
- 数表、図表、文中に占める「n」は、比率算出上の基数（標本数）である。
- 数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を省略している場合があるので、巻末の調査票を参照のこと。
- 福岡市では、平成7年11月と平成13年10月、平成20年2月にも今夏の調査と同じ調査概要で「ペットに関する市民意識調査」を実施しており、必要に応じて今回の結果との比較を行った。過去の調査の有効回収票と有効回収率は以下の通りである。

	配布数	有効回収数	有効回収率
平成19年度	2,000件	1,095件	54.8%
平成13年度	2,000件	1,074件	53.7%
平成7年度	2,000件	1,038件	51.9%

第2章 標本の特徴

今回の調査で有効回収され、集計・分析の対象となった標本の構成（回答者のプロフィール）は次の通りである。

1. 性別、年齢

回答者の性別は、「男性」が37.3%、「女性」が61.6%となっており、住民基本台帳に比べ「女性」の割合が高くなっている。

年齢は、60歳以上の層で4割以上を占めており、年齢層が高くなるに従い、割合が高くなる傾向がみられる。住民基本台帳と比べると、20代、30代の割合が低く、60歳以上での割合が高くなっている。

このことから、今回の調査に関しては全体的に「女性」と高齢層から多くの協力を得ているといえる。

図 2-1 性別

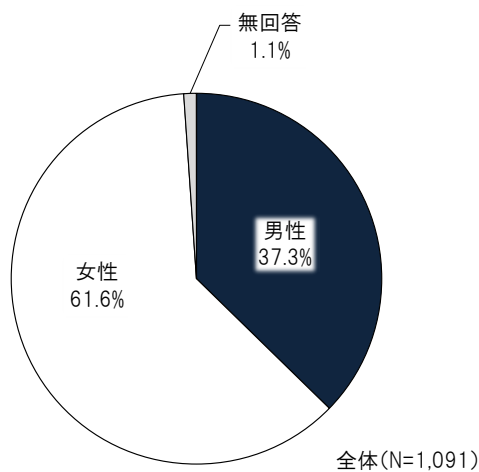


図 2-2 年齢

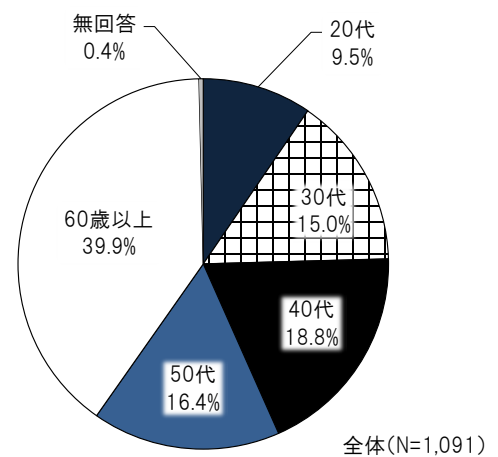


表 2-1 標本の特徴（性別、年齢）

(単位:%)

	標本数	性別			年齢					
		男性	女性	無回答	20代	30代	40代	50代	60歳以上	無回答
全 体	1,091	407	672	12	104	164	205	179	435	4
	100.0	37.3	61.6	1.1	9.5	15.0	18.8	16.4	39.9	0.4
住民基本台帳	1,182,802	550,671	632,131	-	183,525	229,263	220,618	169,919	379,477	-
	100.0	46.6	53.4	-	15.5	19.4	18.7	14.4	32.1	-

注) 住民基本台帳による20歳以上の市民の人口、性別、年齢の構成比は平成26年5月末現在。

2. 職業

職業の有無は「職業あり」が48.4%と最も多く、次いで「主婦」が27.1%、「無職」が19.9%となっている。

性別にみると、男性は63.6%と過半数が「職業あり」であるが、女性は39.7%であり、「主婦」が43.6%と若干上回っている。一方で、「無職」は女性が13.1%であるのに対し、男性は31.0%とかなり多くなっている。

年齢別では、20代は「職業あり」に次いで「学生」が多いが、30代から50代の層までは「職業あり」に次いで「主婦」が多く、60歳以上は「無職」に次いで「主婦」、そして「職業あり」の順となっている。(表2-2)

3. 家族構成

家族構成は「親と子供の世帯(二世帯)」が47.3%を占め、これに「夫婦のみの世帯」が29.5%、「単身世帯」が15.5%と続き、「三世帯以上の世帯」は4.0%と少ない。

性別では、女性で「夫婦のみの世帯」がやや少なくなっている。

年齢別では、20代は「親と子供の世帯(二世帯)」が49.0%と最も多く、次いで「単身世帯」が26.9%となっている。30代から50代の層では「親と子供の世帯(二世帯)」が最も多く、次いで30代では「単身世帯」、40代・50代では「夫婦のみ」の世帯となっている。60歳以上の層では最も多いのが「夫婦のみの世帯」で43.9%、次いで「親と子の世帯(二世帯)」で32.9%となっている。(表2-2)

表2-2 職業、家族構成(性別、年齢別)

(単位:%)

	調査数	職業						家族構成					
		職業あり	学生	主婦	無職	その他	無回答	単身世帯	夫婦のみの世帯	代親と子供の世帯(二世帯)	三世帯以上の世帯	その他	無回答
全体	1,091 100.0	528 48.4	20 1.8	296 27.1	217 19.9	4 0.4	26 2.4	169 15.5	322 29.5	516 47.3	44 4.0	8 0.7	32 2.9
性別	男性	407 63.6	2.0	0.2	31.0	0.5	2.7	12.8	35.6	44.7	4.4	0.7	1.7
	女性	672 39.7	1.8	43.6	13.1	0.3	1.5	17.3	25.7	49.4	3.9	0.7	3.0
	無回答	12 16.7	-	16.7	25.0	-	41.7	8.3	33.3	16.7	-	-	41.7
年齢別	20代	104 66.3	17.3	4.8	8.7	2.9	-	26.9	12.5	49.0	7.7	-	3.8
	30代	164 79.3	0.6	15.9	3.7	-	0.6	18.3	17.1	59.1	2.4	-	3.0
	40代	205 60.0	-	32.2	4.4	0.5	2.9	13.2	19.0	64.9	2.4	0.5	-
	50代	179 59.8	0.6	29.1	8.4	-	2.2	11.2	28.5	51.4	5.0	1.1	2.8
	60歳以上	435 22.8	-	33.8	40.9	-	2.5	14.7	43.9	32.9	4.1	1.1	3.2
	無回答	4	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-

4. 居住年数

居住年数は、「30年以上」が19.2%と最も多く、僅差で「10～20年未満」が19.0%、「5～10年未満」が17.0%、「3年未満」が16.2%、「20～30年未満」が14.2%、「3～5年未満」が8.3%となっている。

性別では、男性が「10～20年未満」、女性は「30年以上」の割合が最も高くなっている。

年齢別では、20代、30代で「3年未満」とする人が最も多く、40代、50代では「10～20年未満」、60歳以上では「30年以上」という人が最も多くなっている。年齢層が高くなるにしたがい、居住年数も長くなっているが、60歳以上でも「30年以上」という人は4割弱である。

表 2-3 居住年数（性別、年齢別）

(単位:%)

	調査数	居住年数							
		3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20～30年未満	30年以上	無回答	
全体	1,091 100.0	177 16.2	91 8.3	185 17.0	207 19.0	155 14.2	209 19.2	67 6.1	
性別	男性	407	17.2	6.6	16.7	20.4	15.5	17.9	5.7
	女性	672	15.9	9.5	17.3	18.3	12.9	20.2	5.8
	無回答	12	-	-	8.3	8.3	41.7	-	41.7
年齢別	20代	104	39.4	10.6	14.4	15.4	14.4	-	5.8
	30代	164	31.7	14.6	27.4	8.5	7.9	6.7	3.0
	40代	205	19.5	15.1	22.9	23.9	6.3	7.8	4.4
	50代	179	11.7	6.1	19.6	28.5	17.3	12.3	4.5
	60歳以上	435	5.3	3.2	9.9	17.7	19.1	36.8	8.0
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	100.0

5. 住宅の所有形式

住宅の所有形式は『持ち家』が「持ち家（一戸建て）」の34.7%と「持ち家（マンションなどの共同住宅）」の25.1%を合わせて59.9%、『借家』が「民間の借家（アパート・マンション）」の20.9%を筆頭に合わせて38.8%となっている。所有形式にかかわらず、住宅の建て方でみると、『一戸建て』が37.6%、『共同住宅』が61.1%となっている。

性別では、ほとんど差はみられない。

年齢別では、20代、30代で「民間の借家（アパート・マンション）」とする人が最も多く、次いで「持ち家（一戸建て）」、「持ち家（マンションなどの共同住宅）」となっている。40代から60歳以上の年齢の高い層では「持ち家（一戸建て）」とする人が最も多い。

居住年数別では、10年未満の層で「民間の借家（アパート・マンション）」が最も多く、10～20年未満の層では「持ち家（マンションなどの共同住宅）」、20年以上の層では「持ち家（一戸建て）」が最も多い。居住年数が長くなるにつれて「持ち家（一戸建て）」の割合が高くなる傾向があり、20～30年以上の層では「持ち家（一戸建て）」が4割以上、さらに30年以上の層になると7割を占めている。

表 2-4 住宅の所有形式（性別、年齢別、居住年数別）

(単位:%)

	調査数	住宅の所有形式											
		持ち家（一戸建て）	持ち家の共同住宅（マンション）	市営住宅	県営住宅	公団・公社の賃貸住宅	民間の借家（一戸建て）	民間の借家（アパート・マンション）	社宅・寮など（一戸建て）	社宅・寮など（アパート・マンション）	その他	無回答	
全体	1,091 100.0	379 34.7	274 25.1	45 4.1	7 0.6	48 4.4	30 2.7	267 24.5	1 0.1	26 2.4	7 0.6	7 0.6	
性別	男性	407	35.9	23.1	4.7	0.5	4.2	2.7	24.3	-	2.9	1.5	0.2
	女性	672	34.5	26.2	3.6	0.7	4.6	2.8	24.9	0.1	2.1	0.1	0.3
	無回答	12	8.3	33.3	16.7	-	-	-	8.3	-	-	-	33.3
年齢別	20代	104	21.2	20.2	1.0	-	3.8	1.0	45.2	-	6.7	1.0	-
	30代	164	20.7	18.3	3.7	0.6	3.0	3.0	44.5	0.6	3.7	1.8	-
	40代	205	28.8	27.8	1.5	0.5	5.4	4.9	27.3	-	3.9	-	-
	50代	179	35.2	29.1	3.4	-	3.4	2.2	25.1	-	1.7	-	-
	60歳以上	435	46.2	26.2	6.7	1.1	5.1	2.3	10.6	-	0.5	0.7	0.7
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
居住年数別	3年未満	177	13.6	17.5	1.1	-	4.5	2.3	53.1	-	6.8	1.1	-
	3～5年未満	91	20.9	17.6	1.1	1.1	7.7	2.2	45.1	-	4.4	-	-
	5～10年未満	185	17.3	29.2	3.2	-	3.8	5.9	36.8	-	3.2	0.5	-
	10～20年未満	207	29.5	42.0	8.7	1.0	3.4	1.4	11.6	-	1.0	1.0	0.5
	20～30年未満	155	45.8	25.8	5.8	-	5.8	3.9	11.0	0.6	-	0.6	0.6
	30年以上	209	70.8	16.3	3.3	1.4	2.9	0.5	3.3	-	0.5	0.5	0.5
	無回答	67	35.8	17.9	3.0	1.5	6.0	4.5	23.9	-	1.5	-	6.0

第3章 調査の結果

1. ペットの飼養状況

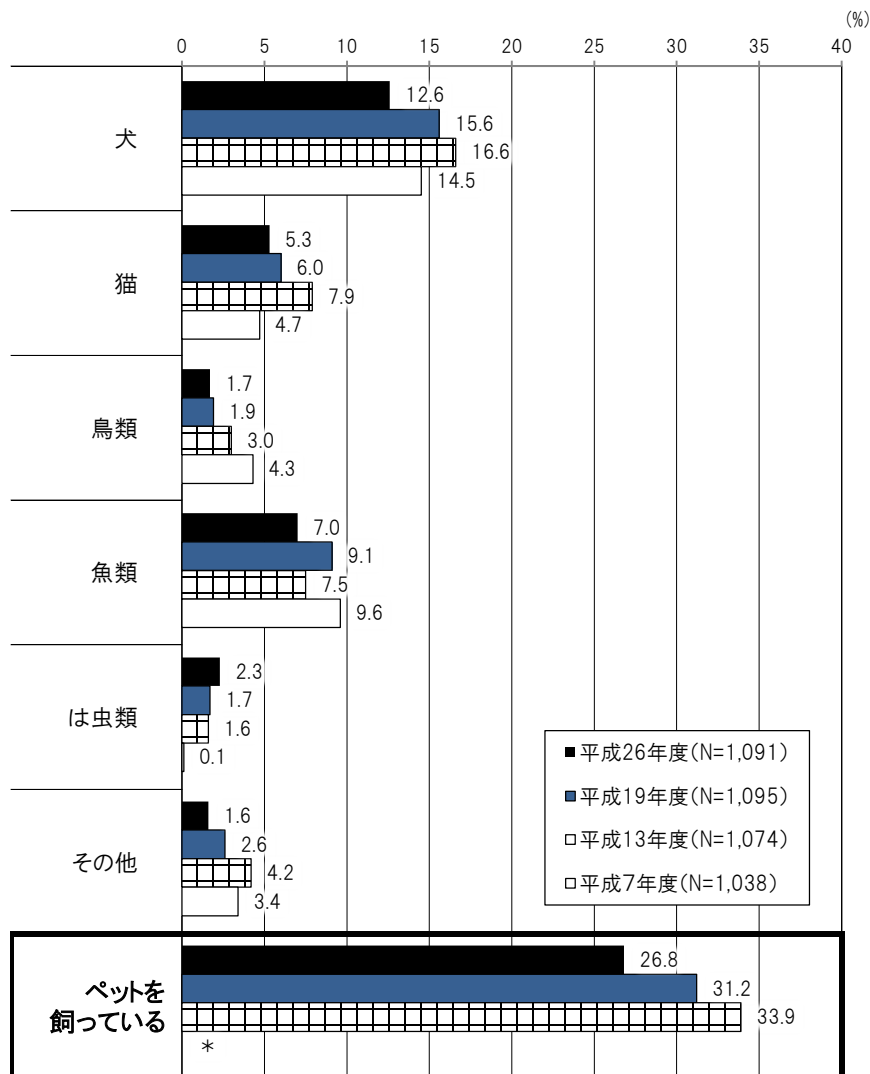
(1) 飼っているペットの有無と種類

問3 【全員】あなたのご家庭では、何かペットを飼っていますか。飼っているものがあれば、いくつでも選び、合わせて飼っている動物の数（頭数、匹数、羽数）を記入して下さい。（〇はいくつでも、〇をつけた番号は数も記入）

家庭におけるペット飼育状況をみると、「飼っている」が26.8%、「飼っていない」が69.3%、「不明」が3.9%となっている。なお、飼っているペットの種類は「犬」（12.6%）が最も多く、次いで「魚類」（7.0%）、「猫」（5.3%）、「は虫類」（2.3%）、「鳥類」（1.7%）、「その他」（1.6%）となっている。

時系列にみると、家庭におけるペットの飼育状況は平成19年度調査より5.5ポイント低く、ペットの種類別にみてもほぼ同様の傾向を示している。

図3-1-1 飼っているペットの有無と種類（複数回答）



注)平成7年度の「ペットを飼っている」割合は不明

性別にみると、男女とも全体結果とほぼ同様の傾向を示している。

年齢別にみると、40代、50代において「ペットを飼っている」という割合が高くなっている。

家族構成別にみると、多世代世帯になるほど「ペットを飼っている」という割合が高く、三世帯以上の世帯は「犬」を飼っている人が多くなっている。

住宅の所有形式別にみると、持家一戸建てにおいて「ペットを飼っている」という割合が高く、持家一戸建てや借家一戸建てに住んでいる世帯は「犬」を飼っている人が多くなっている。

居住地区別にみると、「ペットを飼っている」という割合は南区、西区において高く、この両地区においては「犬」を飼っている人が多くなっている。

地域環境別にみると、「ペットを飼っている」という割合は一戸建てが多い住宅地で高く、この地区においては「犬」を飼っている人が多くなっている。

表 3-1-1 飼っているペットの有無と種類

(性別、年齢別、家族構成別、住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別)

		調査数	犬	猫	鳥類	魚類	は虫類	その他	いずれも飼っていない	無回答	ペットを飼っている
全 体		1,091	137	58	19	76	25	18	756	43	292
		100	12.6	5.3	1.7	7.0	2.3	1.6	69.3	3.9	26.8
性別	男性	407	12.8	4.9	1.5	8.4	3.7	2.0	67.6	3.4	29.0
	女性	672	12.6	5.4	1.8	6.1	1.5	1.5	70.8	3.7	25.5
	無回答	12	-	16.7	8.3	8.3	-	-	41.7	33.3	25.0
年齢別	20代	104	13.5	3.8	-	4.8	2.9	-	72.1	3.8	24.1
	30代	164	9.8	7.3	0.6	9.8	3.7	0.6	72.0	1.8	26.2
	40代	205	14.1	6.3	1.5	13.2	2.9	3.4	63.4	1.5	35.1
	50代	179	16.2	7.3	3.4	3.4	2.8	2.2	64.8	2.8	32.4
	60歳以上	435	11.3	3.7	2.1	5.1	1.1	1.4	72.4	6.0	21.6
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	0.0
	家族構成別	単身世帯	169	5.3	4.1	0.6	3.0	1.8	1.2	85.2	1.8
夫婦のみの世帯		322	11.5	5.0	1.6	6.5	1.6	-	70.8	5.6	23.6
親と子供の世帯(二世帯)		516	14.1	6.4	2.1	8.7	3.3	2.7	64.9	2.9	32.2
三世帯以上の世帯		44	31.8	-	2.3	4.5	-	4.5	52.3	6.8	40.9
その他		8	25.0	12.5	-	-	-	-	62.5	-	37.5
無回答		32	6.3	3.1	3.1	9.4	-	-	65.6	12.5	21.9
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	379	20.3	7.4	2.1	6.1	2.4	1.1	62.0	4.7	33.3
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	274	9.9	4.7	2.6	8.0	1.5	2.6	70.1	2.9	27.0
	市営住宅	45	4.4	-	2.2	4.4	6.7	2.2	68.9	13.3	17.8
	県営住宅	7	-	-	-	-	14.3	14.3	85.7	-	14.3
	公団・公社の賃貸住宅	48	-	-	-	8.3	-	-	91.7	-	8.3
	民間の借家(一戸建て)	30	26.7	10.0	3.3	6.7	6.7	10.0	46.7	-	53.3
	民間の借家(アパート・マンション)	267	7.9	5.2	0.4	7.1	1.9	0.7	76.0	3.0	21.0
	社宅・寮など(一戸建て)	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	26	-	-	-	15.4	3.8	-	80.8	3.8	15.4
	その他	7	28.6	-	14.3	-	-	-	57.1	-	42.9
無回答	7	-	-	-	-	-	-	71.4	28.6	-	
居住地区別	東区	242	9.9	4.1	1.7	7.9	2.5	1.2	72.7	3.7	23.6
	博多区	145	9.0	4.1	2.1	3.4	2.1	0.7	76.6	4.1	19.3
	中央区	104	12.5	6.7	1.9	3.8	1.9	3.8	69.2	2.9	27.9
	南区	178	16.3	7.3	1.1	7.3	1.1	2.2	66.9	1.7	31.4
	城南区	95	11.6	5.3	-	8.4	2.1	2.1	64.2	7.4	28.4
	早良区	154	11.0	5.2	0.6	9.7	3.2	1.3	71.4	1.3	27.3
	西区	169	17.8	5.3	4.1	7.1	3.0	1.2	62.1	6.5	31.4
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	535	7.7	4.1	2.1	7.5	2.1	0.7	75.5	2.6	21.9
	住宅地(一戸建てが多い)	459	17.9	6.5	1.7	6.5	2.8	2.6	62.5	5.0	32.5
	商業地・繁華街	35	11.4	5.7	-	8.6	2.9	2.9	65.7	5.7	28.6
	工場や倉庫が多い地域	14	14.3	-	-	-	-	-	78.6	7.1	14.3
	緑が多い地域	33	18.2	6.1	-	9.1	-	3.0	66.7	3.0	30.3
	無回答	15	13.3	13.3	-	-	-	-	60.0	13.3	26.7

(2) 飼っている犬、猫の頭数

飼っている犬、猫の頭数をみると、いずれも「1頭」と回答する人が最も多いものの、猫の場合「2頭」(27.6%)、「3頭」(8.6%)、「4頭以上」(13.8%)と、複数頭飼育する世帯が50.0%を占めている。平均飼育頭数は、犬が1.18頭、猫が2.22頭となっている。

時系列にみると、犬の飼育頭数はほぼ同様であるが、猫の飼育頭数は大きく増えている。

図 3-1-2 飼っている犬、猫の頭数（単数回答）

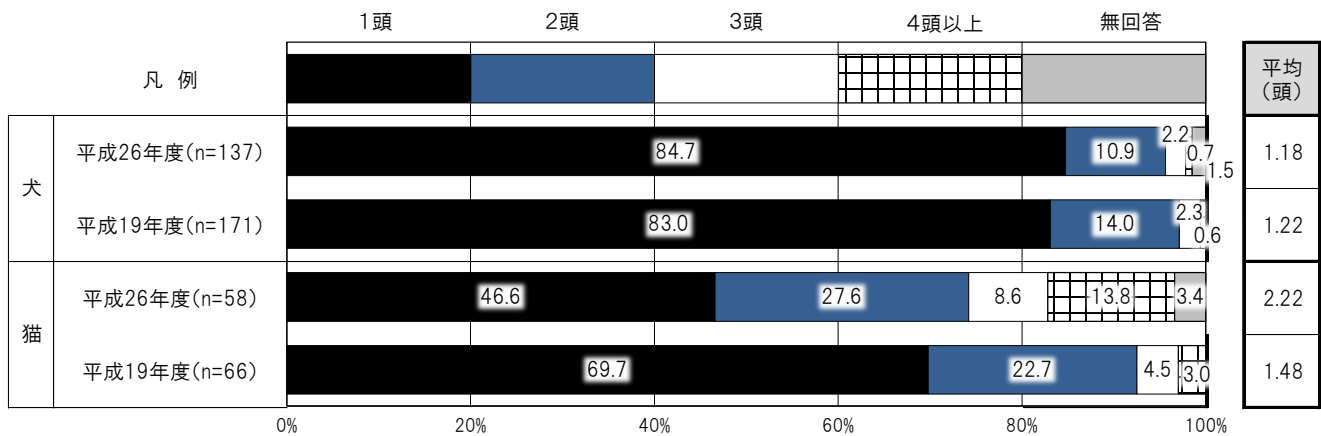


表 3-1-2 飼っている犬の頭数（犬の飼育場所別）

(単位:%)

		調査数	1頭	2頭	3頭	4頭以上	無回答	平均(頭)
全体		137	116	15	3	1	2	1.18
飼育場所別	屋外	12	100.0	-	-	-	-	1.00
	屋内	111	82.9	12.6	2.7	-	1.8	1.16
	屋外と屋内	14	85.7	7.1	-	7.1	-	1.43

表 3-1-3 飼っている猫の頭数（猫の飼育場所別）

(単位:%)

		調査数	1頭	2頭	3頭	4頭以上	無回答	平均(頭)
全体		58	27	16	5	8	2	2.22
飼育場所別	屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている	37	48.6	29.7	13.5	8.1	-	1.84
	散歩やトイレの時などに限り屋外に出すように管理している	3	-	33.3	-	33.3	33.3	2.00
	猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている	7	57.1	28.6	-	14.3	-	1.71
	屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている	1	-	-	-	100.0	-	5.00
	無回答	10	50.0	20.0	-	20.0	10.0	3.80

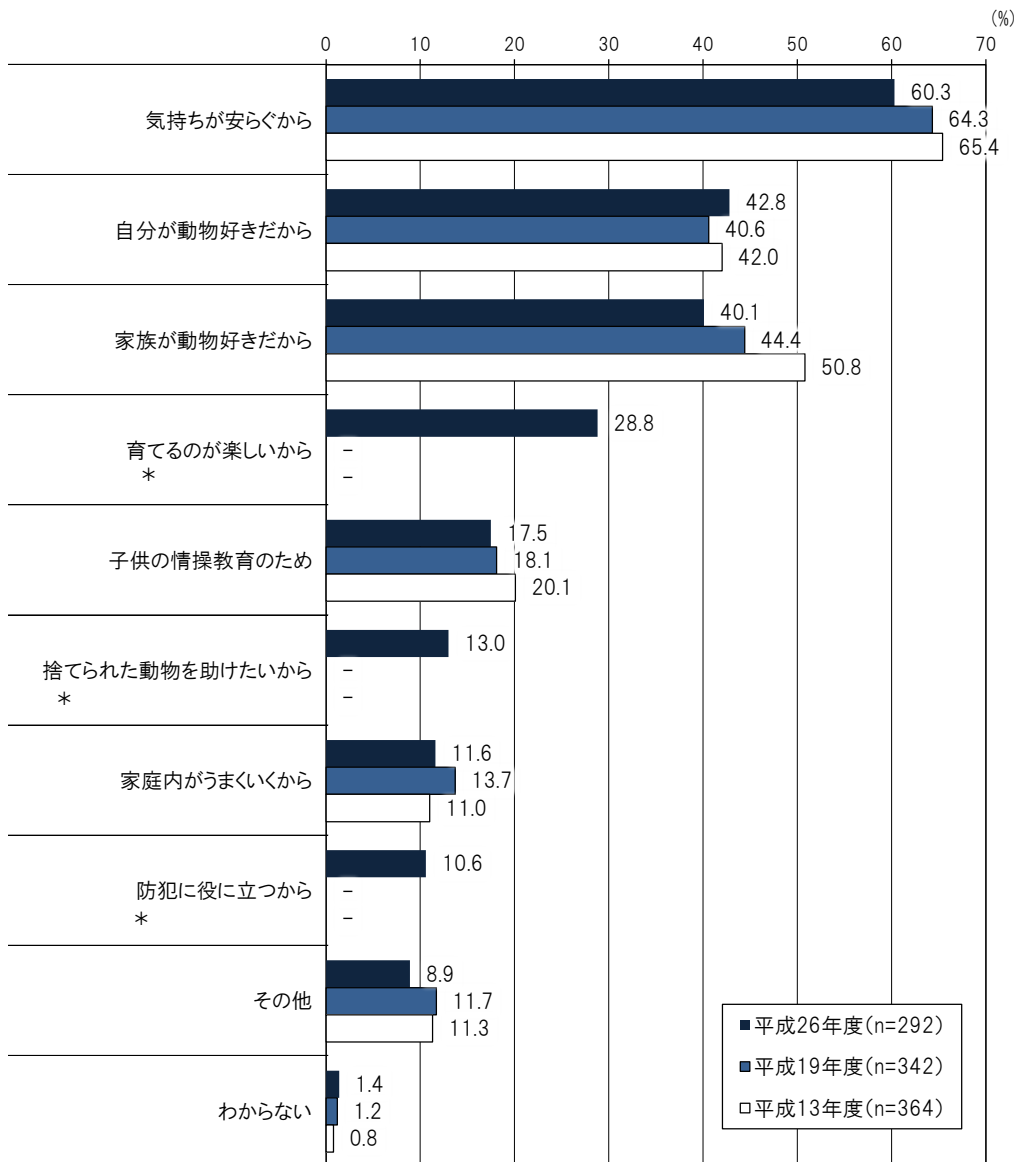
(3) ペットを飼っている理由

問4【ペットを飼っている人】ペットを飼っている理由は何ですか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

ペットを飼っている理由を尋ねたところ、「気持ちが安らぐから」(60.3%)が最も多く、以下「自分が動物好きだから」(42.8%)、「家族が動物好きだから」(40.1%)、「育てるのが楽しいから」(28.8%)と続いている。

時系列にみると、平成13年度調査、平成19年度調査の結果とほぼ同様の傾向を示している。

図 3-1-3 ペットを飼っている理由（複数回答）



注) *は今回調査からの選択肢

性別にみると、女性は男性に比べ「気持ちが安らぐから」、「自分が動物好きだから」、「捨てられた動物を助けたいから」と答える人が多くみられる。

年齢別にみると、40代では「気持ちが安らぐから」、「育てるのが楽しいから」、「子供の情操教育のため」、50代では「家族が動物好きだから」の割合が高くなっている。なお、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、20代は「気持ちが安らぐから」、「自分が動物好きだから」、「家族が動物好きだから」、「育てるのが楽しいから」と答える人が多くみられる。

表 3-1-4 ペットを飼っている理由（性別、年齢別）

(単位:%)

		調査数	気持ちが安らぐから	自分が動物好きだから	家族が動物好きだから	育てるのが楽しいから	子供の情操教育のため	捨てられた動物を助けたいから	家庭内がうまくいくから	防犯に役に立つから	その他	わからない	無回答
全 体		292 100.0	176 60.3	125 42.8	117 40.1	84 28.8	51 17.5	38 13.0	34 11.6	31 10.6	26 8.9	4 1.4	23 7.9
性別	男性	118	55.1	39.8	39.8	29.7	15.3	6.8	11.9	14.4	10.2	3.4	6.8
	女性	171	63.7	45.6	40.4	28.1	18.7	16.4	11.7	8.2	8.2	-	8.8
	無回答	3	66.7	-	33.3	33.3	33.3	66.7	-	-	-	-	-
年齢別	20代	25	80.0	60.0	44.0	40.0	8.0	12.0	4.0	8.0	-	-	-
	30代	43	48.8	48.8	37.2	18.6	14.0	20.9	11.6	7.0	14.0	4.7	4.7
	40代	72	69.4	43.1	37.5	38.9	27.8	13.9	13.9	6.9	4.2	-	12.5
	50代	58	65.5	41.4	46.6	25.9	22.4	13.8	13.8	10.3	8.6	1.7	5.2
	60歳以上	94	50.0	36.2	38.3	24.5	10.6	8.5	10.6	16.0	12.8	1.1	9.6

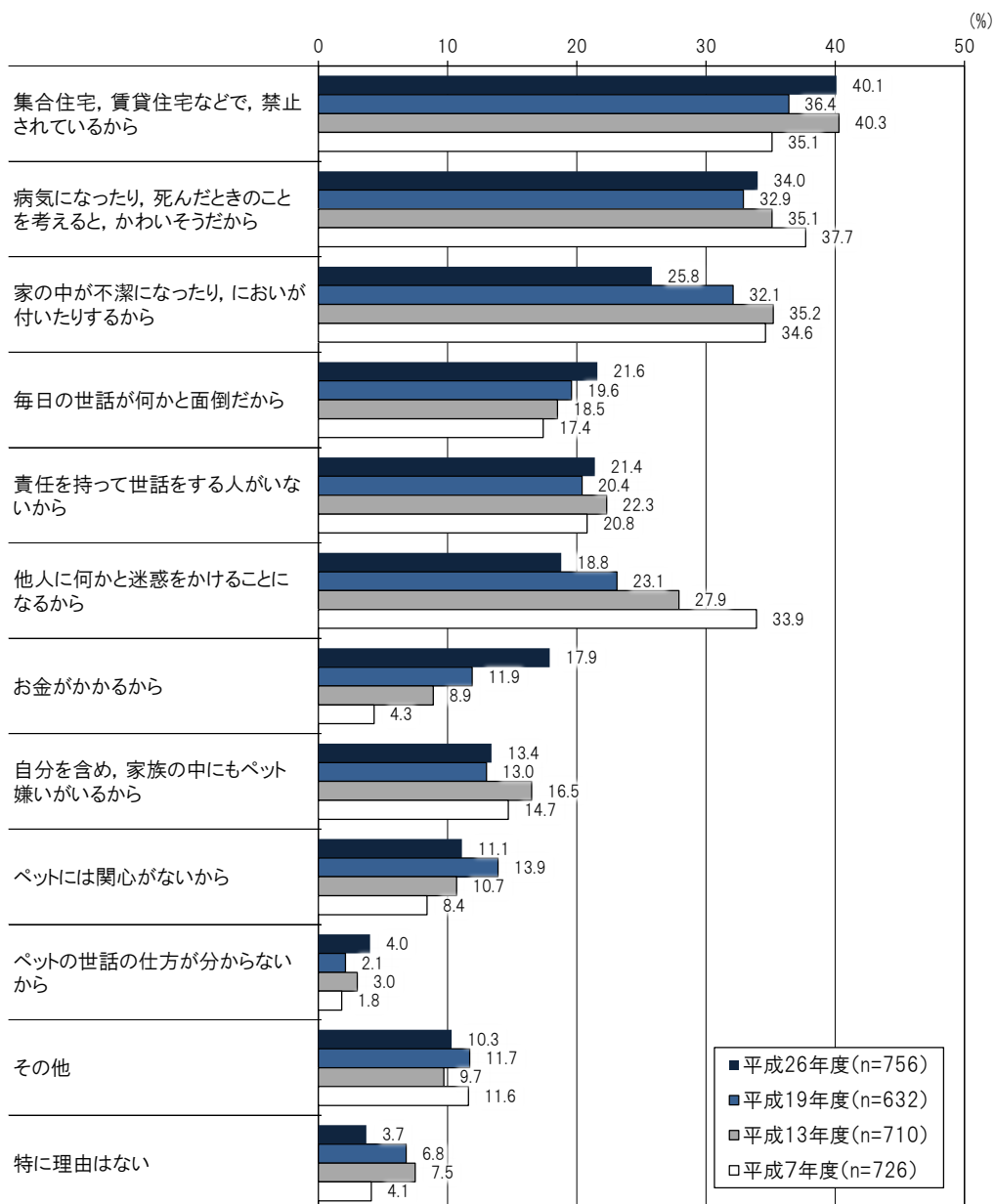
(4) ペットを飼っていない理由

問5【ペットを飼っていない人】ペットを飼っていない理由は何ですか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

ペットを飼っていない人にその理由を尋ねたところ、「集合住宅、賃貸住宅などで、禁止されているから」(40.1%)との回答が最も多く、次いで「病気になったり、死んだときのことを考えると、かわいそうだから」(34.0%)、「家の中が不潔になったり、においが付いたりするから」(25.8%)の順となっている。

時系列にみると、上位3項目の回答結果は同じであるが、「他人に何かと迷惑をかけることになるから」という理由が年々減少する反面、「お金がかかるから」という理由が増加傾向を示している。

図 3-1-4 ペットを飼っていない理由（複数回答）



性別にみると、男女とも全体結果とほぼ同様の傾向を示している。

年齢別にみると、年齢層が低くなるほど「集合住宅、賃貸住宅などで、禁止されているから」と回答する人が、年齢層が高くなるほど「病気になったり、死んだときのことを考えると、かわいそうだから」と回答する人が多くみられる。また、30代、40代では「毎日の世話が何かと面倒だから」、「責任を持って世話をする人がいないから」など、世話が面倒、世話をする人がいないなどの理由が高い割合を占めている。

住宅の所有形式別にみると、「集合住宅、賃貸住宅などで、禁止されているから」と回答する人は当然ながら共同住宅に居住する人で多く、持ち家、借家のいかにかわからず一戸建て住宅では「病気になったり、死んだときのことを考えると、かわいそうだから」が最も多い。

表 3-1-5 ペットを飼っていない理由（性別、年齢別、住宅の所有形式別）

(単位:%)

	調査数	集合住宅、賃貸住宅などで、禁止されているから	病気になったり、死んだときのことを考えると、かわいそうだから	家の中が不潔になったり、においが付いたりするから	毎日の世話が何かと面倒だから	責任を持って世話をする人がいないから	他人に何かと迷惑をかけることになるから	お金がかかるから	嫌いがいるから	自分を含め、家族の中にもペット	ペットには関心がないから	から ペットの世話の仕方が分からない	その他	特に理由はない	無回答	
全体	756 100.0	303 40.1	257 34.0	195 25.8	163 21.6	162 21.4	142 18.8	135 17.9	101 13.4	84 11.1	30 4.0	78 10.3	28 3.7	38 5.0		
性別	男性	275	36.7	36.0	25.5	20.4	23.6	22.2	16.7	12.4	11.3	1.5	7.3	4.4	5.5	
	女性	476	42.0	32.8	25.8	22.1	20.2	17.0	18.5	13.9	10.7	5.5	12.0	3.4	4.8	
	無回答	5	40.0	40.0	40.0	40.0	20.0	-	20.0	20.0	40.0	-	20.0	-	-	
年齢別	20代	75	52.0	22.7	16.0	12.0	10.7	8.0	25.3	12.0	4.0	5.3	9.3	8.0	2.7	
	30代	118	49.2	26.3	24.6	23.7	26.3	11.0	32.2	10.2	8.5	1.7	11.0	2.5	-	
	40代	130	46.2	26.9	22.3	26.9	26.2	13.1	17.7	12.3	11.5	3.8	9.2	3.8	5.4	
	50代	116	38.8	37.1	25.0	16.4	19.8	17.2	14.7	15.5	12.1	4.3	14.7	4.3	6.9	
	60歳以上	315	32.1	41.3	30.2	22.9	21.0	27.3	11.7	14.3	13.3	4.4	9.2	2.9	6.7	
	無回答	2	-	50.0	50.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	235	-	41.3	34.9	31.1	28.5	29.8	19.6	23.8	14.0	6.0	13.2	4.3	4.7	
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	192	43.2	35.9	28.6	20.3	20.3	17.7	16.1	12.5	15.1	4.7	9.4	4.7	5.2	
	市営住宅	31	87.1	29.0	25.8	12.9	16.1	16.1	9.7	9.7	6.5	-	3.2	-	3.2	
	県営住宅	6	66.7	16.7	33.3	50.0	33.3	-	16.7	-	16.7	-	-	-	16.7	
	公団・公社の賃貸住宅	44	81.8	27.3	11.4	9.1	13.6	13.6	6.8	4.5	9.1	4.5	2.3	2.3	6.8	
	民間の借家(一戸建て)	14	21.4	42.9	14.3	14.3	28.6	14.3	21.4	14.3	-	7.1	14.3	7.1	7.1	
	民間の借家(アパート・マンション)	203	65.0	27.6	17.2	15.8	18.7	11.8	20.7	4.4	5.4	2.0	10.8	3.0	4.9	
	社宅・寮など(一戸建て)	1	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	21	61.9	19.0	14.3	14.3	4.8	4.8	23.8	9.5	9.5	-	9.5	4.8	4.8	
	その他	4	25.0	-	25.0	-	-	-	-	50.0	25.0	-	-	-	-	-
無回答	5	20.0	60.0	40.0	40.0	-	-	20.0	20.0	20.0	-	20.0	-	-		

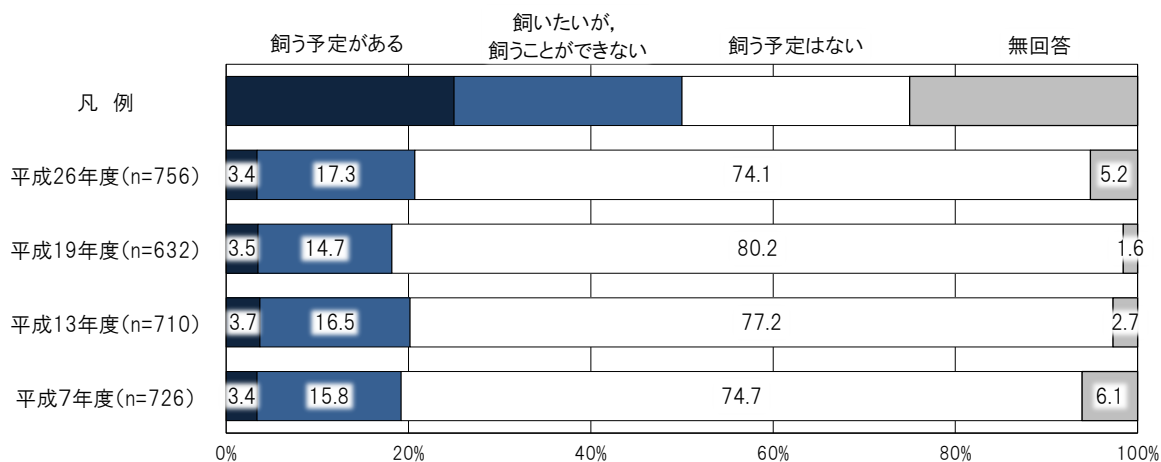
(5) ペットを飼う予定の有無

問6【ペットを飼っていない人】今後、ペットを飼う予定はありますか。それはどのようなペットでしょうか。(〇は1つだけ)

現在ペットを飼っていない人の今後の意向をみると、「飼う予定はない」(74.1%)という回答が大半を占めるが、「飼いたいが、飼うことができない」(17.3%)という人も2割弱みられる。

時系列でみると、大きな傾向の変化はみられない。

図 3-1-5 ペットを飼う予定の有無 (単数回答)



性別にみると、男女とも全体結果とほぼ同様の傾向を示している。

年齢別にみると、年齢層が低くなるほど「飼いたいが、飼うことができない」と回答する人が多く、20代では3割以上を占めている。

住宅の所有形式別にみると、公団・公社の賃貸住宅や民間の借家などで「飼いたいが、飼うことができない」という人の割合が高くなっている。

表 3-1-6 ペットを飼う予定の有無（性別、年齢別、住宅の所有形式別）

(単位:%)

		調査数	飼う予定がある	が飼いたいが、飼うことができない	飼う予定はない	無回答
全 体		756 100.0	26 3.4	131 17.3	560 74.1	39 5.2
性別	男性	275	3.6	14.9	76.0	5.5
	女性	476	3.4	18.5	73.1	5.0
	無回答	5	-	40.0	60.0	-
年齢別	20代	75	8.0	30.7	58.7	2.7
	30代	118	4.2	28.0	66.1	1.7
	40代	130	5.4	26.2	63.8	4.6
	50代	116	5.2	16.4	72.4	6.0
	60歳以上	315	0.6	6.7	85.7	7.0
	無回答	2	-	50.0	50.0	-
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	235	3.8	8.1	83.4	4.7
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	192	2.1	15.6	76.6	5.7
	市営住宅	31	-	19.4	80.6	-
	県営住宅	6	-	16.7	33.3	50.0
	公団・公社の賃貸住宅	44	2.3	29.5	61.4	6.8
	民間の借家(一戸建て)	14	7.1	14.3	71.4	7.1
	民間の借家(アパート・マンション)	203	4.4	25.6	66.0	3.9
	社宅・寮など(一戸建て)	1	-	-	-	100.0
	社宅・寮など(アパート・マンション)	21	4.8	28.6	61.9	4.8
その他	4	-	25.0	75.0	-	
無回答	5	20.0	20.0	60.0	-	

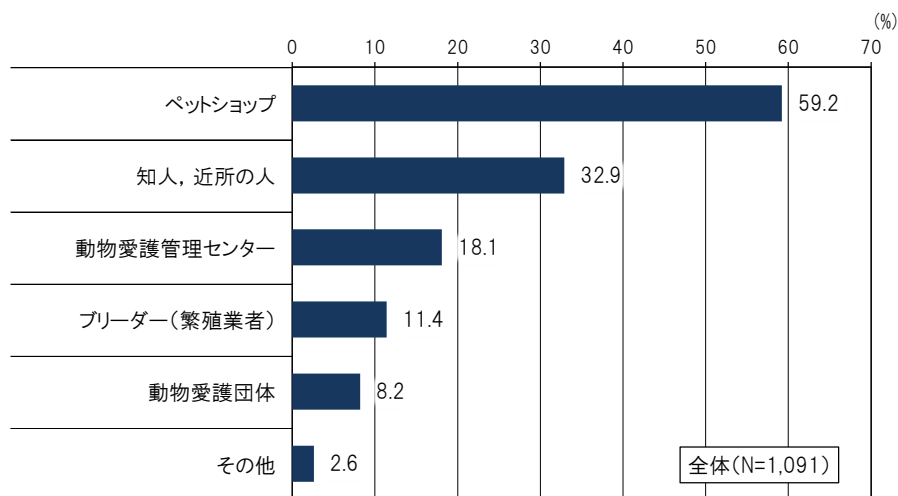
(6) 犬や猫を飼い始める時の入手先など

①犬や猫を飼い始める時の入手先

問2 【全員】 あなたがもし犬猫を飼いはじめる場合、どこから入手しますか。(〇はいくつでも)

犬や猫を飼い始める時の入手先を尋ねたところ、「ペットショップ」(59.2%)が最も多く、以下「知人、近所の人」(32.9%)、「動物愛護管理センター」(18.1%)、「ブリーダー(繁殖業者)」(11.4%)、「動物愛護団体」(8.2%)と続いている。

図 3-1-6 犬や猫を飼い始める時の入手先(複数回答)



性別にみると、男女とも「ペットショップ」での入手者が最も多いが、女性は男性に比べ「知人、近所の人」と回答する人がやや多くみられる。

年齢別にみると、年齢層が低くなるほど「ペットショップ」での入手者が多く、20代では8割弱を占めている。

ペット飼育予定別にみると、飼う予定がある人は「動物愛護管理センター」での割合が高くなっている。

表 3-1-7 犬や猫を飼い始める時の入手先（性別、年齢別、ペット飼養予定別）

(単位:%)

		調査数	ペットショップ	知人、近所の人	動物愛護管理センター	ブリーダー（繁殖業者）	動物愛護団体	その他	無回答
全 体		1,091 100.0	646 59.2	359 32.9	197 18.1	124 11.4	90 8.2	28 2.6	120 11.0
性別	男性	407	60.0	29.7	16.7	9.6	4.9	2.0	11.8
	女性	672	59.1	35.0	18.9	12.2	10.3	2.8	10.0
	無回答	12	41.7	25.0	16.7	25.0	8.3	8.3	41.7
年齢別	20代	104	77.9	25.0	24.0	15.4	14.4	1.0	1.0
	30代	164	72.0	34.8	25.0	15.9	12.8	3.7	2.4
	40代	205	68.3	31.7	21.0	19.0	11.2	2.0	2.0
	50代	179	60.3	34.1	20.1	13.4	7.8	5.0	7.8
	60歳以上	435	45.3	34.3	11.7	3.9	3.9	1.8	21.8
	無回答	4	50.0	25.0	25.0	50.0	-	-	50.0
養 べ ッ 予 定 別 飼	飼う予定がある	26	61.5	23.1	38.5	19.2	11.5	11.5	-
	飼いたいけど、飼うことができない	131	74.0	40.5	33.6	16.8	14.5	2.3	0.8
	飼う予定はない	560	60.0	28.8	11.6	7.3	4.6	0.5	15.2
	無回答	39	61.5	25.6	7.7	5.1	5.1	-	17.9

②入手先に動物愛護センターを選ばなかった理由

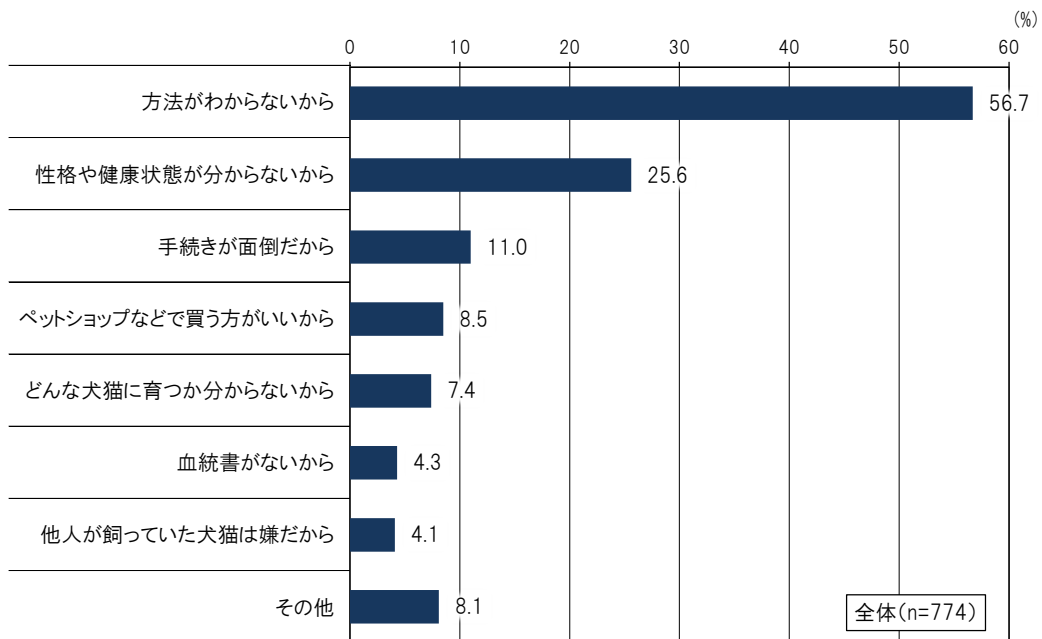
問 2-1 (問 2 で「1. 動物愛護管理センター」と回答されなかった方のみお答え下さい。)

動物愛護管理センターを選ばなかった理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。

(○はいくつでも)

入手先に動物愛護センターを選ばなかった理由を尋ねたところ、「方法がわからないから」と回答する人が 56.7%と高くなっている。それ以外の理由としては、「性格や健康状態が分からないから」(25.6%)、「手続きが面倒だから」(11.0%) などが多くあがっている。

図 3-1-7 入手先に動物愛護センターを選ばなかった理由 (複数回答)



性別にみると、男女とも「方法がわからないから」が中心的な回答でありが、女性は男性に比べ「手続きが面倒」と回答する人がやや多くみられる。

年齢別にみると、すべての年代において「方法がわからないから」が中心的な回答であり、20代～40代の割合は7割程度を占める。

表 3-1-8 入手先に動物愛護センターを選ばなかった理由（性別、年齢別）

(単位:%)

	サンプル数	方法がわからないから	性格や健康状態がわからないから	手続きが面倒だから	ペットショップなどで買う方がいいから	どんな犬猫に育つか分からぬから	血統書がないから	他人が飼っていた犬猫は嫌だから	その他	無回答	
全体	774 100.0	439 56.7	198 25.6	85 11.0	66 8.5	57 7.4	33 4.3	32 4.1	63 8.1	122 15.8	
性別	男性	291	52.9	22.3	13.4	11.0	7.6	5.5	5.8	7.9	16.8
	女性	478	59.2	27.6	9.6	6.5	7.3	3.6	3.1	8.2	15.1
	無回答	5	40.0	20.0	-	60.0	-	-	-	20.0	20.0
年齢別	20代	78	67.9	19.2	10.3	6.4	2.6	3.8	3.8	10.3	9.0
	30代	119	68.1	22.7	9.2	7.6	2.5	5.9	2.5	12.6	7.6
	40代	158	67.7	29.7	8.9	5.7	9.5	3.2	5.1	9.5	8.9
	50代	129	61.2	27.9	10.1	3.1	7.8	3.1	3.1	7.8	18.6
	60歳以上	289	40.8	24.9	13.5	13.5	9.3	4.8	4.8	5.2	23.5
	無回答	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-

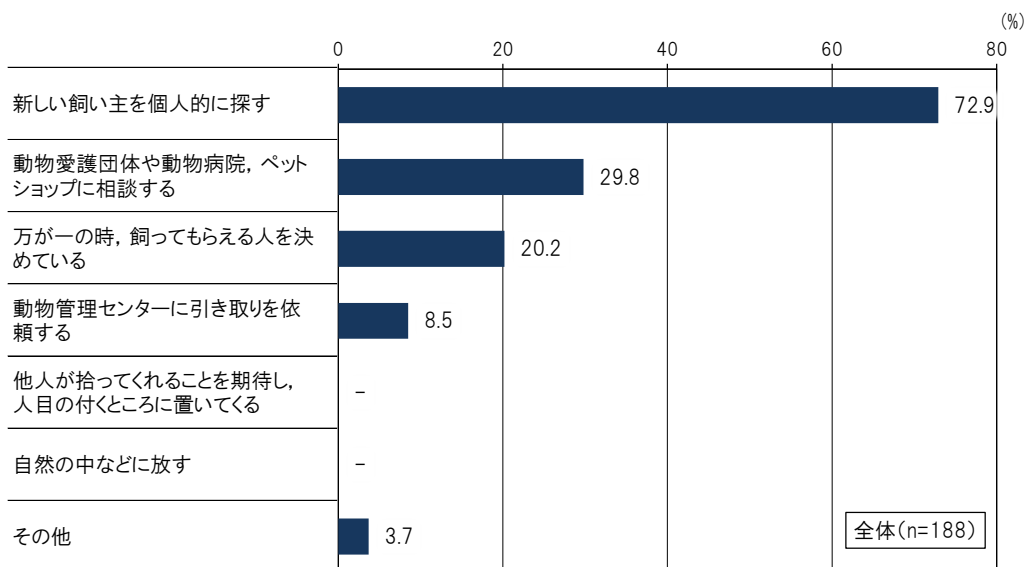
2. 飼っている犬や猫について

(1) 飼っている犬や猫が事情により飼えなくなった場合の対処方法

問7【犬や猫を飼っている人】ご家庭で飼っている犬や猫を事情により飼えなくなった場合どのようにしますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

飼っている犬や猫が事情により飼えなくなった場合の対処方法をみると、「新しい飼い主を個人的に探す」と回答する人が72.9%と圧倒的に高く、以下「動物愛護団体や動物病院、ペットショップに相談する」(29.8%)、「万が一の時、飼ってもらえる人を決めている」(20.2%)、「動物管理センターに引き取りを依頼する」(8.5%)と続いている。

図 3-2-1 飼っている犬や猫が事情により飼えなくなった場合の対処方法（複数回答）

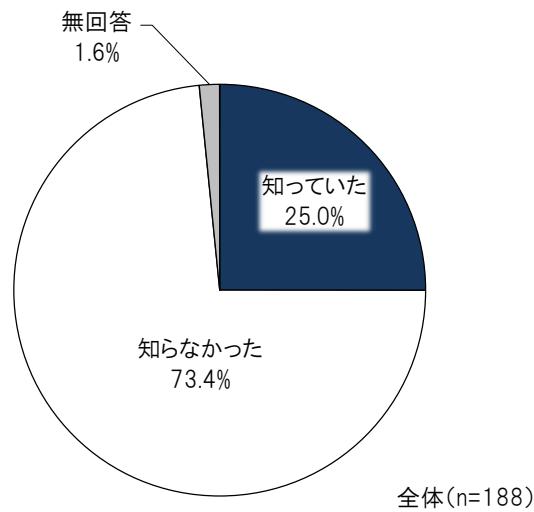


(2) 犬猫などのペットを遺棄した場合の罰金刑の認知状況

問8【犬や猫を飼っている人】犬猫などのペットを遺棄したものは100万円以下の罰金に処せられることを知っていましたか。(○は1つだけ)

犬猫などのペットを遺棄した場合の罰金刑の認知状況をみると、「知っていた」(25.0%)は4人中1人にとどまり、7割以上の方は「知らなかった」(73.4%)と回答している。

図 3-2-2 犬猫などのペットを遺棄した場合の罰金刑の認知状況 (単数回答)

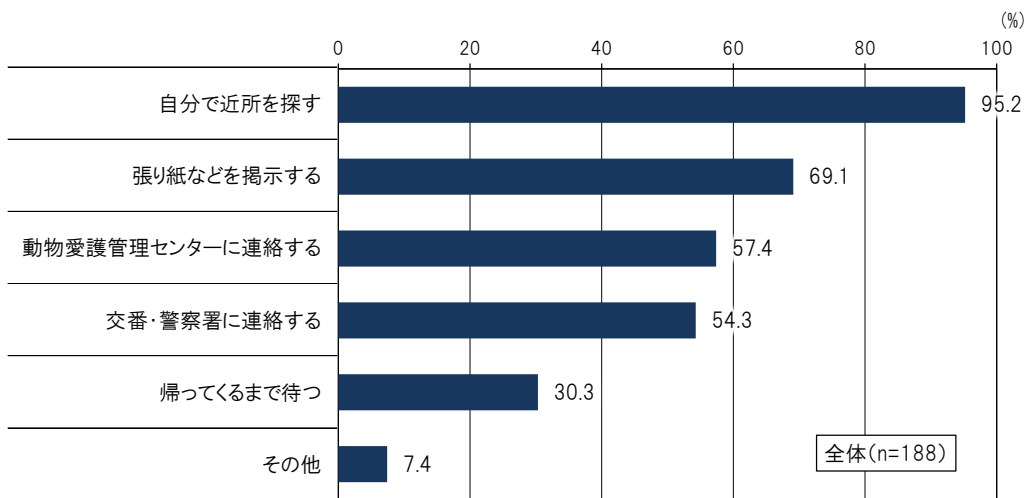


(3) 飼っている犬猫が行方不明になった場合の対処方法

問9【犬や猫を飼っている人】飼っている犬猫が行方不明になった場合、どのようにしますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

飼っている犬猫が行方不明になった場合の対処方法をみると、大半の人は「自分で近所を探す」(95.2%)と回答しており、「張り紙などを掲示する」(69.1%)、「動物愛護管理センターに連絡する」(57.4%)、「交番・警察署に連絡する」(54.3%)など、何らかの手段を講じることを考える人が半数以上を占めている。なお、「帰ってくるまで待つ」(30.3%)と回答する人も3割程度みられる。

図 3-2-3 飼っている犬猫が行方不明になった場合の対処方法（複数回答）



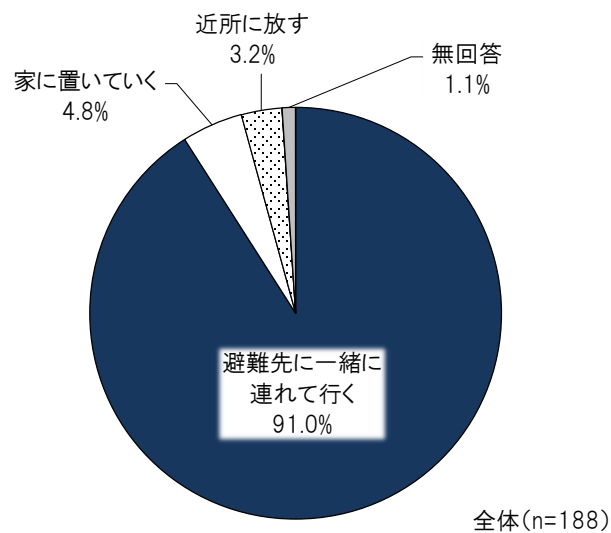
(4) 災害時について

①避難が必要になった場合の対処方法

問 10 【犬や猫を飼っている人】地震や原子力事故など、大きな災害が起き避難が必要となった場合、飼っている動物をどうしますか。(○は1つだけ)

大きな災害が起き避難が必要になった場合の対処方法をみると、大半の人は「避難先に一緒に連れて行く」(91.0%)と回答しており、少数意見ではあるが「家においていく」(4.8%)、「近所に放す」(3.2%)という人もみられる。

図 3-2-4 避難が必要になった場合の対処方法 (単数回答)

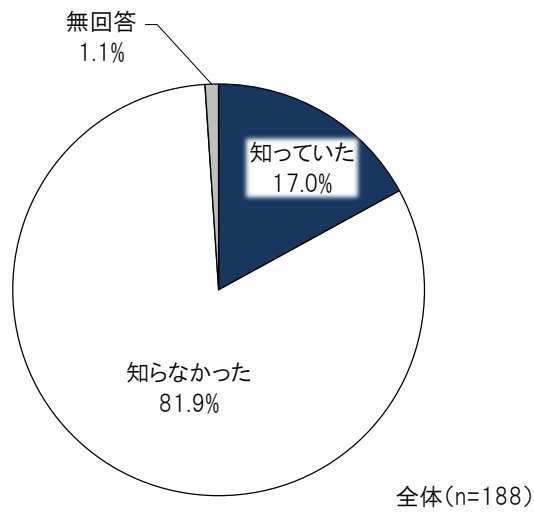


②動物との同行避難原則の認知状況

問 11 【犬や猫を飼っている人】災害により避難する場合、飼っている動物と一緒に避難する同行避難が原則となっていることを知っていましたか。(○は1つだけ)

避難の際に動物との同行避難が原則となっていることの認知状況をみると、「知っている」(17.0%)は2割弱にとどまり、8割以上の方は「知らなかった」(81.9%)と回答している。

図 3-2-5 動物との同行避難原則の認知状況 (単数回答)

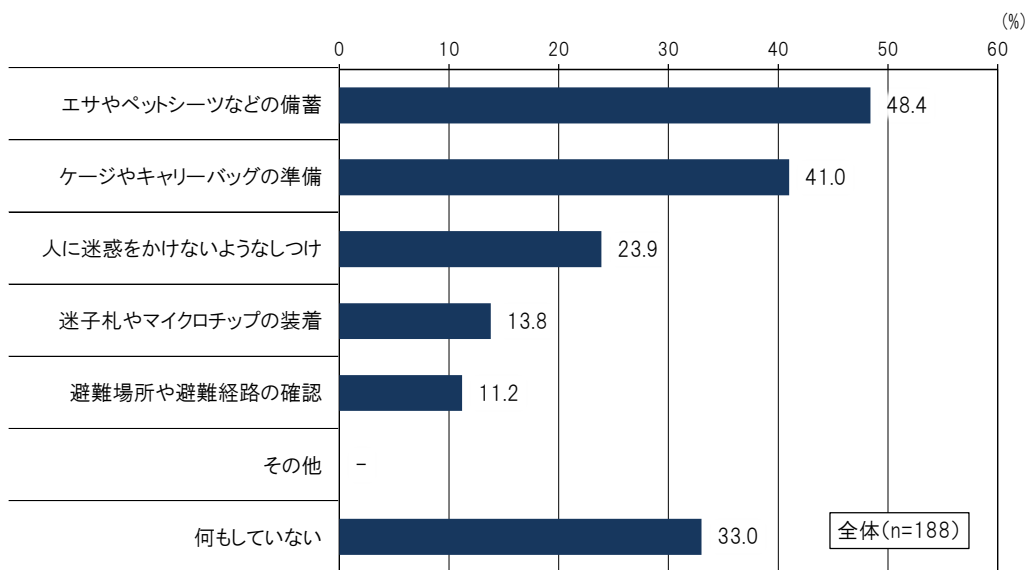


③災害時に備えたペットのための防災対策

問 12 【犬や猫を飼っている人】災害が起きた場合に備え、ペットのための防災対策をしていますか。
あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

災害時に備えたペットのための防災対策をみると、「エサやペットシートなどの備蓄」(48.4%)が最も多く、以下「ケージやキャリーバッグの準備」(41.0%)、「人に迷惑をかけないようにしつけ」(23.9%)、「迷子札やマイクロチップの装着」(13.8%)、「避難場所や避難経路の確認」(11.2%)と続いており、何らかの防災対策を講じる人が67.0%を占めている。

図 3-2-6 災害時に備えたペットのための防災対策（複数回答）



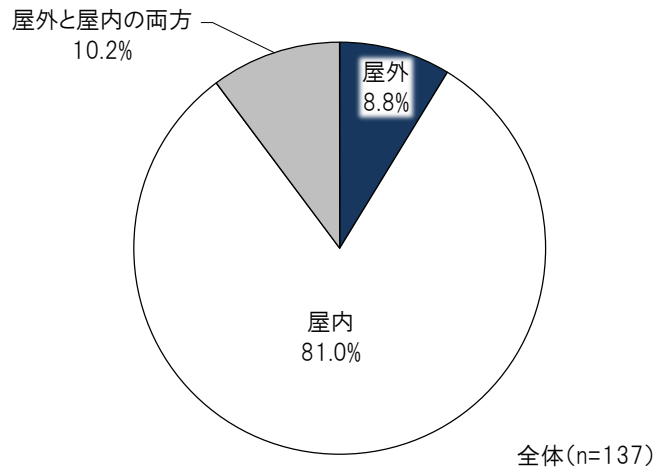
(5) 犬を飼うための配慮

①犬の飼育場所

問 13 【犬を飼っている人】 犬はどこで飼育していますか。(○は1つだけ)

犬の飼育場所をみると、「屋内」(81.0%)が圧倒的に多く、「屋外」(8.8%)での飼育は1割にも満たない。また、「屋内と屋外の両方」(10.2%)と答える人が1割みられる。

図 3-2-7 犬の飼育場所 (単数回答)



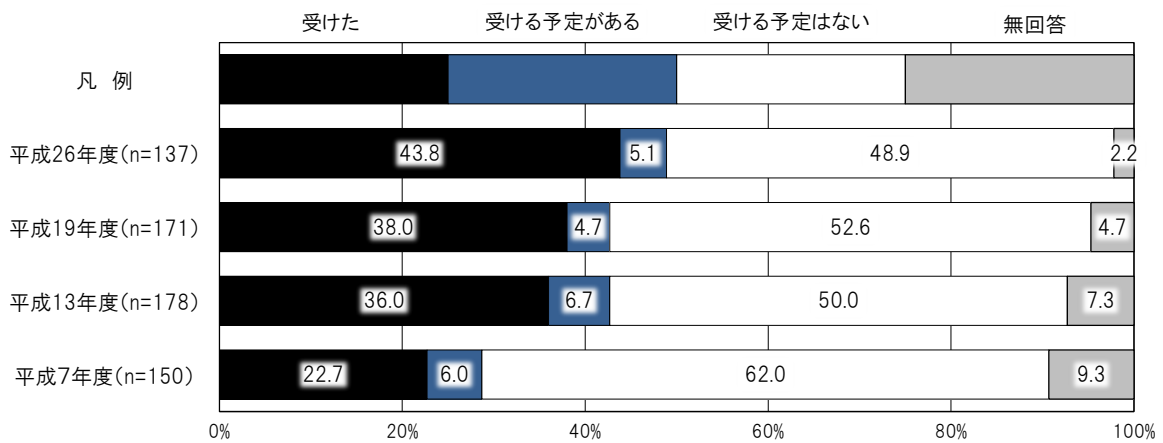
②犬の去勢や不妊手術の実施状況

問 14 【犬を飼っている人】 去勢や不妊手術を受けていますか。(○は1つだけ)

犬の去勢や不妊手術の実施状況をみると、「受けた」が43.8%、「受ける予定がある」が5.1%、「受ける予定はない」が48.9%となっている。

時系列でみると、『実施率』は年々増加傾向を示している。

図 3-2-8 犬の去勢や不妊手術の実施状況（単数回答）



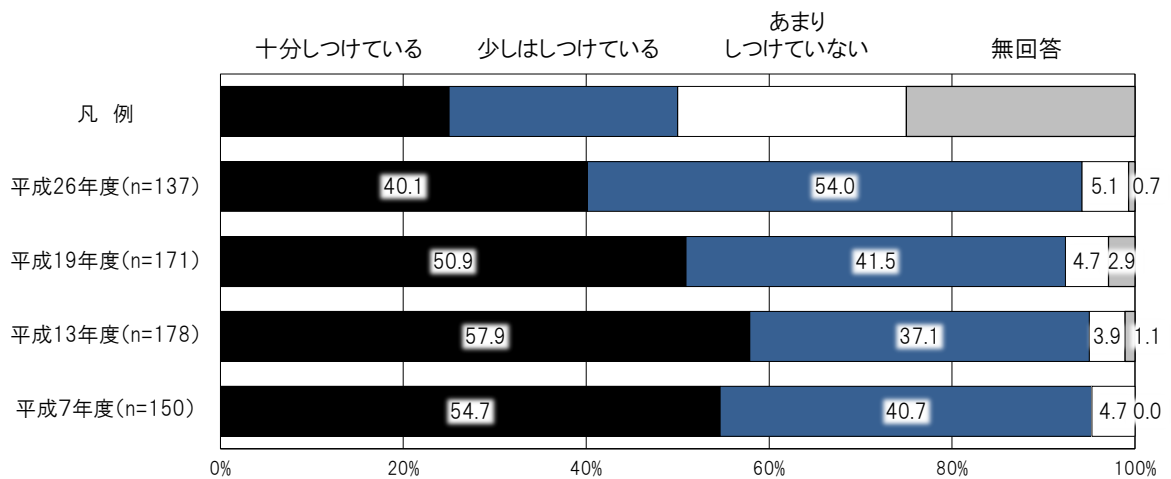
③犬の「しつけ」

問 15 【犬を飼っている人】 適切なしつけをしていますか。(○は1つだけ)

犬のしつけについて尋ねたところ、「十分しつけている」(40.1%)、「少しはしつけている」(54.0%)と、程度に関わらずしつけをしている人が94.1%と大半を占める。

時系列にみると、「十分しつけている」の割合が減少傾向を示している。

図 3-2-9 犬の「しつけ」(単数回答)

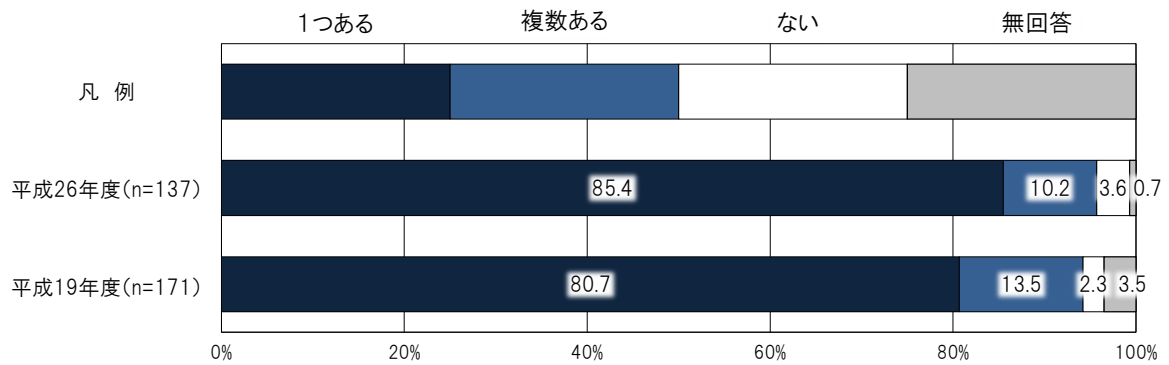


④犬のかかりつけ動物病院の有無

問 16 【犬を飼っている人】 かかりつけの動物病院はありますか。(〇は1つだけ)

犬のかかりつけ動物病院の有無をみると、「1つある」が85.4%、「複数ある」が10.2%と、『ある』と回答する人が9割以上を占め、前回調査に比べかかりつけ動物病院を持つ人の割合はやや増加している。

図 3-2-10 犬のかかりつけ動物病院の有無（単数回答）



(6) 飼い犬の登録

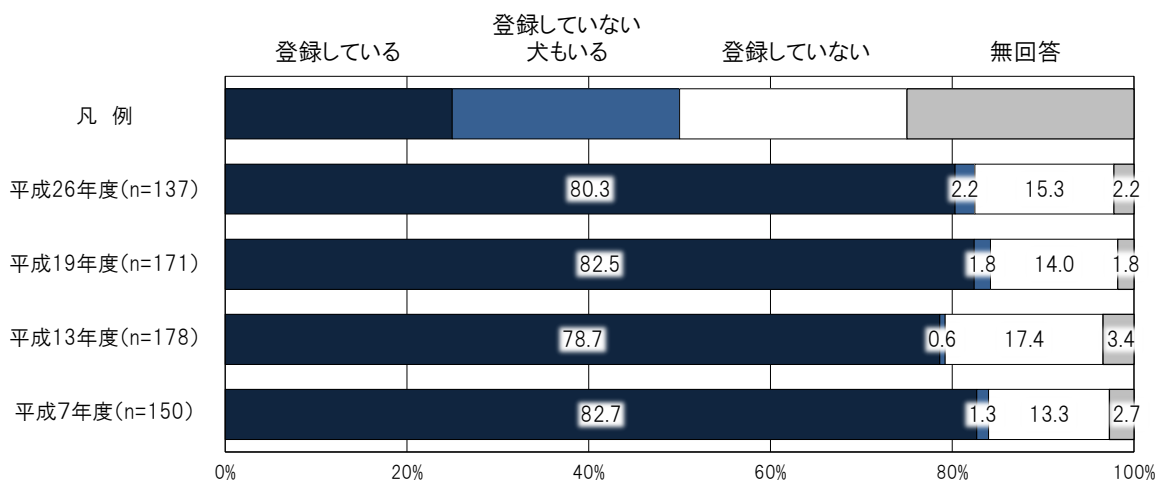
①福岡市への登録状況

問 17 【犬を飼っている人】 飼い犬を福岡市へ登録していますか。(○は1つだけ)

犬の福岡市への登録状況を見ると、8割以上は「登録している」(80.3%)と答えているが、「登録していない犬もいる」(2.2%)、「登録していない」(15.3%)人もみられる。

時系列にみると、『登録率』は8割前後で推移しており、増加傾向はみられない。

図 3-2-11 福岡市への登録状況 (単数回答)

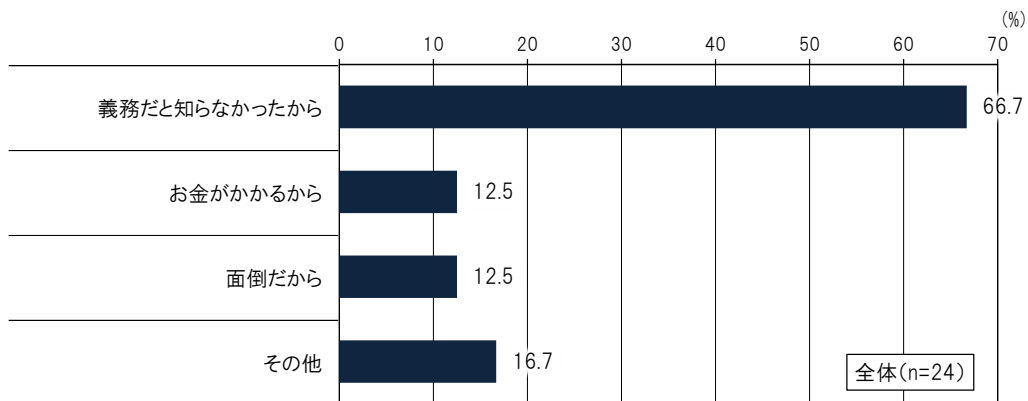


②登録していない理由

問 17-4 (福岡市へ犬を登録をしていない方(問 17で「2.」または「3.」と回答された方)のみお答え下さい。)登録しない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。
(〇はいくつでも)

犬を登録していない理由を尋ねたところ、「義務だと知らなかったから」が66.7%で圧倒的に最も多く、次いで「お金がかかるから」、「面倒だから」(各々12.5%)となっている。

図 3-2-12 登録していない理由(複数回答)

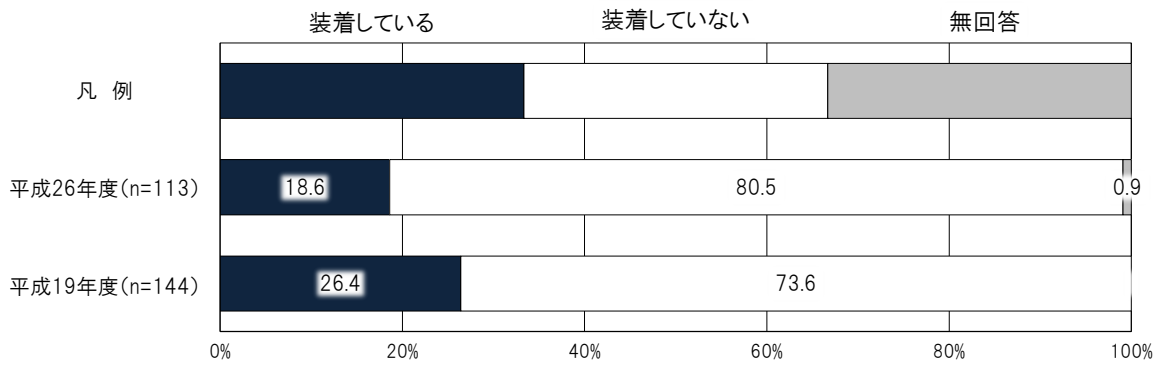


③鑑札の装着状況

問 17-2 (福岡市へ犬を登録している方(問 17 で「1.」または「2.」と回答された方)のみお答え下さい。) 犬を登録した時に交付される鑑札(右写真)を装着していますか。(○は1つだけ)

鑑札の装着状況を見ると、「装着している」が 18.6%、「装着していない」は 73.6%となっており、前回調査に比べ『装着率』は減少している。

図 3-2-13 鑑札の装着状況 (単数回答)



④鑑札を装着しない理由

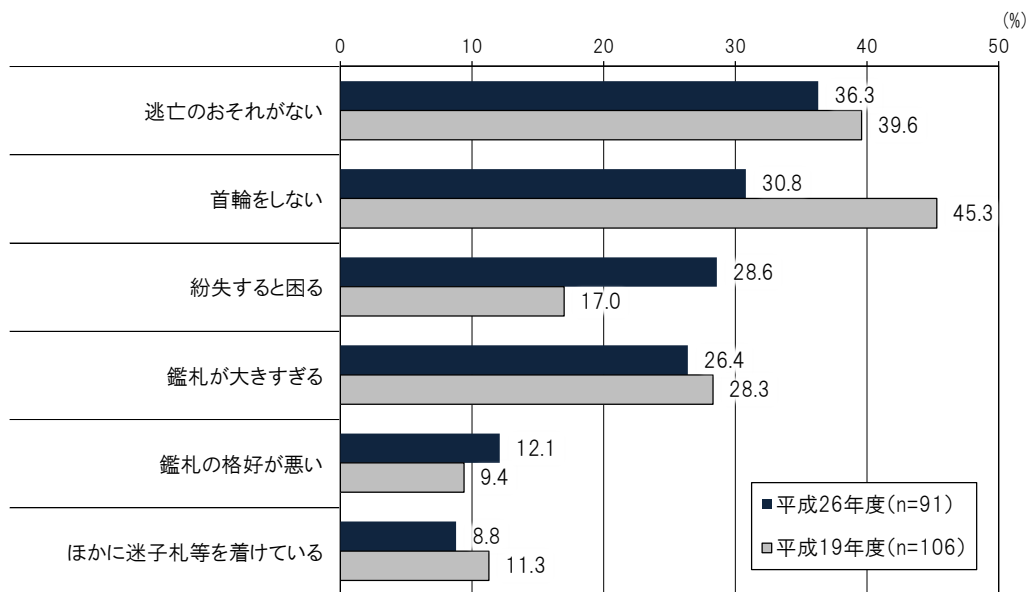
問 17-3 (鑑札を装着していない方(問 17-2で「2. 装着していない」と回答された方)のみお答え下さい。) 装着しない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。

(○はいくつでも)

鑑札を装着しない理由を尋ねたところ、「逃亡の恐れがない」が36.3%と最も多く、以下「首輪をしない」(30.8%)、「紛失すると困る」(28.3%)、「鑑札が大きすぎる」(26.4%)、「鑑札の格好が悪い」(12.1%)、「ほかに迷子札を着けている」(8.8%)と続いている。

時系列にみると、前回調査に比べ「紛失すると困る」という回答が10.6ポイント増加している。

図 3-2-14 鑑札を装着しない理由(複数回答)

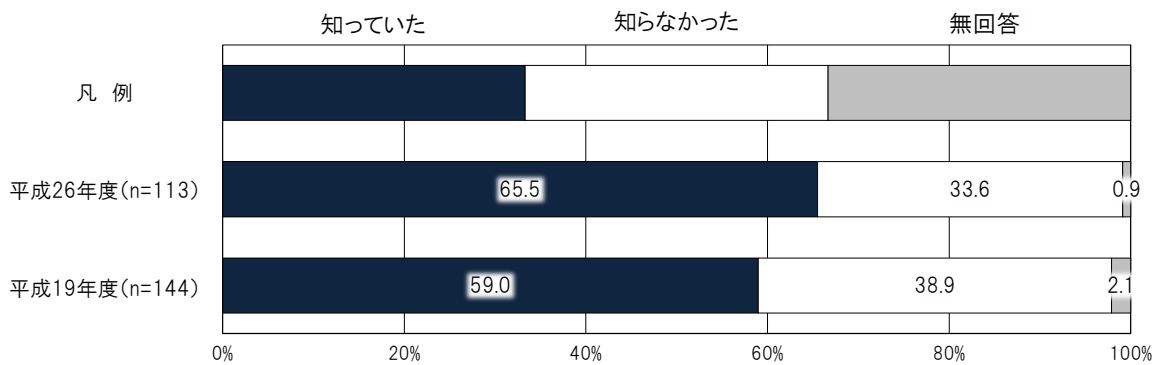


⑤鑑札装着の法律義務の認知状況

問 17-1 (福岡市へ犬を登録している方(問 17 で「1.」または「2.」と回答された方)のみお答え下さい。) 鑑札の装着が法律で義務づけられていることを知っていましたか。(○は1つだけ)

鑑札装着の法律義務の認知状況をみると、「知っていた」が65.5%、「知らなかった」が33.6%となっており、前回調査に比べ『認知率』が6.5ポイント増加している。

図 3-2-15 鑑札装着の法律義務の認知状況(単数回答)



(7) 飼い主の狂犬病予防注射

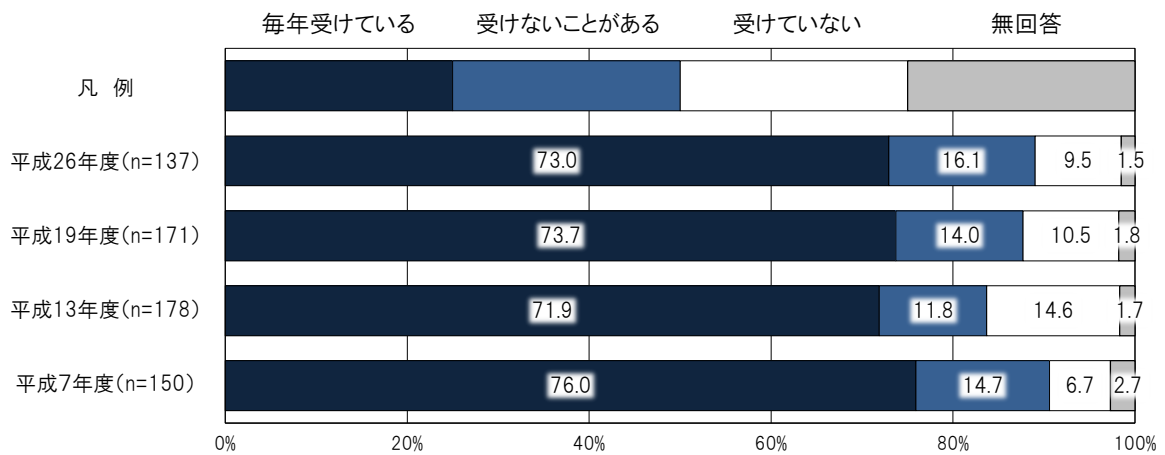
① 狂犬病予防注射の実施状況

問 18 【犬を飼っている人】 狂犬病の予防注射を受けていますか。(○は1つだけ)

狂犬病予防注射の実施状況を見ると、「毎年受けている」が73.0%、「受けないことがある」が16.1%、「受けていない」が9.5%となっている。

時系列にみると、狂犬病予防注射の『実施率』は7割台で推移しており、増加傾向はみられない。

図 3-2-16 狂犬病予防注射の受診状況（単数回答）

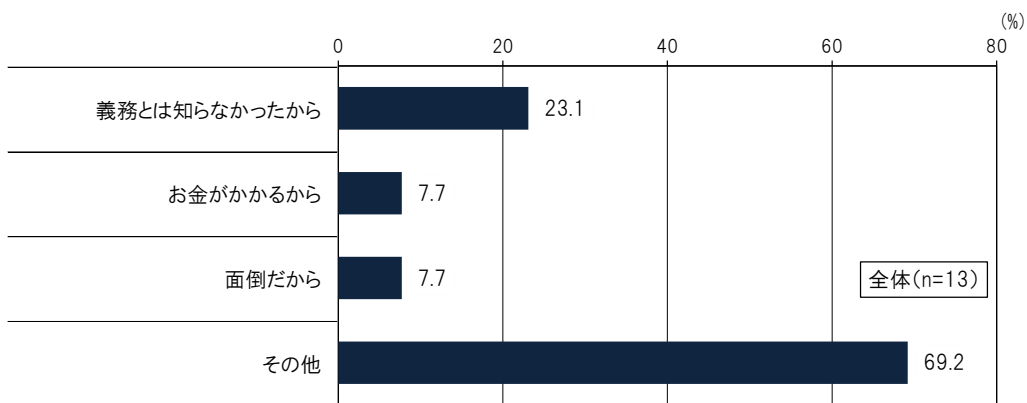


②狂犬病予防注射を実施していない理由

問 18-4 (狂犬病予防注射をしていない方 (問 18 で「3. 受けていない」と回答された方) のみお答え下さい。) 注射を受けていない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。
(○はいくつでも)

狂犬病予防注射を実施していない理由を尋ねたところ、「義務だと知らなかったから」が 23.1%で最も多く、次いで「お金がかかるから」、「面倒だから」(各々7.7%) となっている。
なお、「その他」が約7割を占めているが、内容は下表のようなものであった。

図 3-2-17 狂犬病予防注射を実施していない理由 (複数回答)



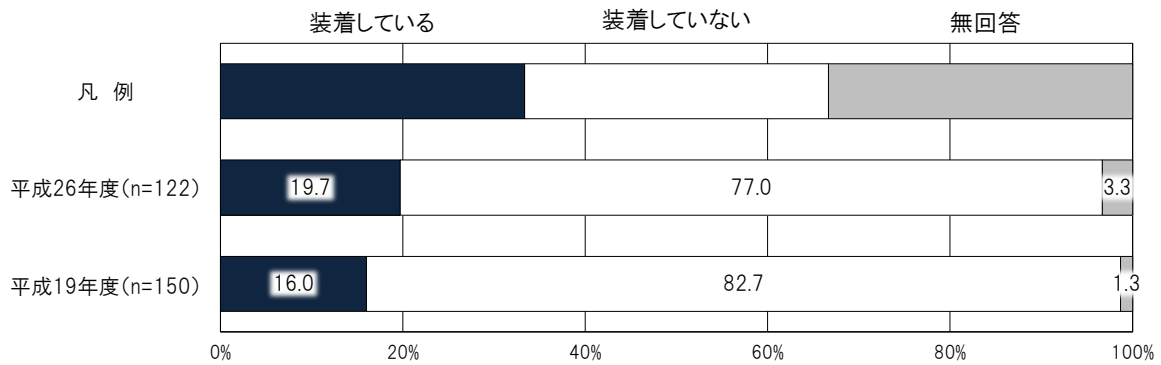
その他内訳 (9件)	
・	室内飼いで外に出さない
・	外に出る事がない
・	高齢で目も見えず、ケージでほとんど寝ている
・	高齢犬のため病院からの指示
・	2回受けたがショック症状で命を落としそうになったため翌年からやめた
・	前の犬のとき、予防注射のあと体調が悪化した
・	かかりつけの動物病院で1度も受けることを勧められたことがない
・	日本には40年以上狂犬病の発症例がないのに、リスクのある予防接種を受ける必要を感じない
・	予防注射は犬にとって有害だと考えます。ホメオパシーのレメディを与えています

③狂犬病注射済票の装着状況

問 18-2 (問 18 で「1. 毎年受けている」または「2. 受けないことがある」と回答された方のみ
お答え下さい。) 狂犬病予防注射済票 (右写真。以下「注射済票」とします) を装着していますか。
(○は1つだけ)

狂犬病注射済票の装着状況を見ると、「装着している」が19.7%、「装着していない」が77.0%となっており、前回調査に比べ『装着率』はやや増加している。

図 3-2-18 狂犬病注射済票の装着状況 (単数回答)



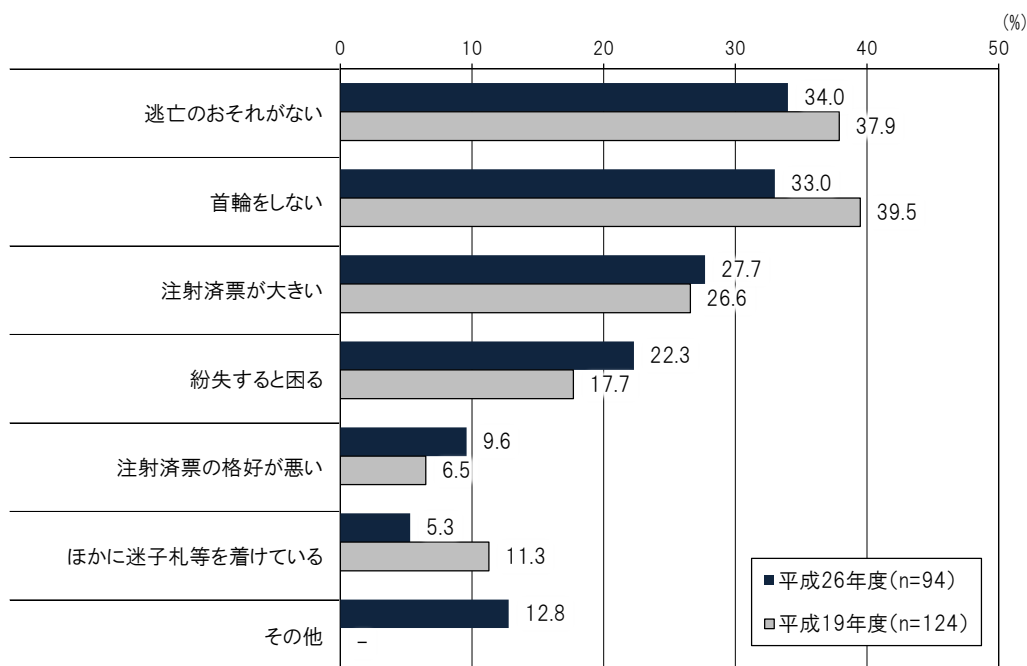
④狂犬病注射済票を装着しない理由

問 18-3 (注射済票を装着していない方 (問 18-2 で「2. 装着していない」と回答された方) のみ
お答え下さい。) 装着しない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。
(○はいくつでも)

狂犬病注射済票を装着しない理由を尋ねたところ、「逃亡のおそれがない」が 34.0%と最も多く、以下「首輪をしない」(33.0%)、「注射済票が大きい」(27.7%)、「紛失すると困る」(22.3%)、「注射済票の格好が悪い」(9.6%)、「ほかに迷子札を着けている」(5.3%)と続いている。

時系列にみると、前回調査の結果とほぼ同様の傾向を示している。

図 3-2-19 狂犬病注射済票を装着しない理由 (複数回答)



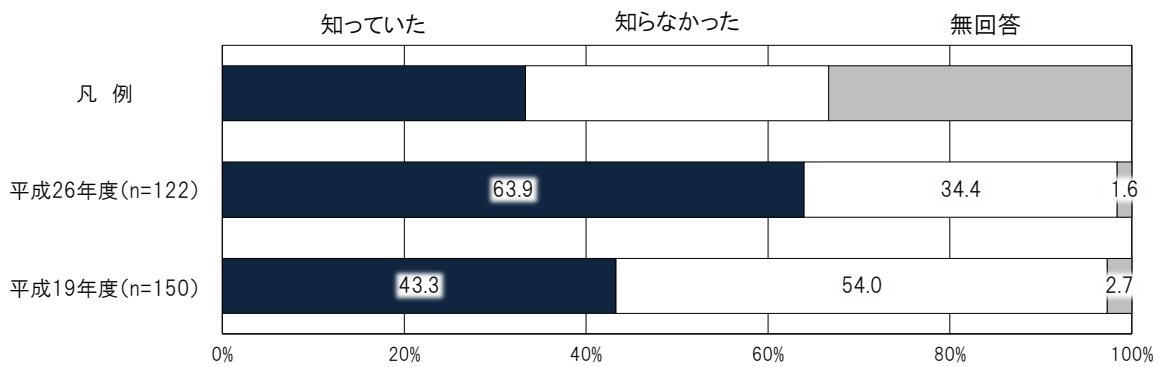
⑤狂犬病予防注射済票の装着義務の認知状況

問 18-1 (問 18 で「1. 毎年受けている」または「2. 受けないことがある」と回答された方のみ
お答え下さい。) 注射済票の装着が法律で義務づけられていることを知っていましたか。
(○は1つだけ)

狂犬病予防注射済票の装着義務の認知状況をみると、「知っていた」が 63.9%、「知らなかった」が 34.4%となっている。

時系列にみると、前回調査に比べ「知っていた」と答える人が 20.6 ポイント増加している。

図 3-2-20 狂犬病予防注射済票の装着義務の認知状況 (単数回答)



(8) 猫を飼うための配慮

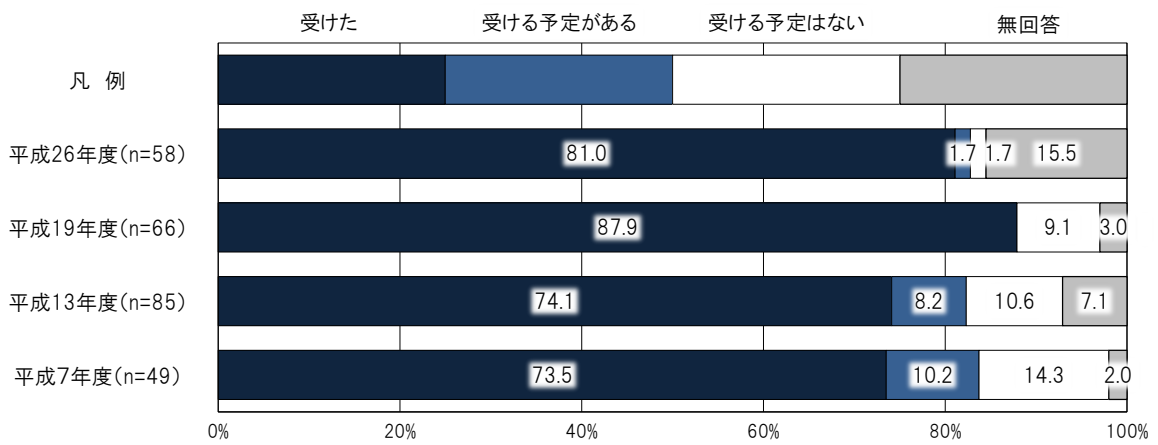
①猫の去勢や不妊手術の実施状況

問 19 【猫を飼っている人】 猫の去勢や不妊手術を受けていますか。(○は1つだけ)

猫の去勢や不妊手術の実施状況を見ると、「受けた」が81.0%、「受ける予定がある」が1.7%、「受ける予定はない」が1.7%となっており、犬に比べ猫の去勢や不妊手術はかなり普及している。

時系列にみると、前回調査に比べ『実施率』はやや減少している。

図 3-2-21 猫の去勢や不妊手術の実施状況（単数回答）

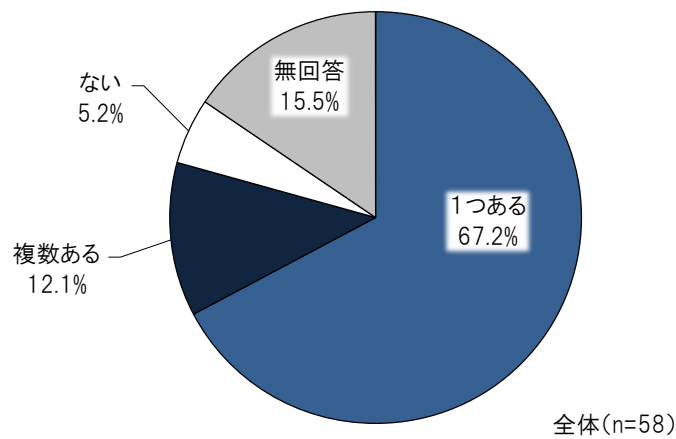


②猫のかかりつけ動物病院の有無

問 20 【猫を飼っている人】 かかりつけの動物病院はありますか。(○は1つだけ)

猫のかかりつけ動物病院の有無をみると、「1つある」が67.2%、「複数ある」が12.1%と、かかりつけ動物病院があると回答する人が8割程度を占める。なお、「ない」という人は5.2%にとどまっている。

図 3-2-22 猫のかかりつけ動物病院の有無（単数回答）



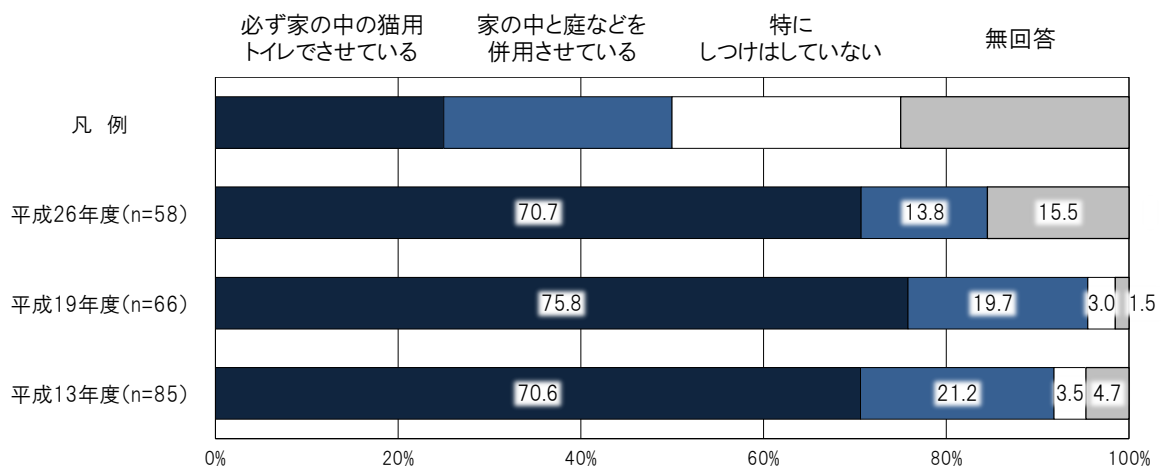
(9) 猫のトイレの「しつけ」

問 21 【猫を飼っている人】猫のトイレの「しつけ」について、あてはまるものを1つだけ選んで下さい。(○は1つだけ)

猫のトイレの「しつけ」について尋ねたところ、「必ず家の中の猫用トイレでさせている」(70.7%)が最も多く、次いで「家の中と庭などを併用させている」(13.8%)となっている。なお、「特にしつけはしていない」は回答者がいなかった。

時系列にみると、平成13年調査、平成19年調査の結果とほぼ同様の傾向を示している。

図 3-2-23 猫のトイレの「しつけ」(単数回答)



(10) 猫の迷子札等の装着状況

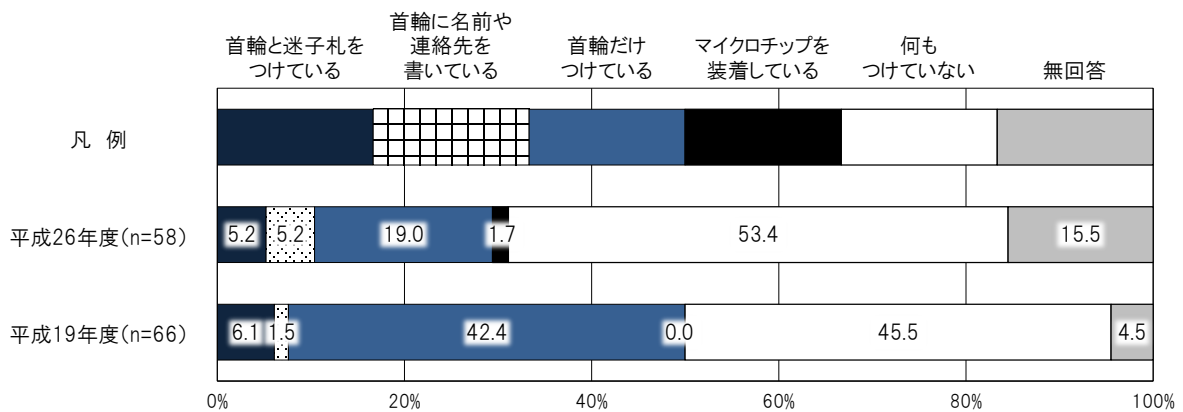
①猫の迷子札等の装着状況

問 22【猫を飼っている人】迷子札など猫につけていますか。あてはまるものを1つだけ選んで下さい。
(○は1つだけ)

猫の迷子札等の装着状況をみると、「首輪と迷子札をつけている」(5.2%)、「首輪に名前や連絡先を書いている」(5.2%)、「首輪だけつけている」(19.0%)、「マイクロチップを装着している」(1.7%)といった、何らかのものをつけていると回答した人が31.1%にとどまり、「何もつけていない」という人(53.4%)を下回っている。

時系列にみると、前回調査に比べ迷子札等の『装着率』は減少している。

図 3-2-24 猫の迷子札等の装着状況（単数回答）

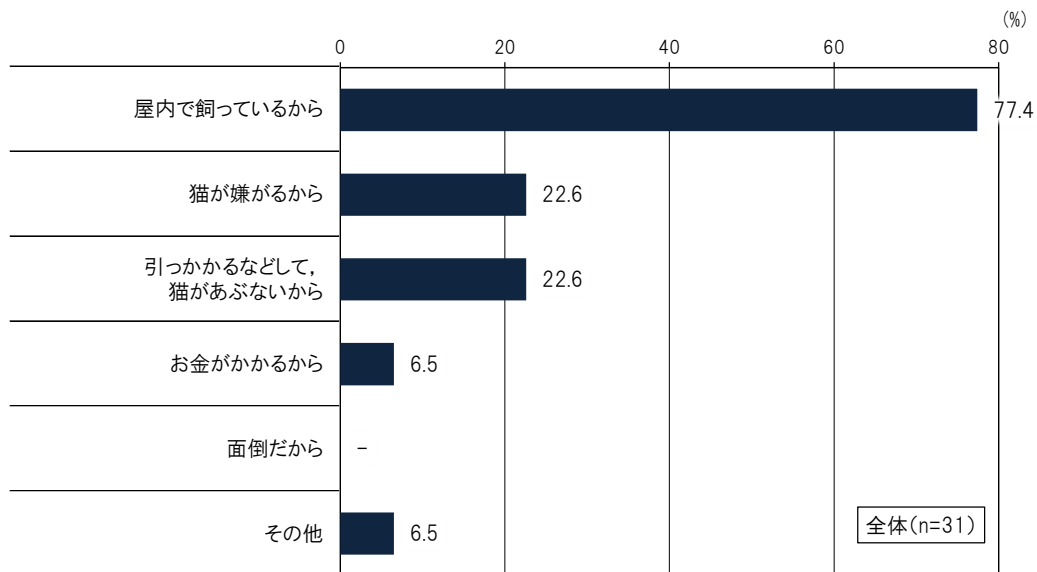


②迷子札等を装着しない理由

問 22-1 (問 22 で「5. 何もつけていない」と回答された方のみお答え下さい。) 迷子札などをつけない理由について、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

迷子札等を装着しない理由を尋ねたところ、「屋内で飼っているから」(77.4%)と回答する人が中心であり、以下「猫が嫌がるから」、「引っかかるなどして、猫があぶないから」(各 22.6%)、「お金がかかるから」(6.5%)と続いている。

図 3-2-25 迷子札等を装着しない理由 (複数回答)

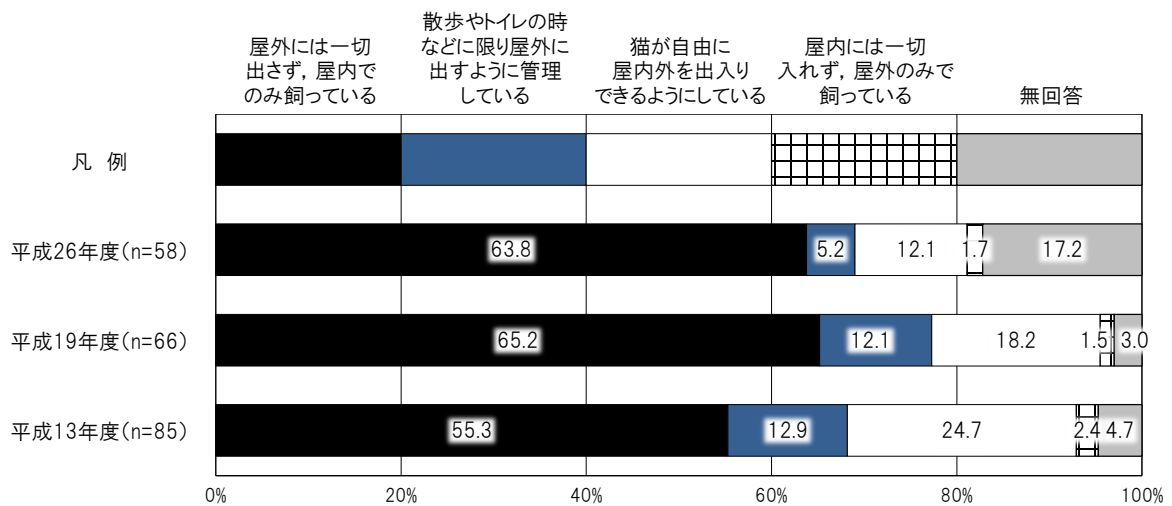


(11) 猫の飼育状況

問 23 【猫を飼っている人】あなたは、どのように猫を飼っていますか。あてはまるものを1つだけ選んで下さい。(○は1つだけ)

猫の飼育状況を見ると、「屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている」(63.8%) が最も多く、次いで「猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている」(12.1%)、「散歩やトイレの時などに限り屋外に出すように管理している」(5.2%)、「屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている」(1.7%) となっており、平成 13 年調査、平成 19 年調査の結果同様、「屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている」という回答者が中心となっている。

図 3-2-26 猫の飼育状況 (単数回答)



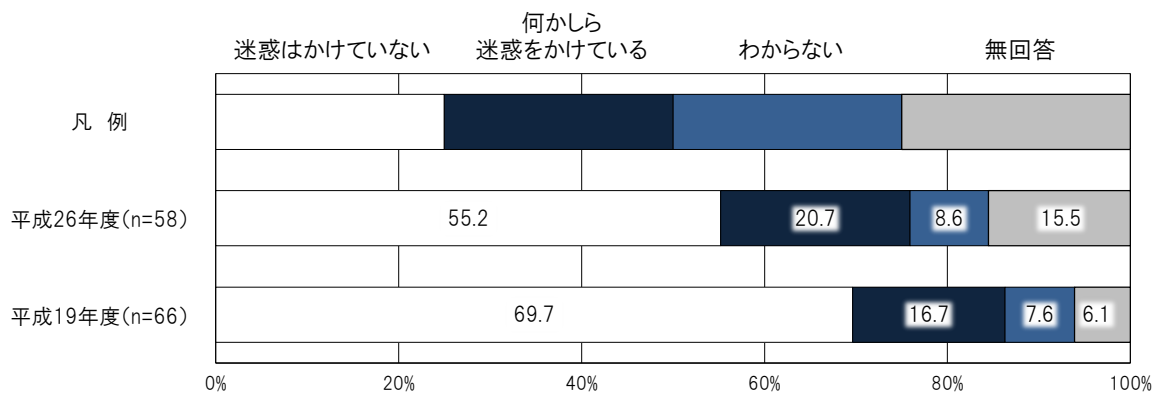
(12) 飼い猫が近隣に及ぼす迷惑について

①近隣への迷惑

問 24 【猫を飼っている人】近隣の方に飼い猫のことで迷惑をかけていると思いますか。
 (○は1つだけ)

猫に関する近隣への迷惑について尋ねたところ、「迷惑はかけていない」が55.2%、「何かしら迷惑をかけている」が20.7%となっており、前回調査に比べ迷惑をかけていないと考える割合が14.5ポイント減少している。

図 3-2-27 近隣への迷惑（単数回答）



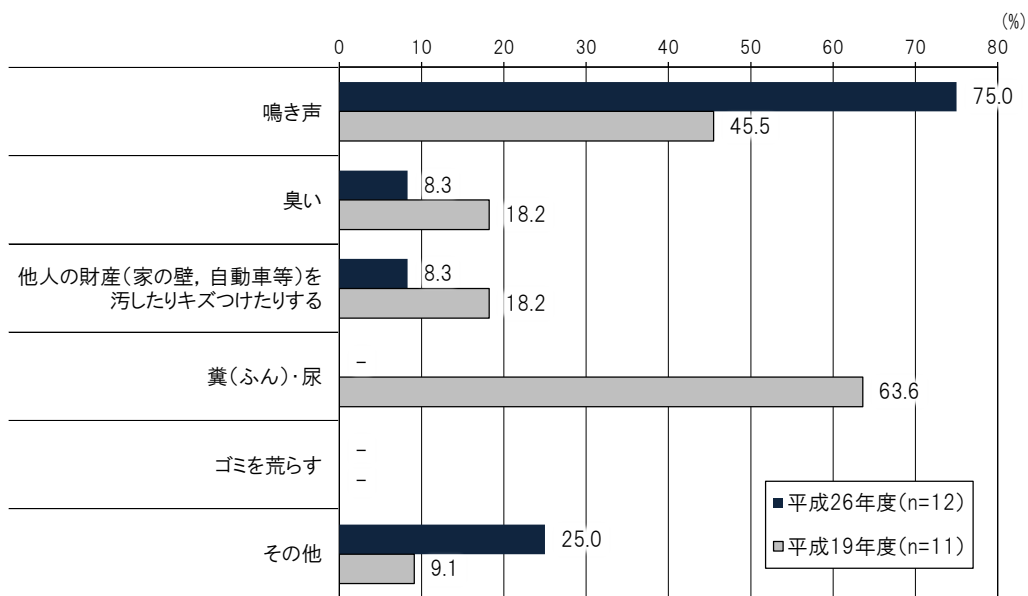
②迷惑をかけていると思われる内容

問 24-1 (問 24 で「2. 何かしら迷惑をかけている」と回答された方のみお答え下さい。) 迷惑をかけていると思われる理由をいくつでも選んでください。(〇はいくつでも)

迷惑をかけていると思われる内容について尋ねたところ、「鳴き声」(75.0%)が中心的な回答であり、以下「臭い」、「他人の財産(家の壁、自動車等)を汚したりキズつけたりする」(各々8.3%)と続いている。

時系列にみると、前回調査における「糞(ふん)・尿」、「ゴミを荒らす」という回答が皆無となっている。

図 3-2-28 迷惑をかけていると思われる内容(単数回答)



3. 犬について

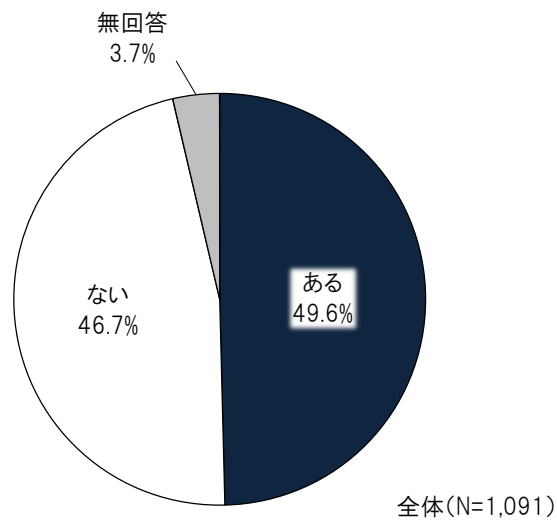
(1) 他人が飼っている犬や野良犬による被害について

①他人が飼っている犬や野良犬による被害経験

問 25 【全員】 他人が飼っている犬や野良犬で困ったことはありますか。(○は1つだけ)

他人が飼っている犬や野良犬による被害経験をみると、「ある」と答える人が49.6%を占め、約半数の人が被害を経験している。

図 3-3-1 他人が飼っている犬や野良犬による被害経験（単数回答）



住宅の所有形式別にみると、持家（一戸建て）に住む人の6割が犬による被害が「ある」と答えている。

居住地区別にみると、東区と城南区において被害経験が「ある」と答える人が多い。

地域環境別にみると、住宅地（一戸建てが多い）において被害経験が「ある」と答える人が多い。

なお、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、工場や倉庫が多い地域での被害経験者は約8割を占めている。

表 3-3-1 他人が飼っている犬や野良犬による被害経験
（住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別）

(単位:%)

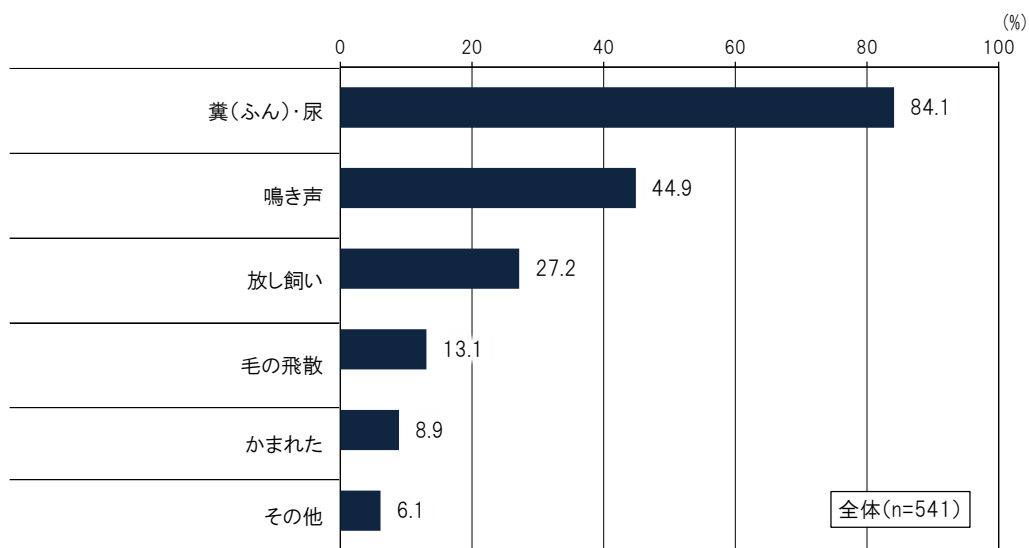
		調査数	ある	ない	無回答
全 体		1,091 100.0	541 49.6	510 46.7	40 3.7
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	379	60.7	35.1	4.2
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	274	44.5	51.8	3.6
	市営住宅	45	46.7	46.7	6.7
	県営住宅	7	85.7	-	14.3
	公団・公社の賃貸住宅	48	41.7	58.3	-
	民間の借家(一戸建て)	30	50.0	40.0	10.0
	民間の借家(アパート・マンション)	267	39.3	58.1	2.6
	社宅・寮など(一戸建て)	1	-	100.0	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	26	50.0	50.0	-
	その他	7	57.1	42.9	-
	無回答	7	71.4	28.6	-
居住地区別	東区	242	57.0	40.5	2.5
	博多区	145	43.4	51.7	4.8
	中央区	104	42.3	55.8	1.9
	南区	178	51.1	47.8	1.1
	城南区	95	57.9	35.8	6.3
	早良区	154	41.6	52.6	5.8
	西区	169	49.1	46.2	4.7
		無回答	4	75.0	25.0
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	535	43.4	53.6	3.0
	住宅地(一戸建てが多い)	459	57.1	38.8	4.1
	商業地・繁華街	35	31.4	62.9	5.7
	工場や倉庫が多い地域	14	78.6	21.4	-
	緑が多い地域	33	45.5	51.5	3.0
		無回答	15	66.7	20.0

②被害の内容

問 25-1 (問 25 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 困ったことの原因として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

他人が飼っている犬や野良犬による被害の内容を尋ねたところ、「糞(ふん)・尿」(84.1%) という回答が圧倒的に多く、以下「鳴き声」(44.9%)、「放し飼い」(27.2%)、「毛の飛散」(13.1%)、「かまれた」(8.9%) と続いている。

図 3-3-2 被害の内容(複数回答)



住宅の所有形式別にみると、住宅形式にかかわらず「糞（ふん）・尿」による被害内容が高い割合を示している。

居住地区別にみると、南区において「糞（ふん）・尿」、城南区において「鳴き声」、中央区において「放し飼い」の割合が高くなっている。

表 3-3-2 被害の内容（住宅の所有形式別、居住地区別）

(単位:%)

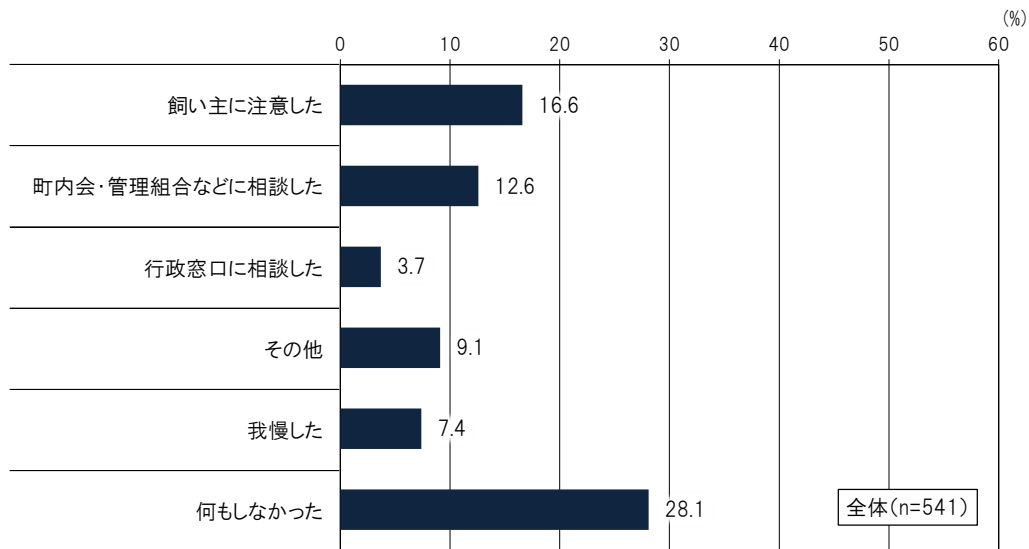
	サンプル数	糞（ふん）・尿	鳴き声	放し飼い	毛の飛散	かまれた	その他	無回答	
全 体	541 100.0	455 84.1	243 44.9	147 27.2	71 13.1	48 8.9	33 6.1	6 1.1	
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	230	87.4	45.2	30.4	10.4	9.6	3.0	1.3
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	122	80.3	49.2	28.7	18.0	9.0	8.2	1.6
	市営住宅	21	81.0	47.6	28.6	28.6	9.5	4.8	-
	県営住宅	6	83.3	66.7	16.7	16.7	-	-	-
	公団・公社の賃貸住宅	20	75.0	40.0	20.0	10.0	5.0	15.0	-
	民間の借家(一戸建て)	15	86.7	20.0	26.7	6.7	13.3	-	-
	民間の借家(アパート・マンション)	105	81.9	44.8	21.0	12.4	7.6	11.4	1.0
	社宅・寮など(一戸建て)	-	-	-	-	-	-	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	13	84.6	38.5	23.1	-	7.7	-	-
	その他	4	100.0	25.0	25.0	25.0	25.0	-	-
無回答	5	100.0	20.0	20.0	20.0	-	-	-	
居住地区別	東区	138	84.8	44.2	27.5	12.3	10.1	5.1	-
	博多区	63	84.1	47.6	27.0	14.3	9.5	4.8	1.6
	中央区	44	72.7	38.6	38.6	11.4	2.3	9.1	2.3
	南区	91	89.0	42.9	33.0	15.4	6.6	7.7	-
	城南区	55	87.3	49.1	23.6	10.9	10.9	5.5	3.6
	早良区	64	79.7	46.9	23.4	12.5	10.9	7.8	1.6
	西区	83	84.3	45.8	19.3	13.3	9.6	4.8	1.2
	無回答	3	100.0	33.3	33.3	33.3	-	-	-

③被害への対処方法

問 25-2 (問 25 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 他人の犬や野良犬に困った時にどう対処したか、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

他人が飼っている犬や野良犬による被害への対処方法をみると、「飼い主に注意した」(16.6%)が最も多く、次いで「町内会・管理組合などに相談した」(12.6%)、「行政窓口相談した」(3.7%)と続いている。一方、「何もしなかった」(28.1%)、「我慢した」(7.4%)など、何の対応もしなかった人もかなりみられた。

図 3-3-3 被害への対処方法 (複数回答)



注)「その他」の記述の中で「我慢した」、「何もしなかった」の意見が多数寄せられたため、二者を新たに選択肢として追加し、集計している。

性別にみると、男性が女性に比べ「飼い主に注意した」という人が多くみられる。
年齢別にみると、年齢が低い層ほど「何もしなかった」という割合が高くなっている。

表 3-3-3 被害への対処（性別、年齢別、住宅の所有形式別）

(単位:%)

		調査数	飼い主に注意した	町内会・管理組合などに相談した	行政窓口にご相談した	その他	我慢した	何もしなかった	無回答
全 体		541 100.0	90 16.6	68 12.6	20 3.7	49 9.1	40 7.4	152 28.1	139 25.7
性別	男性	213	20.7	12.7	5.2	10.3	6.1	27.7	22.5
	女性	322	14.0	12.7	2.8	8.4	8.4	28.0	27.6
	無回答	6	16.7	-	-	-	-	50.0	33.3
年齢別	20代	34	8.8	2.9	-	-	2.9	58.8	26.5
	30代	85	14.1	7.1	2.4	9.4	10.6	36.5	20.0
	40代	91	16.5	13.2	5.5	5.5	11.0	26.4	26.4
	50代	89	14.6	13.5	4.5	9.0	5.6	32.6	24.7
	60歳以上	239	19.7	15.5	3.8	11.7	6.3	19.7	27.2
	無回答	3	-	-	-	-	-	33.3	66.7

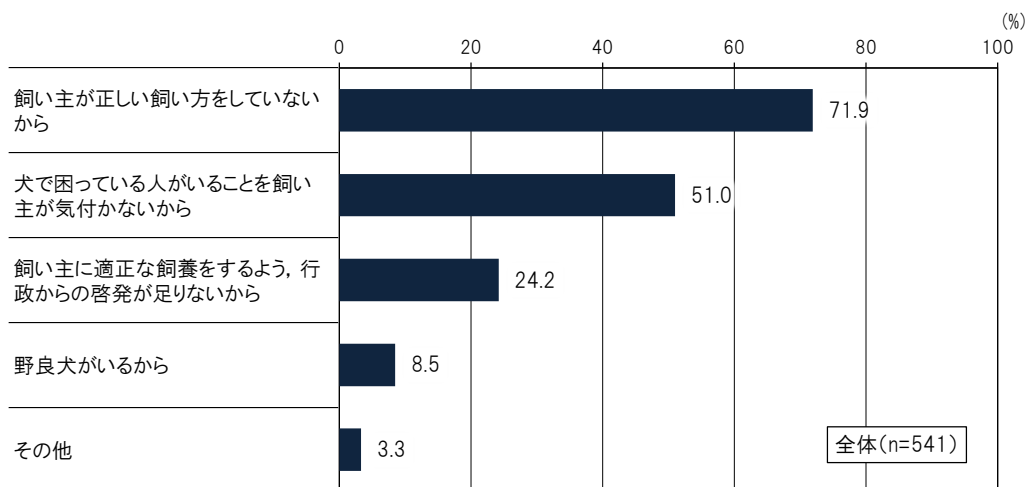
注)「その他」の記述の中で「我慢した」、「何もしなかった」の意見が多数寄せられたため、二者を新たに選択肢として追加し、集計している。

④被害が起きる原因

問 25-3 (問 25 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 犬で困ることが起こる原因は何だと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

犬による被害が起きる原因を尋ねたところ、「飼い主が正しい飼い方をしていない」が 71.9%で最も多く、次いで「犬で困っている人がいることを飼い主が気づかないから」(51.0%)、「飼い主に適正な飼養をするよう、行政からの啓発が足りないから」(24.2%) などとなっており、飼い主の飼い方や意識に原因を求める割合が高くなっている。

図 3-3-4 被害が起きる原因 (複数回答)



性別にみると、男性が女性に比べ「飼い主に適正な飼養をするよう、行政からの啓発が足りないから」と回答する人が多くみられる。

年齢別にみると、30代で「犬で困っている人がいることを飼い主が気づかないから」、60歳以上で「飼い主に適正な飼養をするよう、行政からの啓発が足りないから」と回答する人が多くみられる。

住宅の所有形式別にみると、マンションなどの共同住宅の持ち家において「飼い主に適正な飼養をするよう、行政からの啓発が足りないから」、「犬で困っている人がいることを飼い主が気づかないから」と回答する人が多くみられる。

表 3-3-4 被害が起きる原因（性別、年齢別、住宅の所有形式別）

(単位:%)

		調査数	を飼 して 主が ない から 正し いか ら飼 い方	か る 犬 で 困 っ て い る 人 が い る こ と を 飼 い 主 が 気 づ か な い か ら	啓 発 が よ う に 適 正 な 飼 養 を す る よ う に 行 政 か ら の 啓 発 が 足 り な い か ら	野 良 犬 が い る か ら	そ の 他	無 回 答	
全 体		541 100.0	389 71.9	276 51.0	131 24.2	46 8.5	18 3.3	44 8.1	
性別	男性	213	74.6	49.8	30.0	6.1	3.3	7.0	
	女性	322	70.2	51.9	20.2	9.9	3.4	8.7	
	無回答	6	66.7	50.0	33.3	16.7	-	16.7	
年齢別	20代	34	61.8	55.9	5.9	17.6	-	11.8	
	30代	85	67.1	58.8	25.9	10.6	4.7	8.2	
	40代	91	75.8	47.3	14.3	5.5	1.1	7.7	
	50代	89	75.3	56.2	24.7	1.1	4.5	9.0	
	60歳以上	239	72.4	46.9	29.7	10.0	3.8	7.5	
	無回答	3	66.7	66.7	33.3	33.3	-	-	
住宅の 所有 形式 別	持ち家(一戸建て)	230	69.6	47.4	27.8	6.5	3.0	11.7	
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	122	78.7	57.4	29.5	13.9	3.3	3.3	
	市営住宅	21	61.9	57.1	28.6	4.8	4.8	9.5	
	県営住宅	6	66.7	33.3	33.3	16.7	16.7	-	
	公団・公社の賃貸住宅	20	65.0	50.0	10.0	5.0	5.0	10.0	
	民間の借家(一戸建て)	15	93.3	46.7	26.7	-	-	-	
	民間の借家(アパート・マンション)	105	69.5	52.4	13.3	4.8	3.8	7.6	
	社宅・寮など(一戸建て)	-	-	-	-	-	-	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	13	69.2	46.2	7.7	23.1	-	-	
	その他	4	75.0	75.0	25.0	25.0	-	-	
無回答	5	80.0	40.0	20.0	40.0	-	-		

4. 猫について

(1) 猫の飼い方についての考え方

問 26 【全員】 あなたは、猫の飼い方についてどのようにお考えになりますか。あてはまるものをいくつか選んで下さい。(〇はいくつでも)

猫の飼い方について尋ねたところ、「他人の敷地内等にふん尿をするなど迷惑となるので屋内で飼うべき」(49.6%) が最も多く、次いで「事故にあったり、病気にかかったりするので屋内で飼うほうがよい」(31.0%)、「猫の習性から放し飼いはしかたがない」(17.1%) などとなっており、屋内での飼育がよいという考え方が上位にあがっている。

時系列にみると、平成 13 年、平成 19 年の調査については、単数回答に限定した設問だったため、同一比較はできないが、今回とほぼ同様の回答結果を示している。

図 3-4-1 猫の飼い方についての考え方（複数回答）

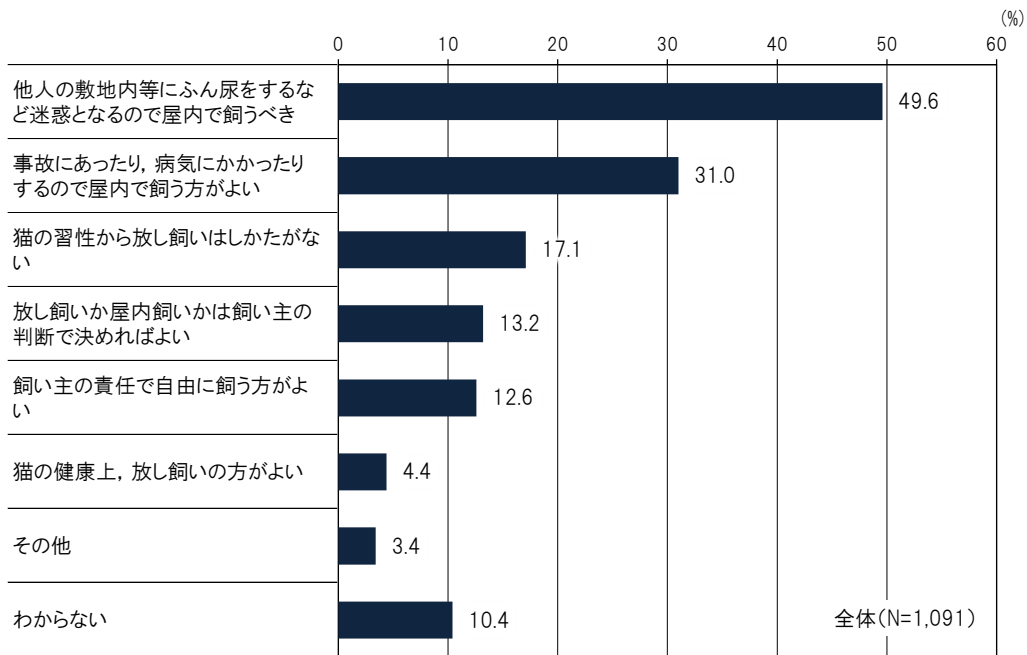
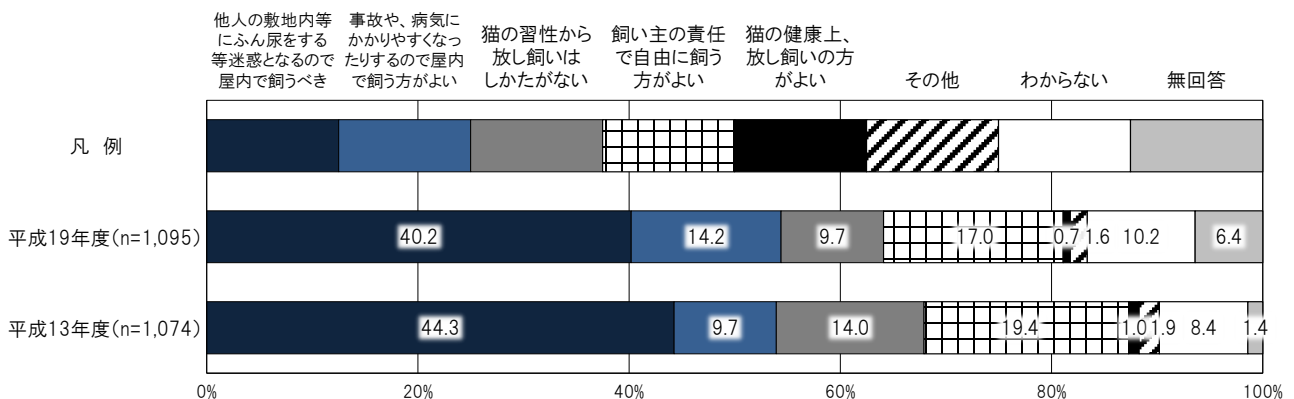


図 3-4-2 参考：猫の飼い方についての考え方（単数回答）



性別にみると、女性が男性に比べ「他人の敷地内等にふん尿をするなど迷惑となるので屋内で飼うべき」、「事故にあったり、病気にかかったりするので屋内で飼うほうがよい」など、屋内での飼育がよいと考える人が多くみられる。

年齢別にみると、20代では「飼い主の責任で自由に飼うほうがよい」、40代では「事故にあったり、病気にかかったりするので屋内で飼うほうがよい」と回答する人が多くみられる。

表 3-4-1 猫の飼い方についての考え方（性別、年齢）

(単位:%)

	調査数	尿を敷地内などで飼う迷惑とふん	他人の敷地内等に迷惑となる	屋内で飼う方がよい	事故にあったり病気で	猫の習性から放し飼い	はかばかしいのか判断で決め	放し飼いがよいのか責任で自由に	飼う方が健康上、放し飼いの猫がよい	その他	わからない	無回答
全 体	1,091 100.0	541 49.6	338 31.0	187 17.1	144 13.2	137 12.6	48 4.4	37 3.4	114 10.4	105 9.6		
性別	男性	407	48.2	28.3	15.2	12.3	11.5	5.2	2.2	11.3	9.8	
	女性	672	50.6	32.6	18.3	13.8	13.4	3.7	3.9	10.0	9.4	
	無回答	12	41.7	33.3	16.7	8.3	-	16.7	16.7	8.3	16.7	
年齢別	20代	104	33.7	31.7	21.2	16.3	22.1	4.8	1.9	18.3	5.8	
	30代	164	50.0	40.9	22.6	17.7	14.6	4.3	4.3	7.3	3.0	
	40代	205	53.2	38.5	19.5	15.1	10.2	4.4	2.4	11.7	4.4	
	50代	179	52.0	29.6	20.7	12.3	16.2	5.0	5.6	9.5	5.6	
	60歳以上	435	50.6	24.4	11.5	10.3	9.2	4.1	2.8	9.4	17.2	
	無回答	4	50.0	-	25.0	-	-	-	25.0	25.0	-	

(2) 野良猫や近所の猫による被害について

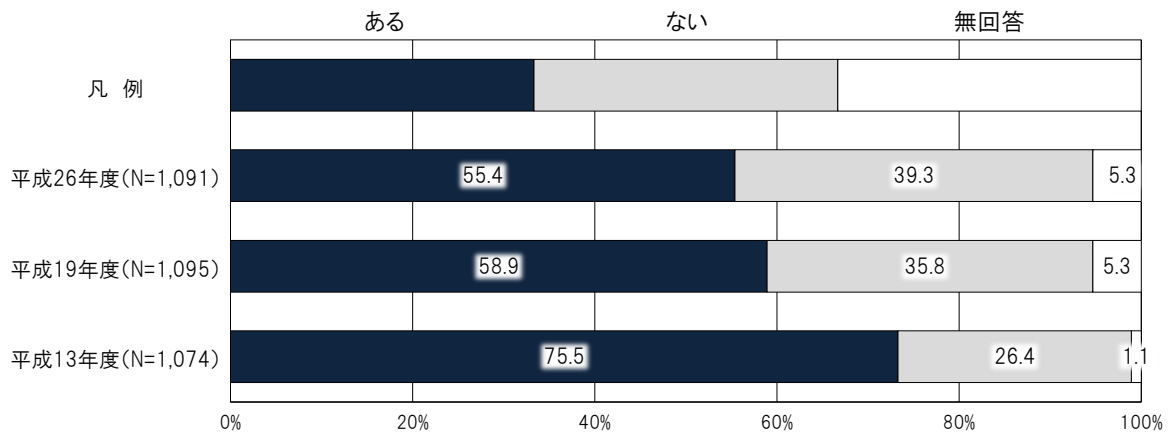
①野良猫や近所の猫による被害経験

問 27 【全員】 野良猫や近所の猫で困ったことはありますか。(○は1つだけ)

野良猫や近所の猫による被害経験をみると、「ある」が55.4%、「ない」が39.3%となっており、犬の被害経験に比べ割合がやや高くなっている。

時系列にみると、被害経験が「ある」と答える人は年々減少傾向を示している。

図 3-4-3 野良猫や近所の猫による被害経験（単数回答）



住宅の所有形式別でみると、持ち家、借家にかかわらず、一戸建てに住む人の8割程度が猫による被害が「ある」と答えている。

居住地区別にみると、城南区と西区において被害経験が「ある」と答える人が多い。

地域環境別にみると、住宅地（一戸建てが多い）において被害経験が「ある」と答える人が多い。

表 3-4-2 野良猫や近所の猫による被害経験（住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別）

(単位:%)

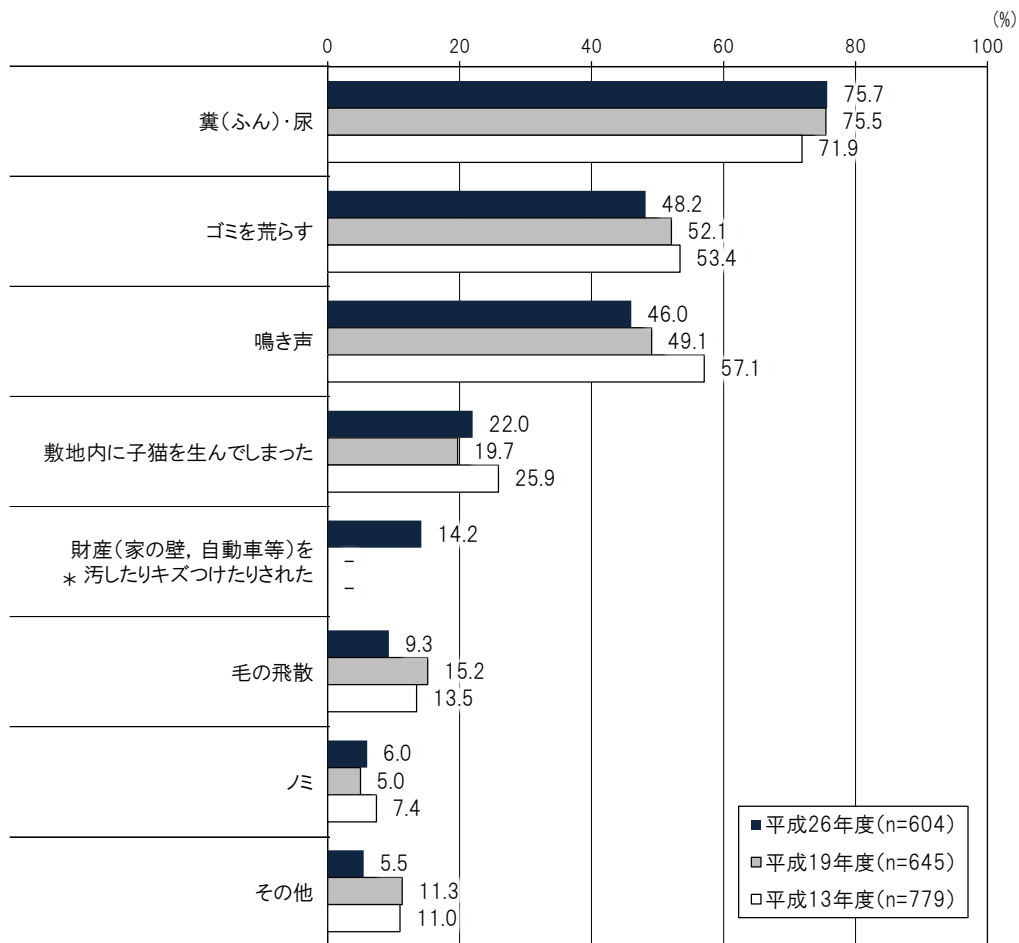
		調査数	ある	ない	無回答
全 体		1,091 100.0	604 55.4	429 39.3	58 5.3
住宅の 所有 形式 別	持ち家(一戸建て)	379	78.4	15.3	6.3
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	274	39.1	56.2	4.7
	市営住宅	45	46.7	42.2	11.1
	県営住宅	7	71.4	-	28.6
	公団・公社の賃貸住宅	48	37.5	58.3	4.2
	民間の借家(一戸建て)	30	83.3	13.3	3.3
	民間の借家(アパート・マンション)	267	41.2	55.4	3.4
	社宅・寮など(一戸建て)	1	100.0	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	26	50.0	50.0	-
	その他	7	42.9	42.9	14.3
	無回答	7	57.1	28.6	14.3
居住 地区 別	東区	242	58.7	37.6	3.7
	博多区	145	44.8	44.8	10.3
	中央区	104	43.3	54.8	1.9
	南区	178	58.4	37.6	3.9
	城南区	95	65.3	32.6	2.1
	早良区	154	51.3	40.9	7.8
	西区	169	62.1	32.0	5.9
		無回答	4	50.0	25.0
地域 環境 別	住宅地(集合住宅が多い)	535	43.9	51.8	4.3
	住宅地(一戸建てが多い)	459	70.6	24.0	5.4
	商業地・繁華街	35	48.6	45.7	5.7
	工場や倉庫が多い地域	14	57.1	35.7	7.1
	緑が多い地域	33	36.4	51.5	12.1
		無回答	15	53.3	26.7

②被害の内容

問 27-1 (問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 困ったことがある理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

猫による具体的な被害の内容を尋ねたところ、最も多かったのが「糞(ふん)・尿」(75.7%)、次いで「ゴミを荒らす」(48.2%)、「鳴き声」(46.0%)といった項目が上位にあがっている。
時系列でみると、「ゴミを荒らす」、「鳴き声」などの被害は減少傾向にある。

図 3-4-4 被害の内容(複数回答)



注) *は今回調査からの選択肢

住宅の所有形式別にみると、持ち家、借家にかかわらず、一戸建てで「糞（ふん）・尿」、「ゴミを荒らす」の割合が高くなっている。

居住地区別にみると、城南区において「糞（ふん）・尿」、城南区と南区において「ゴミを荒らす」の割合が高くなっている。

地域環境別にみると、住宅地（一戸建てが多い）において「ゴミを荒らす」の割合が高くなっている。

表 3-4-3 被害の内容（住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別）

(単位:%)

		調査数	糞（ふん）・尿	ゴミを荒らす	鳴き声	敷地内に子猫を生んだ	等（を汚した）の壁、自動車	毛の飛散	ノミ	その他	無回答
全 体		604 100.0	457 75.7	291 48.2	278 46.0	133 22.0	86 14.2	56 9.3	36 6.0	33 5.5	7 1.2
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	297	82.5	55.9	45.8	25.9	16.2	9.8	6.4	3.4	-
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	107	65.4	33.6	44.9	20.6	14.0	11.2	5.6	8.4	2.8
	市営住宅	21	71.4	28.6	66.7	38.1	14.3	9.5	4.8	-	4.8
	県営住宅	5	60.0	20.0	40.0	-	20.0	-	-	-	-
	公団・公社の賃貸住宅	18	66.7	44.4	33.3	16.7	5.6	11.1	-	16.7	-
	民間の借家(一戸建て)	25	84.0	76.0	36.0	24.0	16.0	12.0	4.0	8.0	-
	民間の借家(アパート・マンション)	110	69.1	41.8	50.0	11.8	10.0	5.5	5.5	7.3	2.7
	社宅・寮など(一戸建て)	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	13	61.5	46.2	23.1	15.4	7.7	7.7	-	-	-
	その他	3	100.0	66.7	100.0	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	-
	無回答	4	100.0	25.0	25.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-
居住地区別	東区	142	77.5	50.0	44.4	21.8	13.4	9.9	5.6	2.1	1.4
	博多区	65	75.4	41.5	52.3	30.8	16.9	13.8	10.8	7.7	-
	中央区	45	71.1	22.2	44.4	22.2	17.8	6.7	4.4	8.9	2.2
	南区	104	77.9	57.7	44.2	14.4	15.4	4.8	6.7	10.6	-
	城南区	62	87.1	56.5	48.4	17.7	14.5	12.9	4.8	4.8	-
	早良区	79	75.9	44.3	40.5	20.3	10.1	7.6	6.3	3.8	1.3
	西区	105	65.7	50.5	49.5	27.6	14.3	10.5	2.9	3.8	2.9
		無回答	2	100.0	-	50.0	50.0	-	-	50.0	-
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	235	73.6	40.0	49.4	20.0	13.2	10.6	6.8	6.8	1.3
	住宅地(一戸建てが多い)	324	78.1	56.2	45.1	22.5	14.8	8.6	4.9	4.0	0.9
	商業地・繁華街	17	52.9	17.6	35.3	11.8	11.8	5.9	5.9	23.5	-
	工場や倉庫が多い地域	8	75.0	37.5	25.0	37.5	-	-	12.5	-	-
	緑が多い地域	12	66.7	58.3	41.7	41.7	33.3	16.7	8.3	-	8.3
		無回答	8	100.0	25.0	37.5	37.5	12.5	-	12.5	-

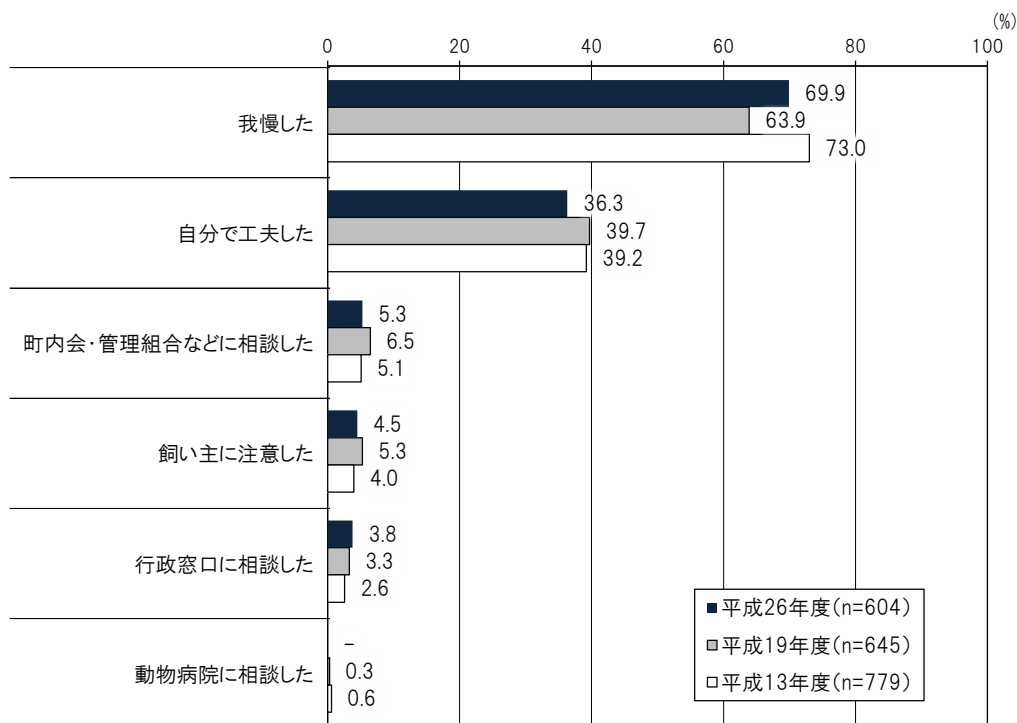
③被害への対処方法

問 27-2 (問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 野良ネコや近所の猫で困ったときにどう対処したか、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

猫による被害への対処方法をみると、「我慢した」が69.9%と最も多かった。一方、「自分で工夫した」(36.3%)、「町内会・管理組合などに相談した」(5.3%)、「飼い主に注意した」(4.5%)という人もみられる。

時系列にみると、「我慢した」、「自分で工夫した」の2項目の割合が高い傾向は変わらない。

図 3-4-5 被害への対処方法 (複数回答)



性別にみると、男性は女性に比べ「自分で工夫した」と答える人が多く、女性は男性に比べ「我慢した」と答える人が多くみられる。

年齢別にみると、30代、40代で「我慢した」、50代、60歳以上で「自分で工夫した」、「町内会・管理組合などに相談した」、「行政窓口で相談した」の割合がやや高くなっている。

住宅の所有形式別にみると、持ち家、借家にかかわらずマンションでは「我慢した」、持ち家、借家にかかわらず一戸建てでは「自分で工夫した」の割合が高くなっている。

表 3-4-4 被害への対処方法（性別、年齢別、住宅の所有形式別）

(単位:%)

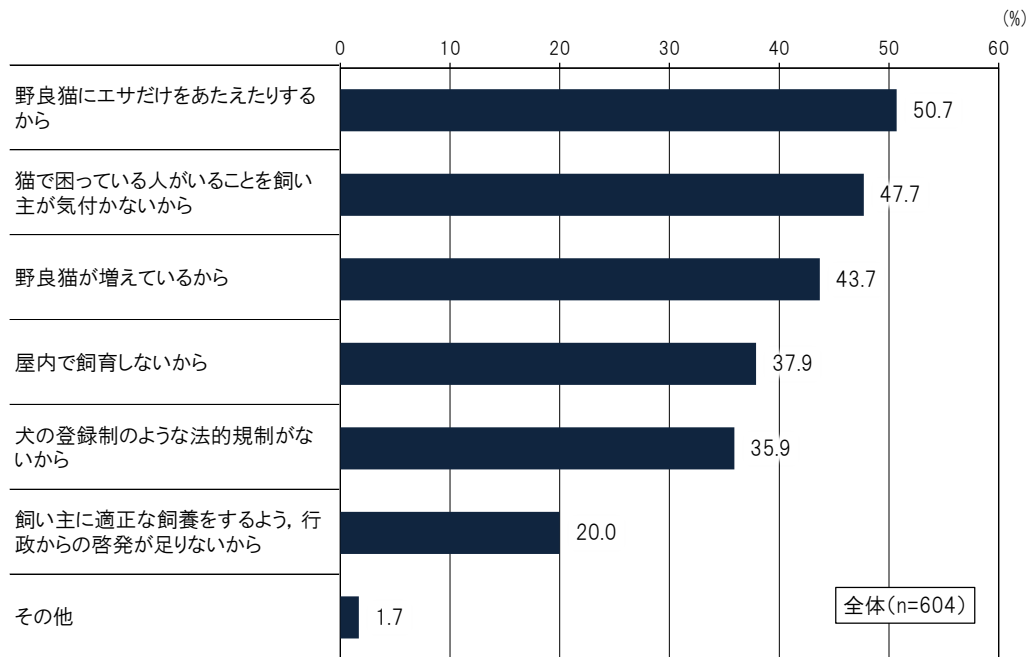
		調査数	我慢した	自分で工夫した	町内会・管理組合などに相談した	飼い主に注意した	行政窓口で相談した	動物病院に相談した	無回答
全 体		604 100.0	422 69.9	219 36.3	32 5.3	27 4.5	23 3.8	-	22 3.6
性別	男性	233	64.8	40.8	6.4	6.0	4.3	-	2.1
	女性	367	73.3	33.5	4.6	3.5	3.5	-	4.4
	無回答	4	50.0	25.0	-	-	-	-	25.0
年齢別	20代	44	70.5	27.3	2.3	2.3	-	-	6.8
	30代	91	81.3	33.0	1.1	6.6	1.1	-	2.2
	40代	117	76.9	30.8	2.6	0.9	1.7	-	4.3
	50代	100	68.0	38.0	8.0	5.0	7.0	-	2.0
	60歳以上	250	63.6	40.8	7.6	5.6	5.2	-	3.6
	無回答	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	297	68.0	49.5	4.0	4.4	4.4	-	1.7
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	107	74.8	23.4	12.1	2.8	2.8	-	4.7
	市営住宅	21	52.4	14.3	14.3	4.8	9.5	-	14.3
	県営住宅	5	100.0	-	-	-	-	-	-
	公団・公社の賃貸住宅	18	72.2	22.2	-	5.6	11.1	-	-
	民間の借家(一戸建て)	25	52.0	64.0	-	8.0	-	-	-
	民間の借家(アパート・マンション)	110	75.5	17.3	2.7	3.6	2.7	-	6.4
	社宅・寮など(一戸建て)	1	100.0	-	-	-	-	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	13	76.9	7.7	-	15.4	-	-	7.7
	その他	3	100.0	66.7	-	33.3	-	-	-
無回答	4	25.0	50.0	25.0	-	-	-	25.0	

④被害がなくなる原因

問 27-3 (問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 猫で困ったことがなくなる原因は何だと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

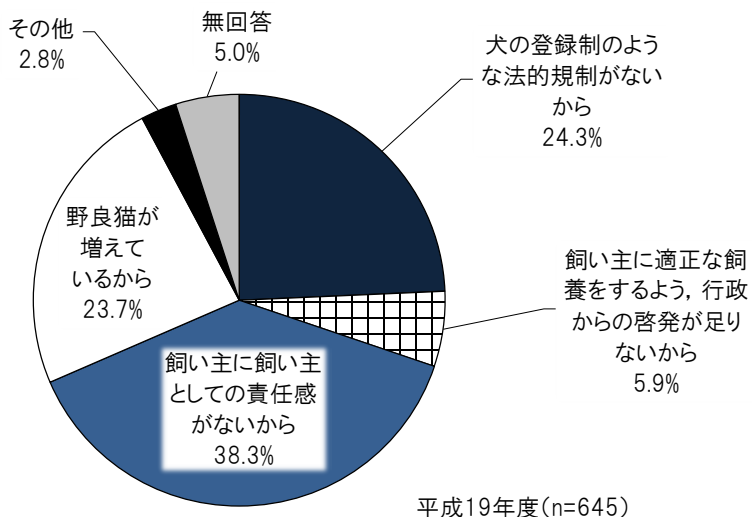
猫による被害がなくなる原因を尋ねたところ、「野良猫にエサだけをあたえたりするから」(50.7%) が最も多く、次いで「猫で困っている人がいることを飼い主が気付かないから」(47.7%)、「野良猫が増えているから」(43.7%)、「屋内で飼育しないから」(37.9%)、「犬の登録制のような法的規制がないから」(35.9%) となっており、様々な意見にわかれている。

図 3-4-6 被害がなくなる原因 (複数回答)



なお、平成 19 年度調査は単数回答のため、参考程度に掲載する。

図 3-4-7 参考：被害がなくなる原因 (単数回答)



性別にみると、女性は男性に比べ「猫で困っている人がいることを飼い主が気付かないから」と答える人が多くみられる。

年齢別にみると、30代で「野良猫に餌だけをあたえたりするから」の割合が高くなっている。

住宅の所有形式別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、市営住宅において「野良猫にエサだけをあたえたりするから」と答える人が多くみられる。

表 3-4-5 被害がなくなる原因（性別、年齢別、住宅の所有形式別）

(単位:%)

		サ ン プ ル 数	た 野 え 良 猫 に す エ サ だ け を あ	か る こ と を 飼 い 主 が 人 気 が 付 い	ら 野 良 猫 が 増 え て い る か	屋 内 で 飼 育 し な い か ら	的 大 規 制 が 登 録 制 の か よ う な 法	啓 す 飼 い 主 に 適 正 な 行 動 を	飼 い 主 が よ う に 政 か ら 養 を	そ の 他	無 回 答
全 体		604 100.0	306 50.7	288 47.7	264 43.7	229 37.9	217 35.9	121 20.0	10 1.7	27 4.5	
性別	男性	233	51.9	42.9	42.1	42.9	36.5	21.5	1.7	6.0	
	女性	367	49.9	50.7	45.0	34.6	35.4	19.3	1.6	3.5	
	無回答	4	50.0	50.0	25.0	50.0	50.0	-	-	-	
年齢別	20代	44	50.0	36.4	40.9	20.5	34.1	11.4	-	6.8	
	30代	91	60.4	49.5	53.8	39.6	39.6	20.9	2.2	4.4	
	40代	117	49.6	47.0	58.1	41.0	32.5	15.4	1.7	5.1	
	50代	100	44.0	47.0	44.0	41.0	36.0	21.0	3.0	3.0	
	60歳以上	250	50.0	49.2	34.0	37.6	36.0	23.2	1.2	4.4	
	無回答	2	100.0	100.0	-	50.0	100.0	-	-	-	
住宅の 所有 形式 別	持ち家(一戸建て)	297	50.2	50.2	42.8	44.8	38.4	22.9	1.3	4.4	
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	107	48.6	48.6	41.1	33.6	38.3	28.0	0.9	2.8	
	市営住宅	21	61.9	47.6	42.9	28.6	38.1	33.3	-	14.3	
	県営住宅	5	60.0	20.0	60.0	40.0	60.0	-	-	-	
	公団・公社の賃貸住宅	18	44.4	38.9	33.3	27.8	33.3	5.6	11.1	11.1	
	民間の借家(一戸建て)	25	48.0	64.0	48.0	36.0	28.0	4.0	-	4.0	
	民間の借家(アパート・マンション)	110	51.8	40.9	50.0	26.4	28.2	10.9	1.8	4.5	
	社宅・寮など(一戸建て)	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	
	社宅・寮など(アパート・マンション)	13	53.8	38.5	38.5	30.8	15.4	7.7	7.7	-	
	その他	3	66.7	33.3	66.7	66.7	66.7	33.3	-	-	
無回答	4	75.0	50.0	-	75.0	75.0	-	-	-		

(3) 飼い猫の登録制について

① 飼い猫の登録制導入についての意見

問 28 【全員】 飼い猫について犬と同様に登録制を導入することについてどう思いますか。
 (○は1つだけ)

飼い猫の登録制導入についての意見をみると、「賛成」(56.9%)が「反対」(4.9%)を大きく上回っている。なお、「わからない」(33.2%)が約3割みられる。

猫の飼育有無別にみると、飼っている人の4割以上が「賛成」と回答しているが、「反対」が17.2%みられる。

図 3-4-8 飼い猫の登録制導入についての意見 (単数回答)

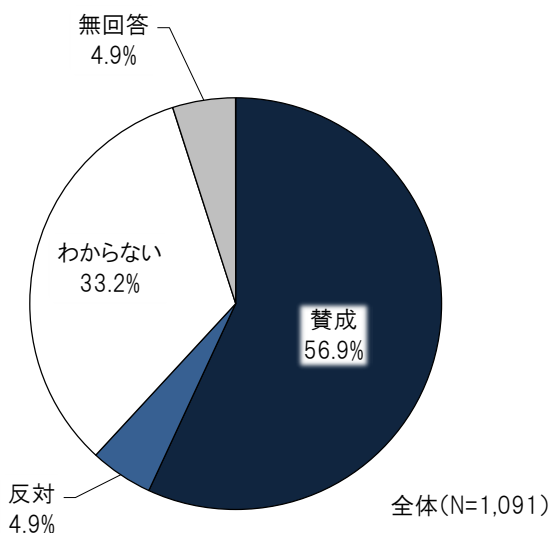


表 3-4-6 飼い猫の登録制導入についての意見 (猫の飼育有無別)

(単位: %)

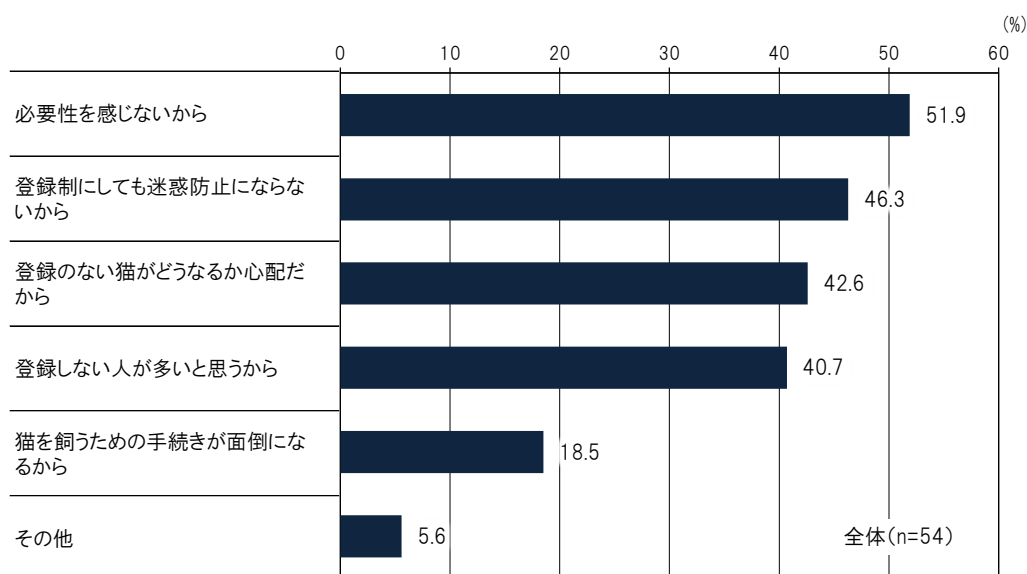
		調査数	賛成	反対	わからない	無回答
全 体		1,091	621	54	362	54
		100.0	56.9	4.9	33.2	4.9
有無別 飼育の猫	飼っている	58	44.8	17.2	37.9	-
	飼っていない	990	57.7	4.2	32.9	5.2
	無回答	43	55.8	4.7	32.6	7.0

②登録制に反対の理由

問 28-1 (問 28 で「2. 反対」と回答された方のみお答え下さい。) 反対の理由について、あてはまるものをいくつでも答えください。(〇はいくつでも)

登録制に反対の理由を尋ねたところ、「必要性を感じないから」が 51.9%で最も多く、以下「登録制にしても迷惑防止にならないから」(46.3%)、「登録のない猫がどうなるか心配だから」(42.6%)、「登録しない人が多いと思うから」(40.7%)、「猫を飼うための手続きが面倒になるから」(18.5%)と続いている。

図 3-4-9 登録制に反対の理由 (複数回答)



③登録制ができた場合の飼い猫の登録手続き意向

問 29 【全員】 もし、登録制ができたとき、あなたは自分の猫の登録手続きをしますか。猫を飼って
られない方は飼っていると想定してお答えください。(○は1つだけ)

登録制ができた場合の飼い猫の登録手続き意向をみると、「する」が 83.3%と大多数を占めており、「しない」(8.7%)は1割にも満たない。

猫の飼育有無別にみると、飼っている人の大半が「賛成」と回答しているが、「反対」も2割程度みられる。

図 3-4-10 登録制ができた場合の飼い猫の登録手続き意向 (単数回答)

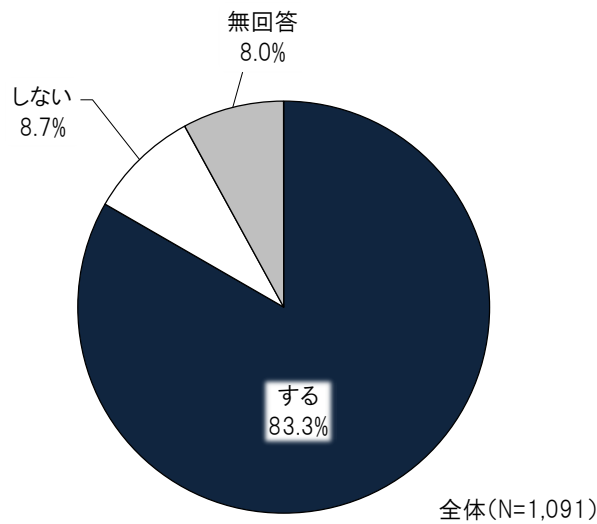


表 3-4-7 登録制ができた場合の飼い猫の登録手続き意向 (猫の飼育有無別)

(単位:%)

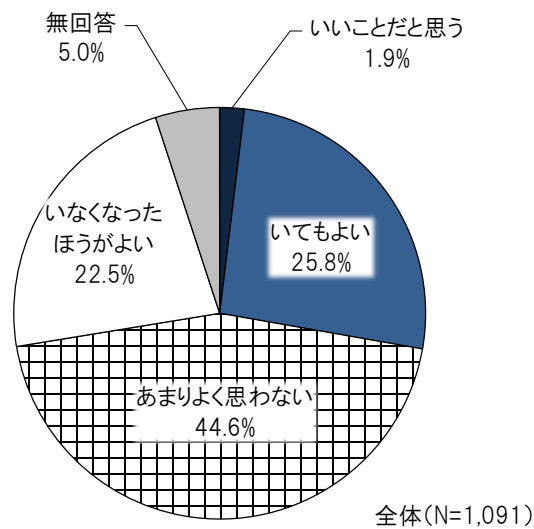
		調査数	する	しない	無回答
全 体		1,091	909	95	87
		100.0	83.3	8.7	8.0
有 無 飼 猫 の 飼 育 別	飼っている	58	81.0	19.0	-
	飼っていない	990	83.7	8.2	8.1
	無回答	43	76.7	7.0	16.3

(4) まちの中に野良猫がいることについての意見

問 30 【全員】 まちの中に野良ネコがいることをどう思いますか。(○は1つだけ)

まちの中に野良猫がいることについての意見を尋ねたところ、「いいことだと思う」(1.9%)、「いてもよい」(25.8%)という『肯定派』は3割弱にとどまり、「あまりよく思わない」(44.6%)、「いなくなったほうがよい」(22.5%)という『否定派』が7割弱を占めている。

図 3-4-11 まちの中に野良猫がいることについての意見 (単数回答)



性別にみると、男女とも全体結果とほぼ同様の傾向を示している。

年齢別にみると、年齢が低くなるほど『肯定派』は多くなる傾向にあり、20代～30代は『肯定派』が約半数を占める。

住宅の所有形式別にみると、いずれの所有形式とも『否定派』が『肯定派』を上回り、持ち家（一戸建て）においてその傾向が強い。

居住地区別にみると、すべての地区において『否定派』が『肯定派』を上回り、南区、城南区、西区においてその傾向が強い。

地域環境別にみると、住宅地（一戸建てが多い）において『否定派』がかなり多くみられる。

表 3-4-8 まちの中に野良猫がいることについての意見
(性別、年齢別、住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別)

(単位:%)

		調査数	いいことだと思う	いてもよい	あまりよく思わない	よいなくなつたほうが	無回答
全 体		1,091 100.0	21 1.9	282 25.8	487 44.6	246 22.5	55 5.0
性別	男性	407	1.7	24.6	43.0	26.3	4.4
	女性	672	2.1	26.8	45.8	20.2	5.1
	無回答	12	-	16.7	33.3	25.0	25.0
年齢別	20代	104	7.7	37.5	40.4	11.5	2.9
	30代	164	3.0	42.7	36.0	15.2	3.0
	40代	205	2.4	29.8	46.8	19.0	2.0
	50代	179	0.6	26.3	53.6	16.2	3.4
	60歳以上	435	0.5	14.9	44.6	32.2	7.8
	無回答	4	-	-	-	25.0	75.0
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	379	1.6	16.9	42.7	34.0	4.7
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	274	0.7	25.5	48.5	20.4	4.7
	市営住宅	45	2.2	24.4	51.1	20.0	2.2
	県営住宅	7	-	-	42.9	57.1	-
	公団・公社の賃貸住宅	48	-	41.7	43.8	6.3	8.3
	民間の借家(一戸建て)	30	6.7	20.0	56.7	10.0	6.7
	民間の借家(アパート・マンション)	267	2.6	37.8	42.3	12.7	4.5
	社宅・寮など(一戸建て)	1	-	100.0	-	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	26	7.7	30.8	50.0	7.7	3.8
	その他	7	-	14.3	28.6	42.9	14.3
無回答	7	14.3	-	-	42.9	42.9	
居住地区別	東区	242	2.5	24.0	49.6	19.8	4.1
	博多区	145	2.1	29.0	40.0	24.1	4.8
	中央区	104	1.9	36.5	41.3	15.4	4.8
	南区	178	2.8	24.2	48.9	21.3	2.8
	城南区	95	1.1	22.1	35.8	34.7	6.3
	早良区	154	0.6	26.6	48.1	17.5	7.1
	西区	169	1.8	23.1	42.0	28.4	4.7
	無回答	4	-	-	-	25.0	75.0
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	535	1.5	30.1	45.4	18.3	4.7
	住宅地(一戸建てが多い)	459	2.2	21.1	44.7	27.7	4.4
	商業地・繁華街	35	2.9	25.7	42.9	22.9	5.7
	工場や倉庫が多い地域	14	7.1	42.9	50.0	-	-
	緑が多い地域	33	3.0	21.2	33.3	33.3	9.1
	無回答	15	-	13.3	40.0	13.3	33.3

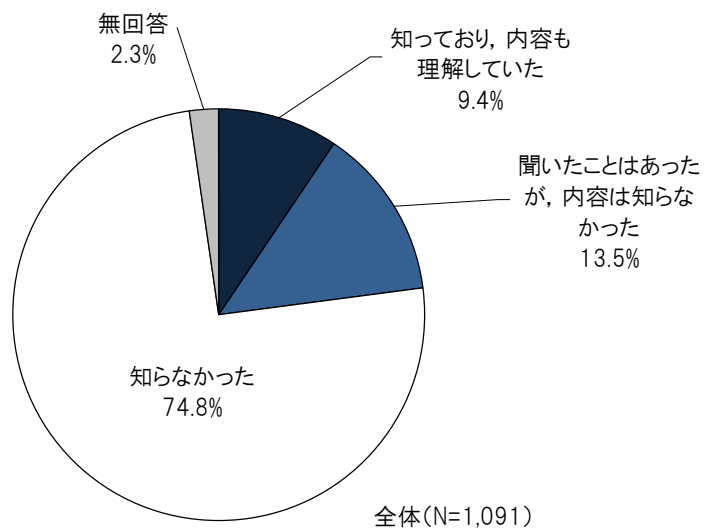
5. 地域猫活動について

(1) 地域猫活動の認知状況

問 31 【全員】 あなたは、地域猫活動を知っていましたか。(○は1つだけ)

地域猫活動の認知状況をみると、「知っており、内容も理解していた」(9.4%)、「聞いたことはあったが、内容は知らなかった」(13.5%)を合わせた『認知率』は2割強にとどまっている。一方、「知らなかった」が74.8%と大多数を占めている。

図 3-5-1 地域猫活動の認知状況 (単数回答)



性別にみると、女性が男性に比べ『認知率』が高くなっている。

年齢別にみると、20代で「知らなかった」と答える人が多くみられる。

居住地区別にみると、『認知率』が最も高いのは中央区であり、逆に博多区は『認知率』が最も低い。

表 3-5-1 地域猫活動の認知状況（性別、年齢別、居住地区別）

(単位:%)

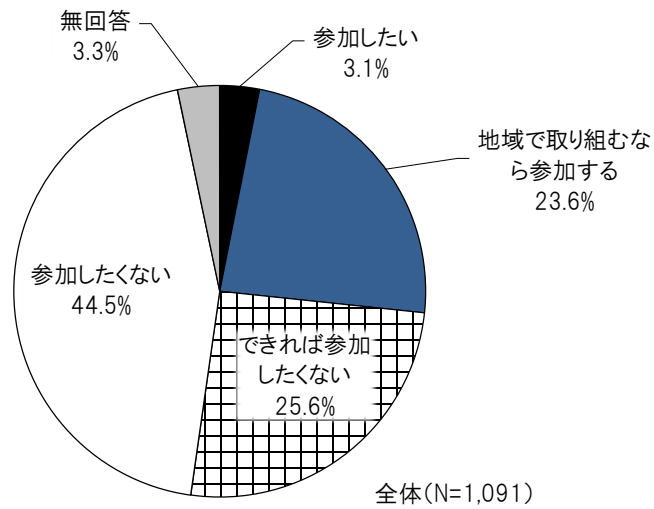
		調査数	解知して おり、 内容も 理	たが聞 いたこ 内容は 知らな かつ	知らな かつ	無回 答
全 体		1,091 100.0	103 9.4	147 13.5	816 74.8	25 2.3
性別	男性	407	7.6	12.3	78.1	2.0
	女性	672	10.6	14.1	72.9	2.4
	無回答	12	8.3	16.7	66.7	8.3
年齢別	20代	104	9.6	6.7	82.7	1.0
	30代	164	13.4	14.0	72.6	-
	40代	205	9.3	13.2	76.1	1.5
	50代	179	9.5	15.6	74.3	0.6
	60歳以上	435	8.0	14.0	73.6	4.4
	無回答	4	-	25.0	50.0	25.0
居住地区別	東区	242	7.0	14.5	76.4	2.1
	博多区	145	3.4	6.9	86.9	2.8
	中央区	104	20.2	17.3	61.5	1.0
	南区	178	8.4	17.4	72.5	1.7
	城南区	95	10.5	18.9	68.4	2.1
	早良区	154	10.4	8.4	77.3	3.9
	西区	169	11.2	12.4	74.6	1.8
	無回答	4	-	25.0	50.0	25.0

(2) 地域猫活動への参加意向

問 32 【全員】 あなたは地域猫活動に参加したいと思いますか。(○は1つだけ)

地域猫活動に対する参加意向をみると、「参加したい」は3.1%と低く、「地域で取り組むなら参加したい」(23.6%)を合わせた『参加意向あり』が2割強にとどまっている。一方、「できれば参加したくない」(25.6%)、「参加したくない」(44.5%)を合わせた『参加意向なし』は7割を占めている。

図 3-5-2 地域猫活動への参加意向 (単数回答)



性別にみると、男女とも全体結果とほぼ同様の傾向を示している。

年齢別にみると、20代、30代の若年層において、『参加意向あり』がやや多くみられる。

住宅の所有形式別にみると、公団・公社の賃貸住宅において『参加意向なし』が9割弱を占めている。

居住地区別にみると、どの地区とも全体結果とほぼ同様の傾向を示しているが、『参加意向あり』が最も多いのは西区、最も低いのは早良区となっている。

地域環境別にみると、商業地・繁華街において『参加意向なし』が8割以上を占めている。なお、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、工場や倉庫が多い地域での参加意向者が多くみられる。

表 3-5-2 地域猫活動への参加意向
(性別、年齢別、住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別)

(単位:%)

		調査数	参加したい	加地域で取り組むなら参加	できれば参加したくない	参加したくない	無回答
全 体		1,091 100.0	34 3.1	257 23.6	279 25.6	485 44.5	36 3.3
性別	男性	407	2.9	24.8	22.6	46.4	3.2
	女性	672	3.3	22.9	27.4	43.3	3.1
	無回答	12	-	16.7	25.0	41.7	16.7
年齢別	20代	104	3.8	27.9	32.7	32.7	2.9
	30代	164	5.5	25.6	26.2	41.5	1.2
	40代	205	4.9	22.4	27.8	43.4	1.5
	50代	179	3.4	22.9	28.5	43.6	1.7
	60歳以上	435	1.1	22.5	21.4	49.4	5.5
	無回答	4	-	25.0	25.0	25.0	25.0
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	379	2.1	24.3	24.8	47.0	1.8
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	274	3.3	23.4	23.4	45.6	4.4
	市営住宅	45	4.4	20.0	24.4	46.7	4.4
	県営住宅	7	-	14.3	28.6	57.1	-
	公団・公社の賃貸住宅	48	-	12.5	39.6	47.9	-
	民間の借家(一戸建て)	30	6.7	40.0	20.0	23.3	10.0
	民間の借家(アパート・マンション)	267	4.5	25.1	27.0	40.4	3.0
	社宅・寮など(一戸建て)	1	-	-	100.0	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	26	3.8	11.5	34.6	46.2	3.8
	その他	7	-	14.3	-	57.1	28.6
無回答	7	-	28.6	14.3	42.9	14.3	
居住地区別	東区	242	2.1	21.9	28.9	44.6	2.5
	博多区	145	1.4	24.1	24.8	45.5	4.1
	中央区	104	3.8	26.9	26.9	38.5	3.8
	南区	178	4.5	23.6	23.6	44.4	3.9
	城南区	95	1.1	22.1	23.2	49.5	4.2
	早良区	154	3.2	19.5	27.9	45.5	3.9
	西区	169	5.3	27.8	21.9	43.8	1.2
	無回答	4	-	25.0	25.0	25.0	25.0
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	535	3.4	22.2	26.7	43.9	3.7
	住宅地(一戸建てが多い)	459	3.3	25.1	24.2	44.9	2.6
	商業地・繁華街	35	-	14.3	25.7	57.1	2.9
	工場や倉庫が多い地域	14	7.1	28.6	14.3	50.0	-
	緑が多い地域	33	-	30.3	30.3	36.4	3.0
	無回答	15	-	26.7	26.7	33.3	13.3

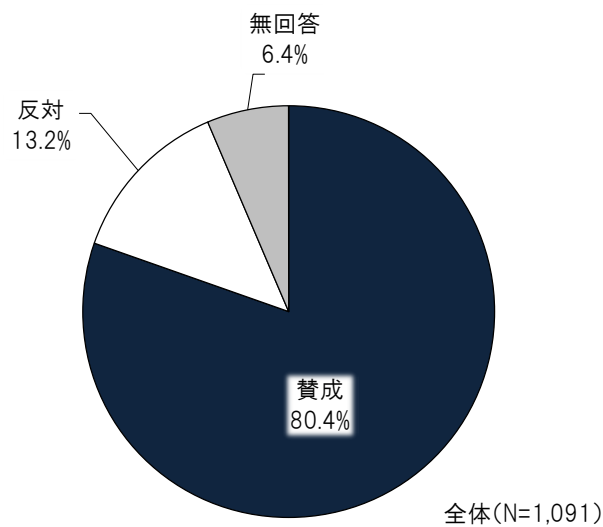
(3) 自分の住む地域での地域猫活動実施について

①自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見

問 33 【全員】あなたは、自分の住む地域において、野良ネコの問題が起こったときの対策として、地域猫活動を行うことをどう思いますか。(○は1つだけ)

自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見をみると、「賛成」(80.4%)が8割以上と、「反対」(13.2%)を大きく上回っている。

図 3-5-3 自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見 (単数回答)



性別にみると、男女とも全体結果とほぼ同様の傾向を示している。

年齢別にみると、いずれの年齢も「賛成」の割合が「反対」を大きく上回っているが、50代で「反対」の割合がやや高くなっている。

居住地区別にみると、「賛成」の割合が最も高いのは中央区、最も低いのは城南区となっている。

地域環境別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、工場や倉庫が多い地域において「賛成」と答える人が9割以上を占めている。

表 3-5-3 自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見
(性別、年齢別、居住地区別、地域環境別)

(単位:%)

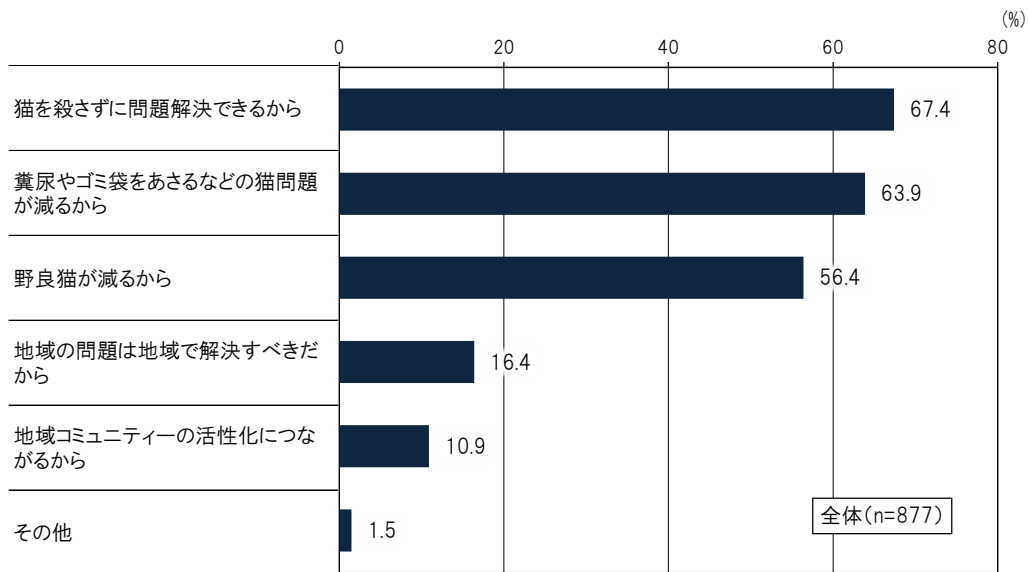
		調査数	賛成	反対	無回答
全 体		1,091 100.0	877 80.4	144 13.2	70 6.4
性別	男性	407	81.6	12.5	5.9
	女性	672	80.2	13.2	6.5
	無回答	12	50.0	33.3	16.7
年齢別	20代	104	86.5	12.5	1.0
	30代	164	83.5	15.2	1.2
	40代	205	84.4	12.2	3.4
	50代	179	79.3	17.3	3.4
	60歳以上	435	76.8	11.0	12.2
	無回答	4	25.0	50.0	25.0
居住地区別	東区	242	78.5	17.8	3.7
	博多区	145	79.3	12.4	8.3
	中央区	104	85.6	8.7	5.8
	南区	178	80.9	14.6	4.5
	城南区	95	76.8	15.8	7.4
	早良区	154	82.5	8.4	9.1
	西区	169	81.7	10.7	7.7
	無回答	4	25.0	50.0	25.0
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	535	81.9	12.3	5.8
	住宅地(一戸建てが多い)	459	79.7	13.9	6.3
	商業地・繁華街	35	71.4	17.1	11.4
	工場や倉庫が多い地域	14	92.9	7.1	-
	緑が多い地域	33	78.8	12.1	9.1
	無回答	15	60.0	20.0	20.0

②地域猫活動実施に賛成の理由

問 33-1 (問 33 で「1. 賛成」と回答された方のみお答え下さい。) 地域猫活動に賛成の理由について、あてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

地域猫活動実施に賛成の理由を尋ねたところ、「猫を殺さずに問題解決できるから」(67.4%)、「糞尿やごみ袋をあさるなどの猫問題が減るから」(63.9%)、「野良猫が減るから」(56.4%)などの意見が上位にあがっている。

図 3-5-4 地域猫活動実施に賛成の理由 (複数回答)



性別にみると、女性は男性に比べ「猫を殺さずに問題解決できるから」と答える人が多く、男性は「地域の問題は地域で解決すべきだから」と回答する割合が最も高くなっている。

年齢別にみると、30代では「猫を殺さずに問題解決できるから」、50代以上では「糞尿やごみ袋をあさるなどの猫問題が減るから」、「野良猫が減るから」と答える人が多くみられる。

居住地区別にみると、中央区において「猫を殺さずに問題解決できるから」と答える人が多い。

地域環境別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、工場や倉庫が多い地域において「糞尿やごみ袋をあさるなどの猫問題が減るから」、「野良猫が減るから」、「地域の問題は地域で解決すべきだから」と答える人が多くみられる。

表 3-5-4 地域猫活動実施に賛成の理由（性別、年齢別、居住地区別、地域環境別）

(単位:%)

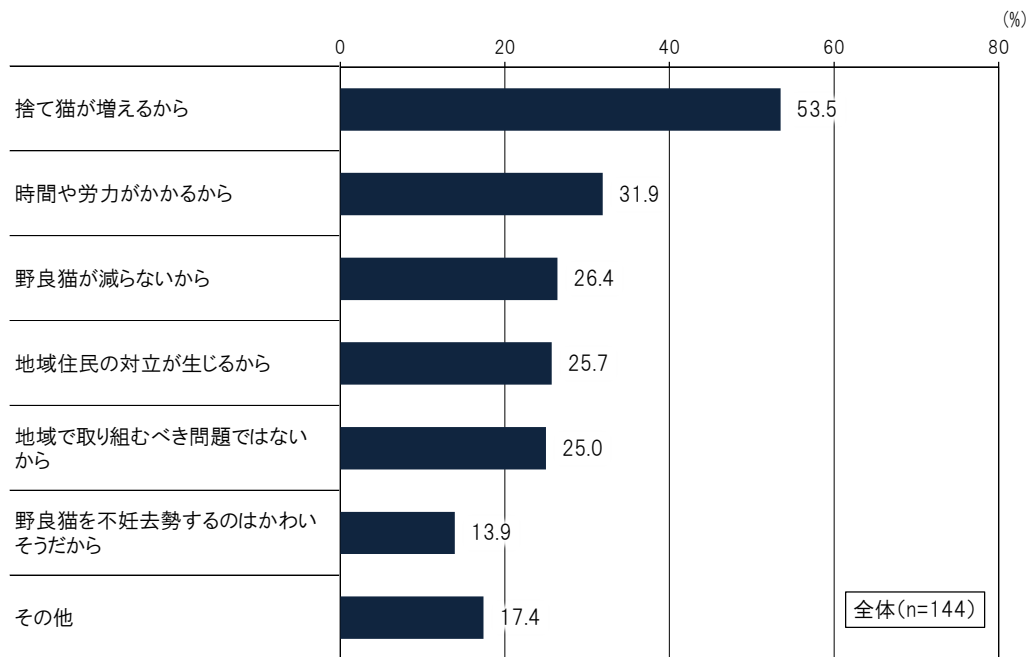
		調査数	猫を殺さずに問題解決できるから	糞尿やごみ袋をあさるなどの猫問題が減るから	野良猫が減るから	地域の問題は地域で解決すべきだから	地域活性化につながるから	その他	無回答
全 体		877 100.0	591 67.4	560 63.9	495 56.4	144 16.4	96 10.9	13 1.5	6 0.7
性別	男性	332	54.8	66.6	56.9	21.4	12.3	0.9	0.6
	女性	539	75.0	62.2	56.2	13.0	10.0	1.9	0.7
	無回答	6	83.3	66.7	50.0	50.0	16.7	-	-
年齢別	20代	90	71.1	58.9	35.6	15.6	12.2	-	1.1
	30代	137	79.6	51.8	46.7	13.9	10.9	2.2	0.7
	40代	173	70.5	61.8	48.6	13.9	7.5	1.7	-
	50代	142	68.3	68.3	62.0	15.5	14.1	1.4	-
	60歳以上	334	59.3	69.2	67.7	19.5	11.1	1.5	1.2
	無回答	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
居住地区別	東区	190	65.3	67.9	50.5	15.8	10.0	2.6	1.1
	博多区	115	64.3	54.8	56.5	13.0	13.0	0.9	-
	中央区	89	79.8	52.8	57.3	13.5	10.1	-	-
	南区	144	74.3	66.0	59.0	17.4	12.5	1.4	0.7
	城南区	73	65.8	65.8	56.2	20.5	11.0	2.7	2.7
	早良区	127	68.5	62.2	57.5	13.4	14.2	2.4	-
	西区	138	57.2	71.0	60.1	21.7	6.5	-	0.7
	無回答	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	438	70.1	56.8	50.0	14.8	11.2	0.9	0.7
	住宅地(一戸建てが多い)	366	64.8	71.3	63.1	18.6	10.4	2.2	0.8
	商業地・繁華街	25	68.0	44.0	68.0	12.0	20.0	4.0	-
	工場や倉庫が多い地域	13	61.5	69.2	23.1	7.7	15.4	-	-
	緑が多い地域	26	53.8	84.6	69.2	26.9	7.7	-	-
	無回答	9	88.9	88.9	77.8	-	-	-	-

③地域猫活動実施に反対の理由

問 33-2 (問 33 で「2. 反対」と回答された方のみお答え下さい。) 地域猫活動に反対の理由について、あてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

地域猫活動実施に反対の理由を尋ねたところ、「捨て猫が増えるから」(53.5%) が最も多く、以下、「時間や労力がかかるから」(31.9%)、「野良猫が減らないから」(26.4%)、「地域住民の対立が生じるから」(25.7%)、「地域で取り組むべき問題ではないから」(25.0%)、「野良猫を不妊去勢するのはかわいそうだから」(13.9%) などと続いている。

図 3-5-5 地域猫活動実施に反対の理由 (複数回答)



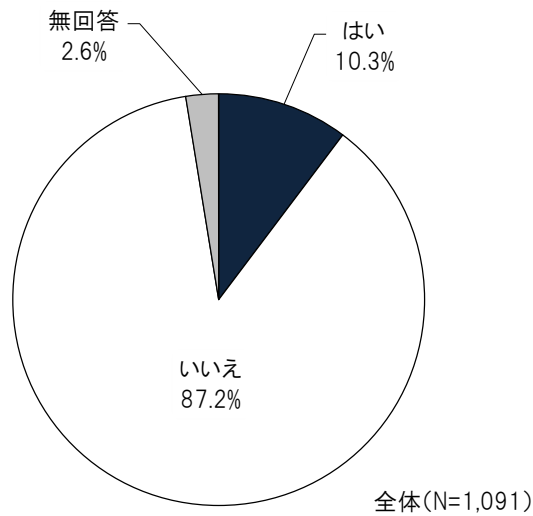
6. 犬や猫の多頭飼育について

(1) 近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験

問 34 【全員】 近隣での犬や猫の多頭飼育が原因で困った経験はありますか。(○は1つだけ)

近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験をみると、「はい」(10.3%)と答える人が1割程度みられる。

図 3-6-1 近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験 (単数回答)



居住地区別にみると、城南区において「はい」と答える人が多くみられる。
 地域環境別にみると、住宅地（一戸建てが多い）で「はい」と答える人が多くみられる。

表 3-6-1 近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験（居住地区別、地域環境別）

(単位:%)

		サンプル数	はい	いいえ	無回答
全 体		1,091 100.0	112 10.3	951 87.2	28 2.6
居住地区別	東区	242	10.3	87.6	2.1
	博多区	145	10.3	86.9	2.8
	中央区	104	8.7	89.4	1.9
	南区	178	7.3	89.9	2.8
	城南区	95	16.8	78.9	4.2
	早良区	154	7.8	89.0	3.2
	西区	169	12.4	86.4	1.2
	無回答	4	25.0	50.0	25.0
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	535	8.8	89.2	2.1
	住宅地(一戸建てが多い)	459	13.3	84.1	2.6
	商業地・繁華街	35	5.7	88.6	5.7
	工場や倉庫が多い地域	14	7.1	92.9	-
	緑が多い地域	33	-	97.0	3.0
	無回答	15	6.7	80.0	13.3

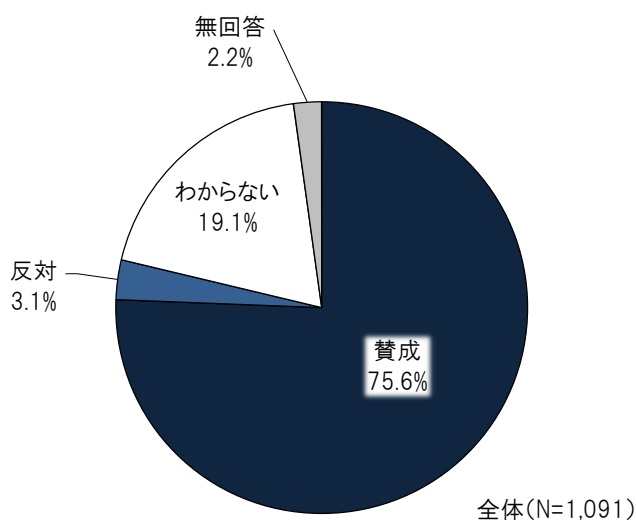
(2) 一定数以上の犬猫を飼育する者へ届出義務を課すことについて

①届出義務を課すことについての意見

問 35【全員】近隣への迷惑防止や飼い主の適正飼育を促すため、一定数以上の犬猫を飼育する者に届出義務を課すなど規制することについてどう思いますか。(〇は1つだけ)

一定数以上の犬猫を飼育する者へ届出義務を課すことについての考えをみると、「賛成」(75.6%)、「反対」(3.1%)を大きく上回っている。

図 3-6-2 届出義務を課すことについての意見 (単数回答)

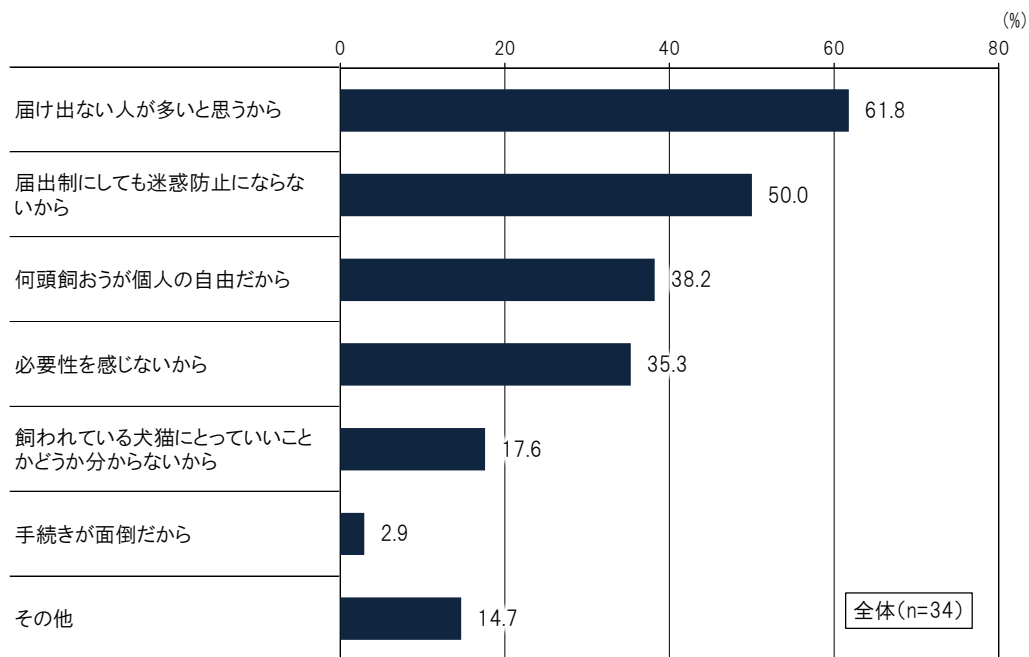


②届出義務を課すことに反対の理由

問 35-1 (問 35 で「2. 反対」と回答された方のみお答え下さい。) 反対の理由について、あてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

届出義務を課すことに反対の理由を尋ねたところ、「届け出ない人が多いと思うから」が61.8%と最も多く、次いで「届出制にしても迷惑防止にならないから」(50.0%)、「何頭飼おうが個人の自由だから」(38.2%)、「必要性を感じないから」(35.3%)となっている。

図 3-6-3 届出義務を課すことに反対の理由 (複数回答)



7. 調査結果のまとめ

本市では、平成7年度より「ペットに関する市民意識調査」を実施し、今回の調査で4回目となる。

現在、全国的にペットに関する社会問題等が顕在化している中、ここからは、今回調査した設問項目のうち主な項目をいくつか選んで、総理府が実施した全国調査（「動物愛護に関する世論調査」）との比較を含め、調査結果のまとめを行う。

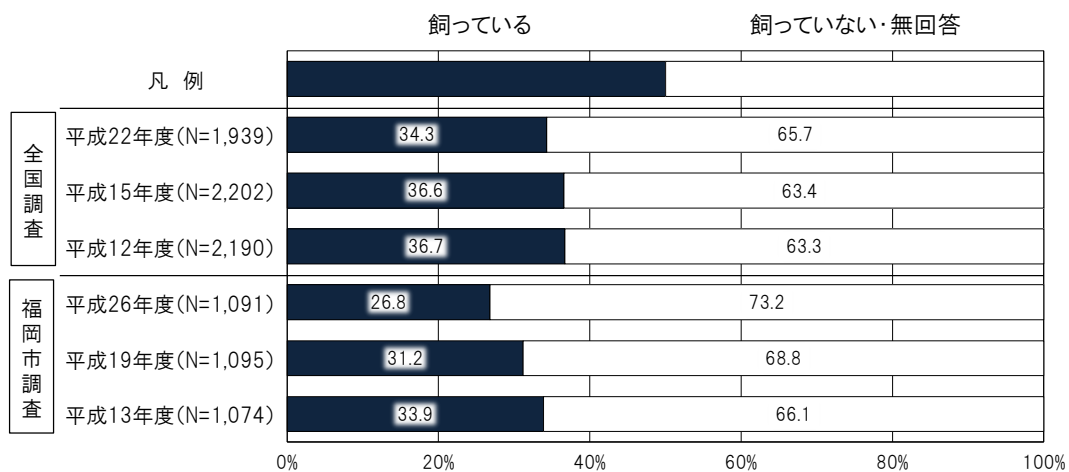
(1) ペットの飼養状況

本市におけるペットに飼養状況を見ると、「飼っている」が26.8%と過去の調査結果に比べ減少傾向を示している。一方、同一時期に実施していないため単純に比較はできないが、全国調査の飼養率は3割台で推移し、本市の動向と大きく異なっている。

また、ペットの種類別飼養状況を見ると、唯一「は虫類」（2.3%）のみが微増となっているものの、「犬」（12.6%）、「猫」（5.3%）など、ほとんどのペットで飼養率は減少している。全国調査でもペットの種類別にみた飼養率は減少しているが、「猫」、「魚類」は増加傾向を示している。

なお、本市における飼っている「犬」、「猫」の頭数をみると、「犬」は1.18頭と過去の調査結果とあまり差はないが、「猫」は2.22頭で過去の調査結果から大きく増えている。

＜ペットの飼養状況の推移＞



ペットを飼っていない理由をみると、本市においては「集合住宅、賃貸住宅などで、禁止されているから」が最も多いのに対し、全国調査では「十分に世話ができないから」という理由が最も多く、地域環境の違いにより回答結果が異なっている。

(2) 犬、猫を飼養する側の配慮

犬を飼養する人の配慮みると、「かかりつけの病院が1つ以上ある」(95.6%)、「屋内で飼育している」(81.0%)、「福岡市への登録をしている」(80.3%)、「狂犬病の予防注射を毎年受けている」(73.0%)、「去勢や不妊手術を受けた」(43.8%)となっている。しかし、屋内飼育者が8割を占めるため、「しつけを十分している」は40.1%と低く、福岡市への登録義務、狂犬病予防注射の実施義務、鑑札の装着義務を知らない人がいるなど、指導を徹底する必要がある。

また、猫を飼養する人の配慮をみると、「去勢や不妊手術を受けた」(81.0%)、「かかりつけの病院が1つ以上ある」(79.3%)となっている。しかし、「屋外には一切出さず、屋内のみ飼っている」(63.8%)、「猫のトイレは必ず家の中の猫用トイレでさせている」(70.7%)など、猫の飼い方に注意しているものの「迷子札などを付けている」(31.1%)は少ない状況となっている。

なお、犬、猫への「去勢や不妊手術」は、全国調査の結果に比べ本市の実施率が高くなっている。

(3) 犬、猫による被害と対応

犬、猫による被害の状況みると、「他人が飼っている犬や野良犬で困ったことがある」という人は49.6%、「野良猫や近所の猫で困ったことがある」という人は55.4%と、ほぼ半数の人が困った経験をしており、困った内容で最も多いのは、犬、猫ともに「糞・尿」となっている。

しかし、猫を飼っている人に近隣への迷惑について尋ねたところ、「何かしら迷惑をかけている」と答える人は20.7%で、その内容も「鳴き声」に特化しており、市民と飼い主の考え方が大きく異なっている。

これらの困ったことに対する対処の方法をみても、「飼い主に注意した」という人は、犬では16.6%、猫では4.5%と飼い主に直接伝える人は少なく、特に猫の場合は大半が「我慢した」と回答している。

本市が検討する飼い猫の登録制導入については、「賛成」(56.9%)が「反対」(4.9%)を大きく上回っている。また、近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験は1割程度とどまっているが、一定数以上の犬猫を飼育する者へ届出義務を課すことについても、「賛成」(75.6%)、「反対」(3.1%)を大きく上回っており、飼い猫の登録制と同様に積極的な対応が求められる。

(4) 地域猫活動について

本市がすすめている「地域猫活動」についてみると、「知っており、内容も理解していた」が9.4%と低く、「聞いたことはあったが、内容は知らなかった」(13.5%)を合わせた認知率全体でも2割強にとどまっている。

しかし、自分の住む地域での地域猫活動の実施については、「賛成」(80.4%)が「反対」(13.2%)を大きく上回っており、活動の周知・広報に努めるとともに野良猫問題の対策を推進することが必要である。

<主要項目結果一覧表>

(単位:%)

項目	対象	福岡市				国(H22)	
		H7	H13	H19	H26		
問8	犬猫などのペットを遺棄したものは100万円以下の罰金に処せられることを知っている人の割合				25.0		
問11	災害により避難する場合、飼っている動物と一緒に避難する同行援護が原則となっていることを知っている人の割合				17.0		
問14	犬の去勢や不妊手術を受けたと答えた人の割合	犬飼養者	22.7	36.0	38.0	43.8	※1)30.8
問16	犬のかかりつけ動物病院があると答えた人の割合(1つある+複数ある)	〃			94.2	95.6	
問17	犬を福岡市へ登録していると答えた人の割合(登録している+登録していない犬もいる)	〃	84.0	79.3	84.3	82.5	
問17-2	犬を福岡市へ登録している(登録している+登録していない犬もいる)人のうち、鑑札を装着していると答えた人の割合	〃			26.4	18.6	
問17-1	犬を福岡市へ登録している(登録している+登録していない犬もいる)人のうち、鑑札の装着が法律で義務付けられていることを知っていたと答えた人の割合	〃			59.0	65.5	
問18	狂犬病予防注射を受けていると答えた人の割合(毎年受けている+受けないことがある)	犬飼養者		90.7	83.7	87.7	
問18-2	狂犬病予防注射を受けている(毎年受けている+受けないことがある)人のうち、狂犬病予防注射済票を装着していると答えた人の割合	〃			16.0	19.7	
問18-1	狂犬病予防注射を受けている(毎年受けている+受けないことがある)人のうち、注射済票の装着が法律で義務付けられていることを知っていたと答えた人の割合	〃			43.3	63.9	
問19	猫の去勢や不妊手術を受けたと答えた人の割合	猫飼養者	73.5	74.1	87.9	81.0	※2)76.2
問20	猫のかかりつけ動物病院があると答えた人の割合(1つある+複数ある)	〃				79.3	
問22	猫に迷子札などをつけていると答えた人の割合	〃			50.0	31.1	※3)17.5
問23	猫を屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っていると答えた人の割合	〃		55.3	65.2	63.8	
問25	他人が飼っている犬や野良犬で困ったことがあると答えた人の割合	全員				49.6	
問27	野良猫や近所の猫で困ったことがあると答えた人の割合	〃		75.5	58.9	55.4	
問28	飼い猫について登録制を導入することについて賛成と答えた人の割合	〃				56.9	
問29	登録制ができた場合に自分の猫の登録手続きをすると答えた人の割合(飼っていない人は想定で回答)	〃				83.3	
問31	地域猫活動を知っていたと答えた人の割合(知っており、内容も理解していた+聞いたことはあったが、内容は知らなかった)	〃				22.9	
問32	地域猫活動に参加したいと答えた人の割合(参加したい+地域で取り組むなら参加する)	〃				26.7	
問33	自分の住む地域で地域猫活動を行うことに賛成と答えた人の割合	〃				80.4	
問34	近隣での犬や猫の多頭飼育による被害率	〃				10.3	
問35	一定数以上の犬猫を飼育する者に届出義務を課すなど規制することに賛成と答えた人の割合	〃				75.6	

※1)「すべての犬に手術をしている」+「一部の犬に手術をしている」の計

※2)「すべての猫に手術をしている」+「一部の猫に手術をしている」の計

※3)「すべての猫に明示している」+「一部の猫に明示している」の計

使用した調査票と全体結果

ペットに関する市民意識調査

調査ご協力のお願い

この調査は、犬、猫、鳥類、は虫類など、市民の皆さんが自宅で飼う動物、いわゆる「ペット」に関する考え方をお伺いし、今後の動物関係行政を推進するための基礎資料を得ることを目的としています。

あなたをこの調査の対象とさせていただきましたのは、住民基本台帳からの無作為抽出によるもので、他意は全くありません。調査は匿名で行い、ご回答いただいた内容など、個人の秘密の保持には十分配慮し調査を進めます。

お忙しい折とは存じますが、調査の主旨をご理解の上、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成26年5月

福岡市長 高島 宗一郎

ご記入に際してのお願い

1. この調査票は、対象者の方（封筒のあて名の方）に記入をお願いします。対象者の方が病気、障がい、高齢などで記入困難な場合は、家族の方が代理で記入して下さい。
2. 回答は、あてはまる項目の番号を○印で囲んで下さい。
3. 質問の順番については、各ページの **白抜き文字** をご確認ください。また、回答内容により回答者が限定される場合がありますので、各質問のカッコ書きや矢印（→）にご注意下さい。
4. 質問の中には、具体的な数や内容を答えてもらうものもあります。その際には（ ）内に直接数字などを記入して下さい。
5. 記入が終わりましたらお手数ですが、内容をご確認の上、同封の返信用封筒に入れて 5月28日（水）までにご投函下さい。
6. この調査は、（株）西日本リサーチ・センターに委託して実施しております。
7. 記入に際しての不明な点、疑問の点がありましたら、下記担当課まで遠慮なくお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】 〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号

福岡市保健福祉局生活衛生部 生活衛生課 担当：今田、藤沢

（電話）092-711-4273 （FAX）092-733-5588

1

全員にお聞きします。

問1 さっそくですが、あなた（回答者）のことについてお尋ねします。ア～クまでのそれぞれについて、1つずつ選んで下さい。（○はそれぞれ1つ）（N=1,091）

ア 性別	1. 男性 37.3	2. 女性 61.6	無回答 1.1
イ 年齢	1. 20代 9.5	3. 40代 18.8	5. 60歳以上 39.9
	2. 30代 15.0	4. 50代 16.4	無回答 0.4
ウ 職業	1. 職業あり 48.4	3. 主婦 27.1	5. その他 0.4
	2. 学生 1.8	4. 無職 19.9	無回答 2.4
エ 家族構成	1. 単身世帯 15.5	4. 三世代以上の世帯 4.0	
	2. 夫婦のみの世帯 29.5	5. その他 0.7	
	3. 親と子供の世帯（二世帯） 47.3	無回答 2.9	
オ 居住年数	1. 3年未満 16.2	4. 10～20年未満 19.0	
	2. 3～5年未満 8.3	5. 20～30年未満 14.2	
	3. 5～10年未満 17.0	6. 30年以上 19.2	無回答 6.1
カ 住宅の所有形式			
1. 持ち家（一戸建て）	34.7	6. 民間の借家（一戸建て）	2.7
2. 持ち家（マンションなどの共同住宅）	25.1	7. 民間の借家（アパート・マンション）	24.5
3. 市営住宅	4.1	8. 社宅・寮など（一戸建て）	0.1
4. 県営住宅	0.6	9. 社宅・寮など（アパート・マンション）	2.4
5. 公団・公社の賃貸住宅	4.4	10. その他	0.6
		無回答	0.6
キ お住まいの地域環境			
1. 住宅地（集合住宅が多い）	49.0	4. 工場や倉庫が多い地域	1.3
2. 住宅地（一戸建てが多い）	42.1	5. 緑が多い地域	3.0
3. 商業地・繁華街	3.2	無回答	1.4
ク お住まいの地域（行政区）			
1. 東区 22.2	3. 中央区 9.5	5. 城南区 8.7	7. 西区 15.5
2. 博多区 13.3	4. 南区 16.3	6. 早良区 14.1	無回答 0.4
郵便番号（封筒の宛名に記載）を			
記入して下さい。			
〒 81 <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>			

問2 あなたがもし犬猫を飼いはじめる場合、どこから入手しますか。(〇はいくつでも) (N=1,091)

1. 動物愛護管理センター	18.1	
2. ペットショップ	59.2	
3. ブリーダー (繁殖業者)	11.4	
4. 知人, 近所の人	32.9	
5. 動物愛護団体	8.2	
6. その他	2.6	無回答 11.0

問2-1 (問2で「1. 動物愛護管理センター」と回答されなかった方のみお答え下さい。) 動物愛護管理センターを選ばなかった理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。

(〇はいくつでも)

(n=774)

1. 方法がわからないから	56.7	
2. 手続きが面倒だから	11.0	
3. ペットショップなどで買う方がいいから	8.5	
4. 他人が飼っていた犬猫は嫌だから	4.1	
5. 性格や健康状態が分からないから	25.6	
6. 血統書がないから	4.3	
7. どんな犬猫に育つか分からないから	7.4	
8. その他	8.1	無回答 15.8

問3 あなたのご家庭では、何かペットを飼っていますか。飼っているものがあれば、いくつでも選び、合わせて飼っている動物の数(頭数, 匹数, 羽数)を記入して下さい。(〇はいくつでも、〇をつけた番号は数も記入)

(N=1,091)

1. 犬 (オス)	7.4	(1.12) 頭	} → 問4へ
2. 犬 (メス)	6.0	(1.11) 頭	
3. 猫 (オス)	3.7	(1.62) 頭	
4. 猫 (メス)	3.2	(1.94) 頭	
5. 鳥類	1.7	(1.63) 羽	
6. 魚類	7.0	(9.61) 匹	
7. は虫類	2.3	(1.42) 匹	
8. その他	1.6	(3.71) 頭	
9. いずれも飼っていない	69.3	→ 問5へ	無回答 3.9

2

ペットを飼っている方（問3で「1.」～「8.」と回答した方）にお聞きします。 ※ペットを飼っていない方は **3** へお進みください。

問4 ペットを飼っている理由は何ですか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。

(○はいくつでも)

(n=292)

1. 気持ちが安らぐから	60.3	
2. 子供の情操教育のため	17.5	
3. 育てるのが楽しいから	28.8	
4. 防犯に役に立つから	10.6	
5. 家族が動物好きだから	40.1	
6. 自分が動物好きだから	42.8	
7. 捨てられた動物を助けたいから	13.0	
8. 家庭内がうまくいくから	11.6	
9. その他	8.9	
10. わからない	1.4	無回答 7.9

3

ペットを飼っていない方（問3で「9. 飼っていない」と回答した方）にお聞きします。

問5 ペットを飼っていない理由は何ですか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。

(○はいくつでも)

(n=756)

1. 集合住宅、賃貸住宅などで、禁止されているから	40.1	
2. 自分を含め、家族の中にもペット嫌いがいるから	13.4	
3. 責任を持って世話をする人がいないから	21.4	
4. ペットの世話の仕方が分からないから	4.0	
5. 毎日の世話が何かと面倒だから	21.6	
6. 家の中が不潔になったり、においが付いたりするから	25.8	
7. 他人に何かと迷惑をかけることになるから	18.8	
8. お金がかかるから	17.9	
9. 病気になったり、死んだときのことを考えると、かわいそうだから	34.0	
10. ペットには関心がないから	11.1	
11. その他	10.3	
12. 特に理由はない	3.7	無回答 5.0

問6 今後、ペットを飼う予定はありますか。それはどのようなペットでしょうか。(○は1つだけ)

(n=756)

1. 飼う予定がある	3.4	
2. 飼いたい、飼うことができない	17.3	
3. 飼う予定はない	74.1	無回答 5.2

4

犬または猫を飼っている方（問3で「1.」～「4.」と回答された方）にお聞きします。 ※犬も猫も飼っていない方は **7** へお進みください。

問7 ご家庭で飼っている犬や猫を事情により飼えなくなった場合どのようにしますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（〇はいくつでも） (n=188)

1. 新しい飼い主を個人的に探す	72.9	
2. 万が一の時、飼ってもらえる人を決めている	20.2	
3. 動物愛護団体や動物病院、ペットショップに相談する	29.8	
4. 動物管理センターに引き取りを依頼する	8.5	
5. 他人が拾ってくれることを期待し、人目の付くところに置いてくる	—	
6. 自然の中などに放す	—	
7. その他	3.7	無回答 5.9

問8 犬猫などのペットを遺棄したものは100万円以下の罰金に処せられることを知っていましたか。（〇は1つだけ） (n=188)

1. 知っていた	25.0	2. 知らなかった	73.4	無回答	1.6
----------	------	-----------	------	-----	-----

問9 飼っている犬猫が行方不明になった場合、どのようにしますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（〇はいくつでも） (n=188)

1. 自分で近所を探す	95.2	5. 交番・警察署に連絡する	54.3
2. 張り紙などを掲示する	69.1	6. その他	7.4
3. 帰ってくるまで待つ	30.3		
4. 動物愛護管理センターに連絡する	57.4		無回答 1.6

問10 地震や原子力事故など、大きな災害が起き避難が必要となった場合、飼っている動物をどうしますか。（〇は1つだけ） (n=188)

1. 避難先に一緒に連れて行く	91.0	3. 近所に放す	3.2
2. 家に置いていく	4.8	4. その他	—
			無回答 1.1

問11 災害により避難する場合、飼っている動物と一緒に避難する同行避難が原則となっていることを知っていましたか。（〇は1つだけ） (n=188)

1. 知っていた	17.0	2. 知らなかった	81.9	無回答	1.1
----------	------	-----------	------	-----	-----

問12 災害が起きた場合に備え、ペットのための防災対策をしていますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（〇はいくつでも） (n=188)

1. エサやペットシートなどの備蓄	48.4	5. 避難場所や避難経路の確認	11.2
2. ケージやキャリーバッグの準備	41.0	6. 何もしていない	33.0
3. 人に迷惑をかけないようにしつけ	23.9	7. その他	—
4. 迷子札やマイクロチップの装着	13.8		無回答 2.7

5

犬を飼っている方（問3で「1.」～「2.」と回答された方）にお聞きします。 ※犬を飼っていない方は問19へお進みください。

問13 犬はどこで飼育していますか。（〇は1つだけ） (n=137)

- | | | |
|-----------|------------|------------------|
| 1. 屋外 8.8 | 2. 屋内 81.0 | 3. 屋外と屋内の両方 10.2 |
|-----------|------------|------------------|

問14 去勢や不妊手術を受けていますか。（〇は1つだけ） (n=137)

- | | | | |
|-------------|-----------------|------------------|---------|
| 1. 受けた 43.8 | 2. 受ける予定がある 5.1 | 3. 受ける予定はない 48.9 | 無回答 2.2 |
|-------------|-----------------|------------------|---------|

問15 適切なしつけをしていますか。（〇は1つだけ） (n=137)

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 十分しつけている | 40.1 |
| 2. 少しはしつけている | 54.0 |
| 3. あまりしつけていない | 5.1 |
| | 無回答 0.7 |

※適切なしつけとは（解説）

人間社会の中で人と犬が共に生活していくためのルールを犬に学ばせることです。

具体的には、むだぼえをさせない、散歩のときの引っ張り癖の防止、人やほかの犬を咬んだりしないといったことがあります。

問16 かかりつけの動物病院はありますか。（〇は1つだけ） (n=137)

- | | | | |
|--------------|--------------|-----------|---------|
| 1. 1つある 85.4 | 2. 複数ある 10.2 | 3. ない 3.6 | 無回答 0.7 |
|--------------|--------------|-----------|---------|

問17 飼い犬を福岡市へ登録していますか。（〇は1つだけ） (n=137)

- | | | |
|----------------|------|----------------|
| 1. 登録している | 80.3 | → 問17-1～問17-2へ |
| 2. 登録していない犬もいる | 2.2 | → 問17-1～問17-4へ |
| 3. 登録していない | 15.3 | → 問17-4へ |
| | | 無回答 2.2 |

問17-1（福岡市へ犬を登録している方（問17で「1.」または「2.」と回答された方）のみお答え下さい。）

鑑札の装着が法律で義務づけられていることを知っていましたか。（〇は1つだけ）(n=113)

- | | | |
|---------------|----------------|---------|
| 1. 知っていた 65.5 | 2. 知らなかった 33.6 | 無回答 0.9 |
|---------------|----------------|---------|

問17-2（福岡市へ犬を登録している方（問17で「1.」または「2.」と回答された方）のみお答え下さい。）

犬を登録した時に交付される鑑札（右写真）を装着していますか。（〇は1つだけ）(n=113)

- | | | |
|------------|------|----------|
| 1. 装着している | 18.6 | → 問18へ |
| 2. 装着していない | 80.5 | → 問17-3へ |
| | | 無回答 0.9 |

犬の鑑札（福岡市）



問17-3（鑑札を装着していない方（問17-2で「2. 装着していない」と回答された方）のみお答え下さい。）

装着しない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（〇はいくつでも）(n=91)

- | | | | |
|-------------|------|------------------|---------|
| 1. 首輪をしない | 30.8 | 4. ほかに迷子札等を着けている | 8.8 |
| 2. 鑑札が大きすぎる | 26.4 | 5. 逃亡のおそれがない | 36.3 |
| 3. 鑑札の格好が悪い | 12.1 | 6. 紛失すると困る | 28.6 |
| | | | 無回答 6.6 |

問 17-4 (福岡市へ犬を登録をしていない方(問 17 で「2. 」または「3. 」と回答された方)のみお答え下さい。)登録しない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)
(n=24)

1. 義務だと知らなかったから	66.7	3. 面倒だから	12.5	
2. お金がかかるから	12.5	4. その他	16.7	無回答 12.5

問 18 狂犬病の予防注射を受けていますか。(〇は1つだけ) (n=137)

1. 毎年受けている	73.0	→ 問 18-1~問 18-2 へ	
2. 受けないことがある	16.1		
3. 受けていない	9.5	→ 問 18-4 へ	無回答 1.5

問 18-1 (問 18 で「1. 毎年受けている」または「2. 受けないことがある」と回答された方のみお答え下さい。)注射済票の装着が法律で義務づけられていることを知っていましたか。(〇は1つだけ)
(n=122)

1. 知っていた	63.9	2. 知らなかった	34.4	無回答 1.6
----------	------	-----------	------	---------

問 18-2 (問 18 で「1. 毎年受けている」または「2. 受けないことがある」と回答された方のみお答え下さい。)狂犬病予防注射済票(右写真。以下「注射済票」とします)を装着していますか。
(〇は1つだけ) (n=122)

1. 装着している	19.7	→ 問 19 へ	
2. 装着していない	77.0	→ 問 18-3 へ	無回答 3.3



問 18-3 (注射済票を装着していない方(問 18-2 で「2. 装着していない」と回答された方)のみお答え下さい。)装着しない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。
(〇はいくつでも) (n=94)

1. 首輪をしない	33.0	5. 逃亡のおそれがない	34.0
2. 注射済票が大きい	27.7	6. 紛失すると困る	22.3
3. 注射済票の格好が悪い	9.6	7. その他	12.8
4. ほかに迷子札等を着けている	5.3		無回答 6.4

問 18-4 (狂犬病予防注射をしていない方(問 18 で「3. 受けていない」と回答された方)のみお答え下さい。)注射を受けていない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。
(〇はいくつでも) (n=13)

1. 義務と知らなかったから	23.1	3. 面倒だから	7.7
2. お金がかかるから	7.7	4. その他	69.2

6

猫を飼っている方（問3で「3.」～「4.」と回答された方）にお聞きします。 ※猫を飼っていない方は問25へお進みください。

問19 猫の去勢や不妊去勢手術を受けていますか。（○は1つだけ） (n=58)

1. 受けた 81.0 2. 受ける予定がある 1.7 3. 受ける予定はない 1.7 無回答 15.5

問20 かかりつけの動物病院はありますか。（○は1つだけ） (n=58)

1. 1つある 67.2 2. 複数ある 12.1 3. ない 5.2 無回答 15.5

問21 猫のトイレの「しつけ」について、あてはまるものを1つだけ選んで下さい。（○は1つだけ） (n=58)

1. 必ず家の中の猫用トイレでさせている 70.7
2. 家の中と庭などを併用させている 13.8
3. 特にしつけはしていない — 無回答 15.5

問22 迷子札など猫につけていますか。あてはまるものを1つだけ選んで下さい。（○は1つだけ） (n=58)

1. 首輪と迷子札をつけている 5.2
2. 首輪に名前や連絡先を書いている 5.2
3. 首輪だけつけている 19.0
4. マイクロチップを装着している 1.7
5. 何もつけていない 53.4 無回答 15.5

→ 問23へ
→ 問22-1へ

問22-1（問22で「5. 何もつけていない」と回答された方のみお答え下さい。）迷子札などをつけない理由について、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（○はいくつでも） (n=31)

1. 屋内で飼っているから 77.4 4. 面倒だから —
2. 猫が嫌がるから 22.6 5. お金がかかるから 6.5
3. 引っかかるなどして、猫があぶないから 22.6 6. その他 6.5 無回答 3.2

問23 あなたは、どのように猫を飼っていますか。あてはまるものを1つだけ選んで下さい。（○は1つだけ） (n=58)

1. 屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている 63.8
2. 散歩やトイレの時などに限り屋外に出すように管理している 5.2
3. 猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている 12.1
4. 屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている 1.7 無回答 17.2

問24 近隣の方に飼い猫のことで迷惑をかけていると思いますか。（○は1つだけ） (n=58)

1. 迷惑はかけていない 55.2 → 問25へ
2. 何かしら迷惑をかけている 20.7 → 問24-1へ
3. わからない 8.6 → 問25へ 無回答 15.5

問 24-1 (問 24 で「2. 何かしら迷惑をかけている」と回答された方のみお答え下さい。)迷惑をかけていると思われる理由をいくつでも選んでください。(〇はいくつでも) (n=12)

1. 糞(ふん)・尿	—	4. 鳴き声	75.0
2. ゴミを荒らす	—	5. 他人の財産(家の壁, 自動車等)を汚したりキズつけたりする	8.3
3. 臭い	8.3	6. その他	25.0

7 再び全員にお聞きします。

問 25 他人が飼っている犬や野良犬で困ったことはありますか。(〇は1つだけ) (N=1,091)

1. ある	49.6	→	問 25-1~問 25-3へ	2. ない	46.7	→	問 26へ	無回答	3.7
-------	------	---	----------------	-------	------	---	-------	-----	-----

問 25-1 (問 25 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。)困ったことの原因として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも) (n=541)

1. 糞(ふん)・尿	84.1	3. 毛の飛散	13.1	5. かまれた	8.9	
2. 鳴き声	44.9	4. 放し飼い	27.2	6. その他	6.1	
					無回答	1.1

問 25-2 (問 25 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。)他人の犬や野良犬に困った時にどう対処したか、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも) (n=541)

1. 飼い主に注意した	16.6	3. 町内会・管理組合などに相談した	12.6	
2. 行政窓口で相談した	3.7	4. その他	45.1	
			無回答	25.5

問 25-3 (問 25 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。)犬で困ることが起こる原因は何だと思いませんか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも) (n=541)

1. 飼い主が正しい飼い方をしていないから	71.9	
2. 犬で困っている人がいることを飼い主が気付かないから	51.0	
3. 飼い主に適正な飼養をするよう、行政からの啓発が足りないから	24.2	
4. 野良犬がいるから	8.5	
5. その他	3.3	
無回答		8.1

問 26 あなたは、猫の飼い方についてどのようにお考えになりますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも) (N=1,091)

1. 猫の健康上、放し飼いの方がよい	4.4	
2. 猫の習性から放し飼いはしかたがない	17.1	
3. 事故にあったり、病気にかかったりするので屋内で飼う方がよい	31.0	
4. 他人の敷地内などにふん尿をするなど迷惑となるので屋内で飼うべき	49.6	
5. 飼い主の責任で自由に飼う方がよい	12.6	
6. 放し飼いか屋内飼いかは飼い主の判断で決めればよい	13.2	
7. その他	3.4	
8. わからない	10.4	
無回答		9.6

問 27 野良猫や近所の猫で困ったことはありますか。(○は1つだけ)

(N=1,091)

1. ある **55.4** → 問 27-1~問 27-3へ 2. ない **39.3** → 問 28へ 無回答 **5.3**

問 27-1 (問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。)困ったことがある理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(○はいくつでも) (n=604)

1. 糞 (フン)・尿	75.7	6. ノミ	6.0
2. ゴミを荒らす	48.2	7. 財産 (家の壁, 自動車等) を汚したり	
3. 毛の飛散	9.3	キズつけたりされた	14.2
4. 敷地内に子猫を生んでしまった	22.0	8. その他	5.5
5. 鳴き声	46.0		無回答 1.2

問 27-2 (問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。)野良ネコや近所の猫で困ったときにどう対処したか、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(○はいくつでも) (n=604)

1. 自分で工夫した	36.3	4. 飼い主に注意した	4.5
2. 行政窓口相談した	3.8	5. 町内会・管理組合などに相談した	5.3
3. 動物病院に相談した	—	6. 我慢した	69.9
			無回答 3.6

問 27-3 (問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。)猫で困ったことがなくなる原因は何だと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(○はいくつでも) (n=604)

1. 屋内で飼育しないから	37.9
2. 猫で困っている人がいることを飼い主が気付かないから	47.7
3. 飼い主に適正な飼養をするよう、行政からの啓発が足りないから	20.0
4. 野良猫が増えているから	43.7
5. 野良猫にエサだけをあたえたりするから	50.7
6. 犬の登録制のような法的規制がないから	35.9
7. その他	1.7
	無回答 4.5

問 28 飼い猫について犬と同様に登録制を導入することについてどう思いますか。(○は1つだけ)

(N=1,091)

1. 賛成	56.9	→ 問 29へ
2. 反対	4.9	→ 問 28-1へ
3. わからない	33.2	→ 問 29へ
		無回答 4.9

問 28-1 (問 28 で「2. 反対」と回答された方のみお答え下さい。)反対の理由について、あてはまるものをいくつでも教えてください。(○はいくつでも) (n=54)

1. 登録制にしても迷惑防止にならないから	46.3
2. 登録しない人が多いと思うから	40.7
3. 必要性を感じないから	51.9
4. 猫を飼うための手続きが面倒になるから	18.5
5. 登録のない猫がどうなるか心配だから	42.6
6. その他	5.6

問 29 もし、登録制ができたとき、あなたは自分の猫の登録手続きをしますか。猫を飼っておられない方は飼っていると想定してお答えください。(〇は1つだけ) (N=1,091)

1. する 83.3	2. しない 8.7	無回答 8.0
------------	------------	---------

問 30 まちの中に野良ネコがいることをどう思いますか。(〇は1つだけ) (N=1,091)

1. いいことだと思う 1.9	3. あまりよく思わない 44.6	
2. いてもよい 25.8	4. いなくなったほうがよい 22.5	無回答 5.0

～ここからは地域猫活動*についてのご意見をおたずねします。～

※地域猫活動とは(解説)

野良猫による問題を地域の課題としてとらえ、地域で解決するために住民が共通理解をしたうえで行う活動です。これ以上子猫が生まれないように野良猫に不妊去勢手術を行ったり、トイレ清掃や場所、時間を決めたエサやりなど、一定のルールを決めて、猫を一代限りで飼育するものです。

問 31 あなたは、地域猫活動を知っていましたか。(〇は1つだけ) (N=1,091)

1. 知っており、内容も理解していた 9.4	
2. 聞いたことはあったが、内容は知らなかった 13.5	
3. 知らなかった 74.8	無回答 2.3

問 32 あなたは地域猫活動に参加したいと思いますか。(〇は1つだけ) (N=1,091)

1. 参加したい 3.1	3. できれば参加したくない 25.6
2. 地域で取り組むなら参加する 23.6	4. 参加したくない 44.5
	無回答 3.3

問 33 あなたは、自分の住む地域において、野良ネコの問題が起こったときの対策として、地域猫活動を行うことをどう思いますか。(〇は1つだけ) (N=1,091)

1. 賛成 80.4 → 問 33-1 へ	2. 反対 13.2 → 問 33-2 へ	無回答 6.4
-----------------------	-----------------------	---------

問 33-1 (問 33 で「1. 賛成」と回答された方のみお答え下さい。)地域猫活動に賛成の理由について、あてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも) (n=877)

1. 野良猫が減るから 56.4	
2. 糞尿やゴミ袋をあさるなどの猫問題が減るから 63.9	
3. 猫を殺さずに問題解決できるから 67.4	
4. 地域の問題は地域で解決すべきだから 16.4	
5. 地域コミュニティの活性化につながるから 10.9	
6. その他 1.5	無回答 0.7

問 33-2 (問 33 で「2. 反対」と回答された方のみお答え下さい。)地域猫活動に反対の理由について、
あてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも) (n=144)

1. 野良猫が減らないから	26.4	
2. 捨て猫が増えるから	53.5	
3. 野良猫を不妊去勢するのはかわいそうだから	13.9	
4. 地域で取り組むべき問題ではないから	25.0	
5. 時間や労力がかかるから	31.9	
6. 地域住民の対立が生じるから	25.7	
7. その他	17.4	無回答 4.2

～最後に、十分に世話できないほどの数の犬猫を飼育する「多頭飼育」
についてのご意見をおたずねします。～

問 34 近隣での犬や猫の多頭飼育が原因で困った経験はありますか。(〇は1つだけ) (N=1,091)

1. はい 10.3	2. いいえ 87.2	無回答 2.6
------------	-------------	---------

問 35 近隣への迷惑防止や飼い主の適正飼育を促すため、一定数以上の犬猫を飼育する者に届出義務
を課すなど規制することについてどう思いますか。(〇は1つだけ) (N=1,091)

1. 賛成	75.6	→ 質問はここまでです	
2. 反対	3.1	→ 問 35-1 へ	
3. わからない	19.1	→ 質問はここまでです	無回答 2.2

問 35-1 (問 35 で「2. 反対」と回答された方のみお答え下さい。)反対の理由について、あてはまるも
のをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも) (n=34)

1. 届出制にしても迷惑防止にならないから	50.0	
2. 届け出ない人が多いと思うから	61.8	
3. 必要性を感じないから	35.3	
4. 手続きが面倒だから	2.9	
5. 何頭飼おうが個人の自由だから	38.2	
6. 飼われている犬猫にとっていいことかどうかわからないから	17.6	
7. その他	14.7	無回答 2.9

これで全ての質問が終わりました。お忙しいところ調査にご協力いただきありがとうございました。

いま一度記入もれや、記入まちがいがいがないかお確かめのうえ、同封の返信用封筒に入れてご返送下さい。

ペットに関する市民意識調査
報告書

平成26年6月

発行 福岡市保健福祉局生活衛生部生活衛生課
〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号
TEL：092-711-4273
FAX：092-733-5588